Pioneer sound.vision.soul

AVマルチチャンネルアンプ

VSA-D2011

AUDIO/VIDEO MULTI-CHANNEL AMPLIFIER

ホームシアター入門
各部名称
接続
サラウンド設定
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

お客様登録のご案内

http://www3.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての**「お客様登録」**をお願いいたします。ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報などのご案内をさせていただきます。
また、ご登録いただきますとIDが発行され、お役に立つ情報満載のお客様専用ページにアクセスすることができます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。

新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

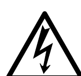


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



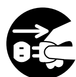
⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

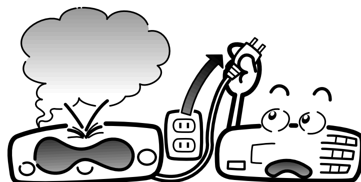
⚠警告

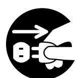
〔異常時の処置〕



プラグを抜け

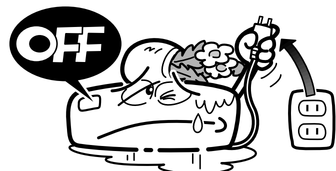
● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。





プラグを抜け

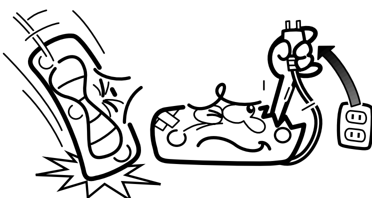
● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。





プラグを抜け

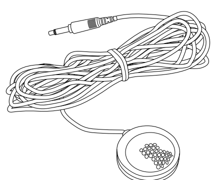
● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



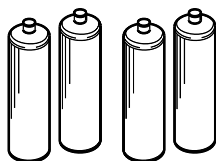
付属品を確認する



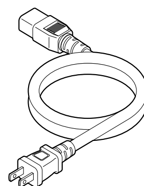
リモコン



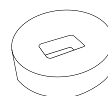
オートセットアップ用マイク



単3形アルカリ乾電池（LR6）×4



電源コード



オートセットアップ用マイクスタンド

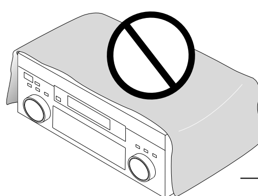
- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 保証書

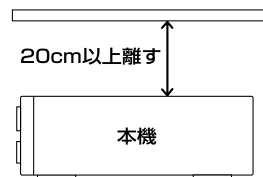
設置について



放熱性を十分に確保してください。異常発熱は故障や事故の原因となります。

- 本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対にお止めください。
- ラック等に設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。

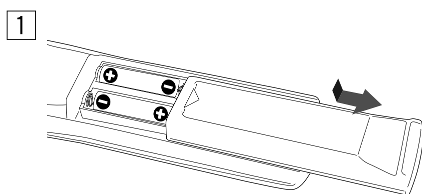




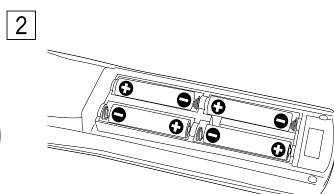
リモコンの準備

リモコンに電池を入れる

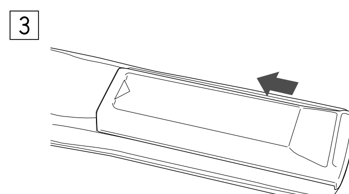
1



2



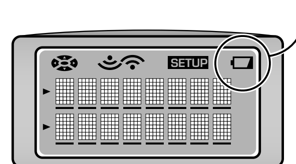
3



メモ

- 電池を交換するときは、なるべく5分以内に交換することをおすすめします。5分以内に交換しないと、各種リモコン設定が解除される可能性があります。設定が解除されてしまった場合は、再度設定し直してください（➡ P.57 ～ P.71）。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください（4本とも新しい単3形アルカリ乾電池をお使いください）。

電池の残りが少ない目安です





電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

- 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

目　次

準　備

ホームシアター入門

各部の名称と主な働き

接続

サラウンドの設定

基本操作

目　次

応用操作

リモコンによる他機器の操作

リモコンの便利な機能

System Setupの使いこなし

応用システムの使いこなし

技術資料

その他

目　次

目　次

特長

Advanced Multi-Channel Stereophonic思想

モノラルから2chへ、2chからマルチchへ。目指すもの、その進化の背景はリアルな立体音響(ステレオフォニック)の追求に他ならない。当社が長年培ってきたエクスクルーシヴを頂点とするオーディオ技術の継承と、洗練されたデジタル技術によって、ハイクオリティーなマルチchソースに込められたアーティストの熱意や魂まで伝わるリアルな空間を創出させる。

思想実現のための3ステップ
① **高音質・高S/N・全ch等価設計**
② **音場補正技術の開発**
③ **スタジオエンジニアとの共同音質チューニングの実施**

高音質・全ch等価設計

- **「コンセントレーテッド・ダイレクト・コンストラクション採用」**
  ：各回路ブロック間の信号相互干渉を徹底的に排除した新構造。
- **「3次元フレーム」構造**
  ：強化板金ステイを立体的に組み合わせた高剛性シャーシ構造。
- **「強力電源部」**
  ：大電力供給を可能にした(高レギュレーショントランス、大容量電解コンデンサ)採用。
- **「シンメトリカル・パワートレイン・デザイン」採用**
  ：全ch同一条件を実現。
- **「A.D.E MOS FET(Advanced Direct Energy MOS FET)採用**
  ：圧倒的な力感とハイスピードな音を両立させる新出力デバイスを7ch全てに搭載。

音場補正技術

- **「MCACC(Mulch-channel Acoustic Calibration System)」搭載**
  ：聴感のみでは正確な調整が難しいマルチチャンネル(サラウンド)セットアップを自動化。制作現場で行われる調整技術を家庭内で実現するため、音場を正確に測定、チャンネル間の空間情報の歪みを補正。



- **「エアースタジオ」のプロフェッショナルエンジニアとの共同音質チューニングを実施。**

ユニバーサルプレーヤー対応(DVD-Audio・SACD)

- **「独立8chマルチチャンネルイン端子」搭載**
- **高S/N、高ダイナミックレンジ設計世代を見据えた新規格・新デジタル・フォーマット対応**

次世代を見据えた新規格・新デジタル・フォーマット対応

- **次世代マルチチャンネルフォーマット対応：高音質フォーマット「DTS96/24」デコーダー搭載。**
  ：BSデジタル標準音声「MPEG-2 AAC」、「Dolby Digital EX」、「Dolby Pro Logic II」、「DTS ES」等にも対応。
- **高画質フォーマット対応**
  ：「コンポーネントビデオ端子」、「D4 端子」装備。高画質プログレッシブ映像(720p)に対応。

オーディオ・スケーラー(ハイビット/ハイサンプリング機能)

- **CDやDVDなどの音声信号に対し、ダイナミックレンジの拡大、および周波数方向の広帯域化を行い高音質化します。**

USB オーディオ接続

- **「USBオーディオ入力端子」**：パソコンと接続により、USBオーディオに対応。

LCD イルミネーションリモコン

- **他機器のプリセットコード、学習機能搭載**：他社製品も簡単操作。
- **カスタム編集機能の充実**：マクロ機能、キーラベル編集など。
- **自照キー方式**：暗めの照明でも確実な操作が可能。

省エネルギー(待機時消費電力　0.6W)設計

ホームシアター入門のメニュー

Step1

デジタルサラウンド体験への近道

① DVDプレーヤーとモニターTVの接続
② スピーカーの設置と接続 ➡ P.8
③ DVDのデジタルサラウンド再生 ➡ P.9

Step2

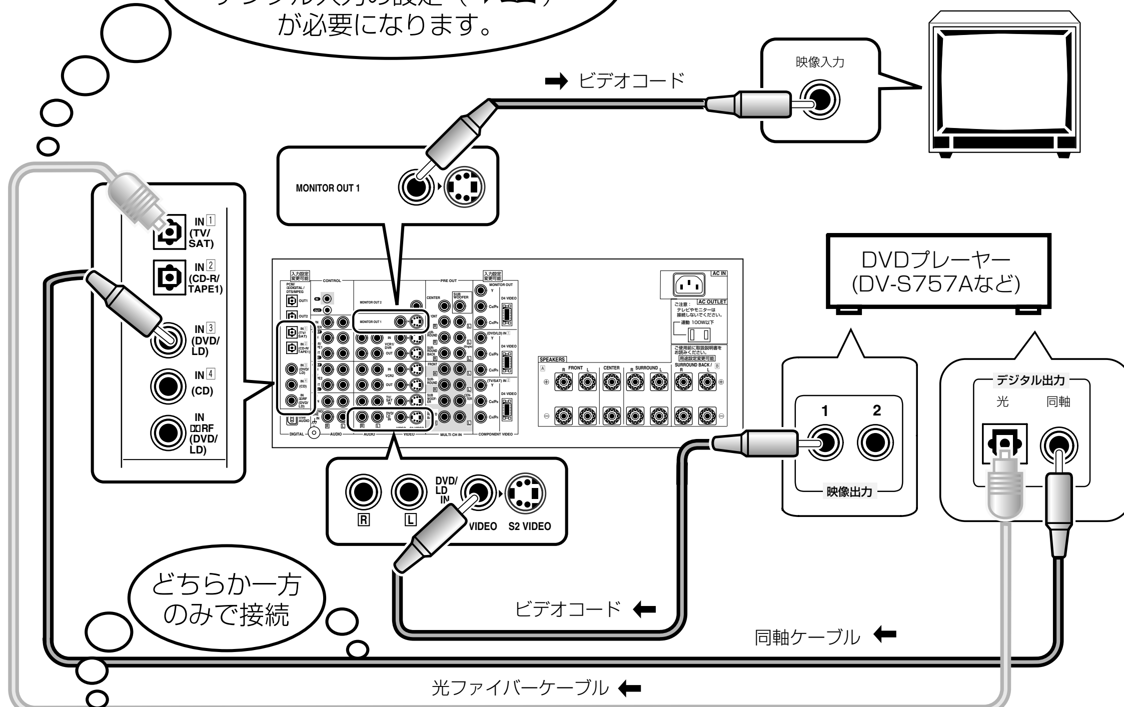
オートセットアップでワンランク上のサラウンドへ

① オートセットアップ用マイクを接続する ➡ P.10
② オートセットアップ（自動測定） ➡ P.11
③ 測定結果の確認 ➡ P.13
④ より深くサラウンドを楽しむために ➡ P.13

1 DVDプレーヤーとモニターTVの接続（機器の接続を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

用意していただくケーブル

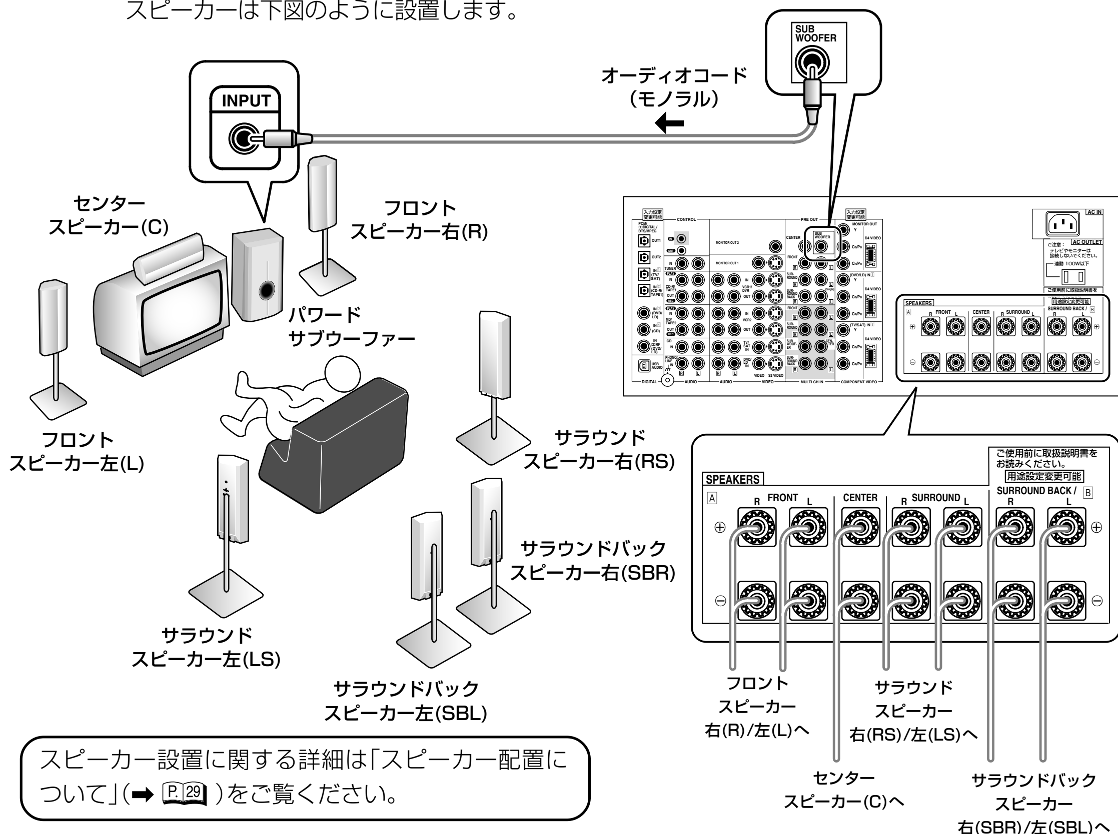
- 同軸ケーブル（または光ファイバーケーブル）
- ビデオコード2本
- オーディオコード（モノラル）1本
- スピーカーコード



メモ その他のソース機器の接続は「接続」をご覧ください。（➡ P.19 ～ P.31）

❷ スピーカーの設置と接続（機器の接続を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

ここでの接続では、オーディオコード1本とスピーカーコードが必要です。
スピーカーは下図のように設置します。

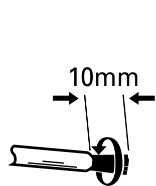


スピーカー設置に関する詳細は「スピーカー配置について」(➡ P.29)をご覧ください。

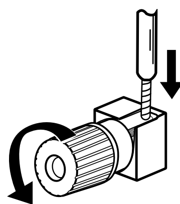
メモ 本機は最大スピーカー7本とサブウーファーを接続することができますが、上記以外の接続(例えばセンタースピーカー無し)の場合は、「スピーカーシステムの設定」でスピーカーの有り/無しの設定が必要です(➡ P.37)。(「ホームシアター入門」step2➡ P.10 にてオートセットアップを行うと、「スピーカーシステムの設定」も自動で設定されます)

■SPEAKER(スピーカー)端子

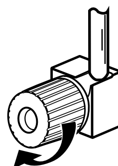
① 線をねじる。



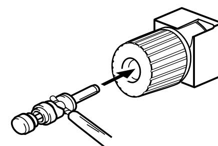
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。



③ スピーカー端子を締めつける。



バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)





スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじって、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がスピーカー端子からはみ出してリアパネルに接触したり、+/−が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

③ DVDのデジタルサラウンド再生

1 **本機の電源コードを接続し、本機の電源をONにします。**
Ⓐボタンを押して▬ONにしてから Ⓑボタンを押して電源をONにします。

2 **DVDプレーヤー、サブウーファー、テレビの電源をONにします。**
テレビにある入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定します。

3 **マルチジョグを回して、DVD/LDを選びます。（工場出荷時はDVD/LDです）**

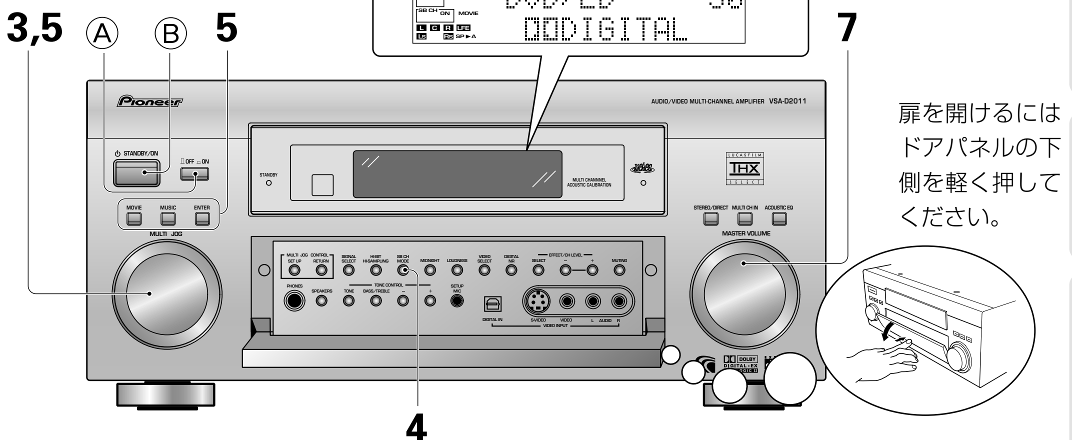
4 **SB CH MODEボタンを押してサラウンドバックチャンネルをONにします。（工場出荷時はAUTOです➡ P.44 ）**
「AUTO」の場合は6.1ch再生検出信号を含んだソースのときのみ最大7.1chでの再生します。

5 **MOVIEボタンを押してからマルチジョグを回して「DD PL II MOVIE」を選択し、ENTERボタンで決定します。（工場出荷時は DD PL II MOVIEです➡ P.43 P.45 ）**

6 **DVDを再生します。**
DVDソフトに複数の音声が収録されているときは、お好みの音声（例えばDDDIGITALなど）を選びます。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 **音量を調整します。**

表示内容はソースの種類やリスニングモードなどによって変わります。





・接続したスピーカーから音が出ない場合はもう一度最初から確認するか、「接続」（➡ P.19 ～ P.31 ）、「故障？ちょっと調べてみてください」（➡ P.101 ～ P.105 ）をご覧ください。
・音を出すことはできても、思った通りにサラウンド再生できないときは「サラウンド再生がうまくいかないとき」（➡ P.105 ）をご覧ください。

8 **STEP2へお進みください。オートセットアップでワンランク上のサラウンド再生をしましょう。**

ホームシアター入門　Step2　～オートセットアップでワンランク上のサラウンドへ～

オートセットアップで設定する

本機のオートセットアップでは従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、付属のオートセットアップ用マイクを使い自動で高精度に測定、設定することができます。
測定中はスピーカーからテストトーンが出力され、その音を付属のオートセットアップ用マイクが拾い、解析します。測定項目と全体の流れは以下の通りです。

初期測定（測定設備のチェック）
① 暗騒音（部屋の騒音）の測定
② マイク感度の診断
③ 各chのスピーカー有り無し判定


初期測定結果確認へ

スピーカーの有り無し判定結果のユーザー確認（または修正）

音場補正へ

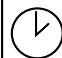
システム全体の解析測定
④ スピーカーシステム
（各スピーカーの低域再生能力判定）
⑤ スピーカーからの距離
（最適なディレイ値を解析）
⑥ スピーカーの出力レベル
（各chの出力バランスを補正）
⑦ 視聴環境の周波数特性
（出力音声の音色を統一）


システム全体の解析結果確認へ

システム全体の解析結果のチェック



テストトーンはやや大きな音なので、夜間の測定や小さなお子様はリスニングルームに立ち入らせないなどご配慮ください。

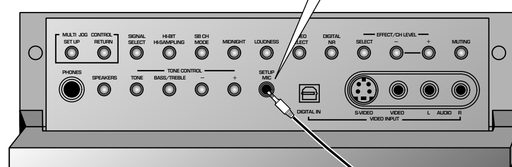

合計
3～6分程度

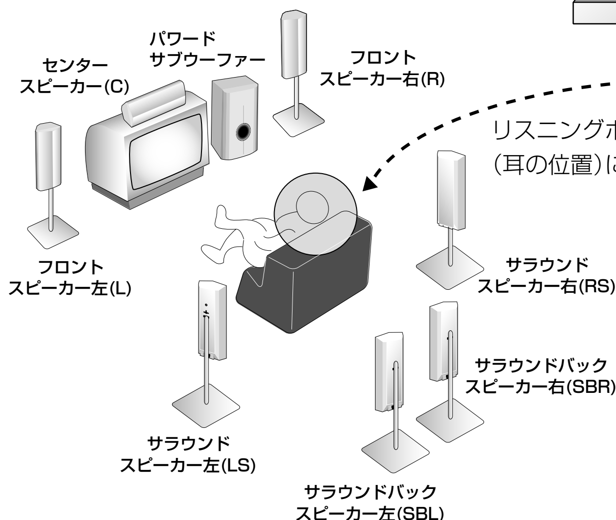
1 オートセットアップ用マイクを接続する



測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。

本機のSETUP MICジャックに付属のオートセットアップ用マイクのコードを差し込みます





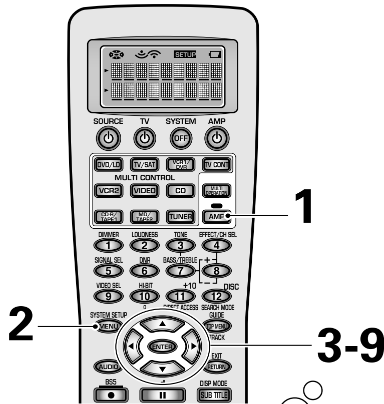
リスニングポジション（耳の位置）に設置します。

オートセットアップ用マイクスタンド

オートセットアップ用マイク

設置するときは必ず付属のマイクスタンドを使い、水平な台の上にのせてください。

2 オートセットアップ（自動測定）



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

3
System Setup
▶[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

4
1.Surround Setup
[SurrBack System]
▶ [Auto Setting]
[Quick]
[Normal]
[Expert]
[Exit]

4
Auto Surround Setup
・Set microphone
・Turn on subwoofer
▶ [Start]
[Cancel]

メモ

- 設定の途中で静止画面を3分間放置すると自動的にシステムセットアップを終了します。
- 自動測定中の静止画面（確認画面やエラーメッセージなど）を3分間放置したり、CANCELを行ったときはそれまでの内容は設定されません。
- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーとリスニングポジションの間にある障害物を取り除いてください。
- 付属のオートセットアップ用マイクをTVモニターの近くに置いてオートセットアップを行わないでください。
- **OSD画面は本機リアパネルのMONITOR OUT1端子にコンポジットビデオまたはSビデオコードで接続しないと出ません。**

1 AMP

リモコンをアンプ操作モードにする。
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

2 SYSTEM SETUP MENU

システムセットアップモードにする。
テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

3 **▲ ▼ ボタンで[1.Surround Setup]を選びENTERボタンで決定する。**
サラウンドセットアップになります。

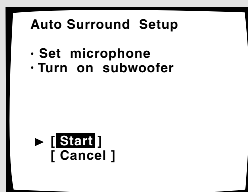
4 **▲ ▼ ボタンで[Auto Setting]を選びENTERボタンで決定する。**
オートサラウンドセットアップモードになり、自動測定の開始画面（注意事項）が表示されます。

自動設定時におけるOSD画面のメッセージの意味
・付属のオートセットアップ用マイクを接続して、リスニングポジションに配置してください。
・サブウーファーを接続している場合は電源を入れてボリュームを上げておいてください。

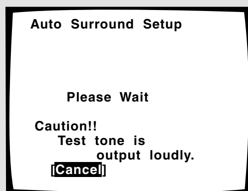
～ご注意～
手順5にてENTERボタンを押し、オートサラウンドセットアップを開始すると数秒後にテストトーンが大きな音で出力されます。０ｄＢになってからマスターボリュームを下げることでテストトーンの音を小さくすることもできますが、正しく設定されない場合があります。小さなお子様が近くにいる場合などはご注意ください。

以下はOSD画面(テレビ画面)です

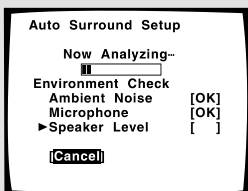
5



自動的にボリュームを0dBに設定

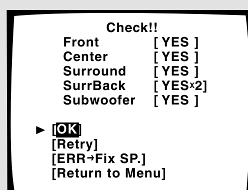


測定画面へ

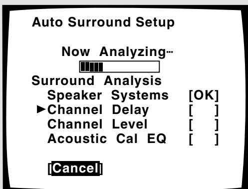


確認画面へ

6

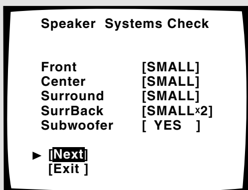


7



確認画面へ

8



5 ▲▼ボタンで[Start]を選びENTERボタンで決定する。

オートサラウンドセットアップが開始されます。まずは初期測定(測定設備チェック)です。この自動測定は数十秒で終わりますので、手順6の画面になるまでしばらくお待ちください。
「Ambient Noise」:暗騒音(部屋の騒音)の測定をします
「Microphone」:マイクの感度を診断します
「Speaker Level」:各スピーカーの有り無し判定をします

6 スピーカー有り無し判定結果の確認画面になります。判定結果が合っている場合は▲▼ボタンで「OK」を選びENTERボタンで決定する。

次の自動設定が始まります。手順7へお進みください。

判定結果が間違っていて、もう一度自動測定を試す場合は▲▼ボタンで[Retry]を選びENTERボタンで決定します。

手順5へ戻ります。

判定結果が間違っていて、手動で設定し直す場合は▲▼ボタンで[ERR→Fix SP.]を選びENTERボタンで決定します。

設定が間違っているチャンネルを▲▼**ボタン**で選び**ENTERボタン**で決定し、▲▼**ボタン**で正しい設定に直した後に**ENTERボタン**で決定します。
すべてのチャンネルを正しく設定したら▲▼**ボタンで**[OK]を選んで**ENTERボタン**で決定します。



判定結果で[ERR]が表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。[Retry]しても結果が同じような場合は一度電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。また、途中で測定エラーによる警告が表示されている場合がありますので、そのときは画面の指示にしたがってください。

7 補正用測定が開始されます。

「Speaker Systems」:各スピーカーの低域再生能力判定
「Channel Delay」:最適なディレイ値を解析
「Channel Level」:各chの出力バランスを補正
「Acoustic Cal EQ」:出力音声の音色を統一
これらの自動設定には接続しているスピーカーの数によって3 ~5 分程度かかりますので、手順8 の画面になるまでしばらくお待ちください。

8 「Speaker Systems Check」の画面が表示されたら自動測定は終了です。

次ページ ③ 測定結果の確認にお進みください。



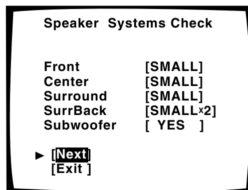
設定の途中でOSD画面に何かメッセージが表示された場合は「自動設定時におけるOSD画面のメッセージの意味」(➡ P.105)をご覧ください。

3 測定結果の確認

1 ENTERボタン(ENTER)を押して、測定された内容を以下の順に確認する。

・途中で確認画面を終了するときは▲▼ボタンで[Return]を選びENTERボタンを押します。

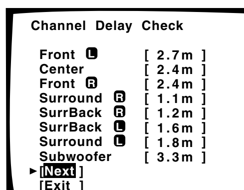
スピーカーシステム ➡ P.37
(各スピーカーの低域再生能力判定)



➡



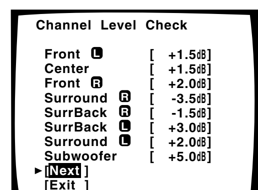
スピーカーまでの距離 ➡ P.40
(最適なディレイ値を解析)



➡

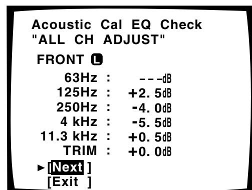


スピーカーの出力レベル ➡ P.39
(各chの出力バランスを補正)





視聴環境の周波数特性 ➡ P.50 P.82
(出力音声の音色を統一)



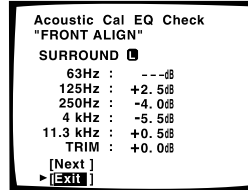
ALL CH ADJUST補正
フロント左チャンネル

➡ ENTER

・・・・・・・・・・

2種類の補正カーブ(ALL CH ADJUSTとFRONT ALIGN)について各チャンネルの測定結果が順次表示されます。

視聴環境の周波数特性 ➡ P.50 P.82
(出力音声の音色を統一)



FRONT ALIGN補正
サラウンド左チャンネル

最後の画面で ENTER を押すと、Surround Setupのメニュー画面に戻ります。

ALL CH ADJUSTとは：すべてのチャンネルにおいて調整を行うことができます。部屋の特性を含めて、サブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性をフラットに補正します。
FRONT ALIGNとは：フロント左/右(L/R)以外のチャンネルにおいて調整を行うことができます。フロント左/右(L/R)とサブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性を、フロントchの特性に合わせます。

2 **▲▼ボタンで[Exit]を選びENTERボタンを押す。**
Surround Setupが終了し、通常動作に戻ります。

3 **もう一度▲▼ボタンで[Exit]を選びENTERボタンを押す。**
System Setupが終了し、通常動作に戻ります。
このとき、アコースティックキャリブレーションEQが自動的にALL CH ADJUSTでONになり、MCACCインジケーターが点灯します。

4 より深くサラウンドを楽しむために

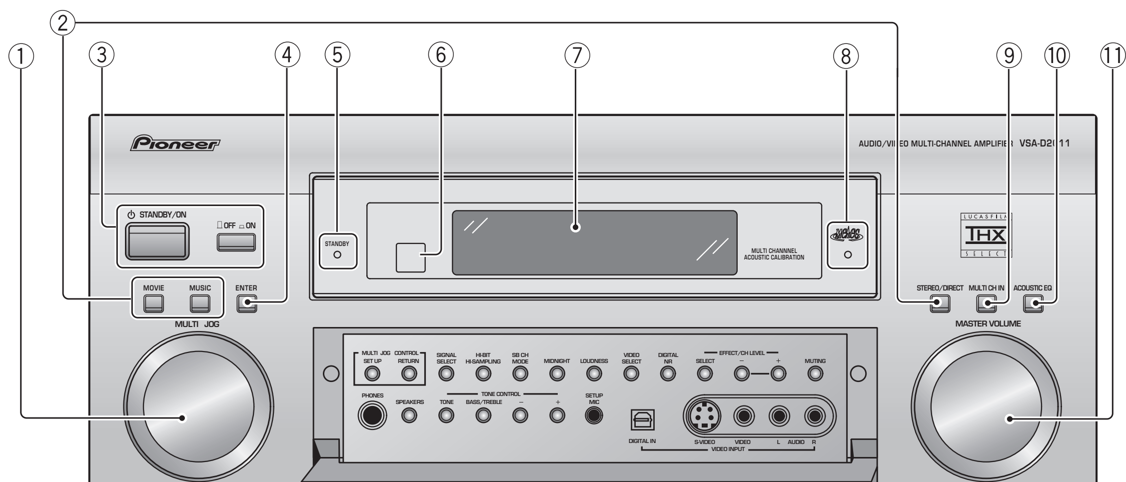
1. さまざまな音場効果を加えることができます。

リスニングモード(➡ P.45)や「便利な音声再生用機能」(➡ P.51)を使ってさまざまな効果を加えることができます。

2. 快適にお使い頂くためにその他のさまざまな設定が可能です。

「System Setupの使いこなし」(➡ P.72 ～ P.87)をご覧になり、必要に応じて細やかな設定を行ってください。

フロントパネル



① MULTI JOG（マルチジョグ）

通常は入力ソースを選択します。本体のSET UPボタンまたはリモコンのSYSTEM SETUPボタンを押したときはシステムセットアップの設定項目を選択します。また、MOVIEやMUSICなどのリスニングモードの選択にも使用します。

② リスニングモードボタン（➡ P.43 P.45）

MOVIE、MUSICがサラウンドモードです。

MOVIEボタン

リスニングモードをムービーモードにします。

MUSICボタン

リスニングモードをミュージックモードにします。

STEREO/DIRECTボタン

リスニングモードをステレオモードまたはダイレクトモードにします。

③ ▮OFF▁ONボタン(主電源)

このボタンがOFF(▮)の状態ではフロントパネルおよびリモコンでの操作ができません。

⏻STANDBY/ONボタン

本機の電源を入れたり、スタンバイモードにします。

④ ENTERボタン

システムセットアップの設定項目の決定やリスニングモード(MOVIE、MUSIC)を決定するときに押します。

⑤ STANDBYインジケーター

スタンバイモード時に点灯します。

⑥ リモコン受光部(➡下記参照)

リモコン信号はここで受信されます。

⑦ ディスプレイ（➡ P.18）

⑧ MCACCインジケーター（➡ P.50）

Acoustic Cal EQがONのときに点灯します。また、音場補正の自動測定中も点灯します。

⑨ MULTI CH INボタン（➡ P.53）

リアパネルのMULTI CH IN端子に接続した機器を再生するときに押します。

⑩ ACOUSTIC EQボタン（➡ P.50）

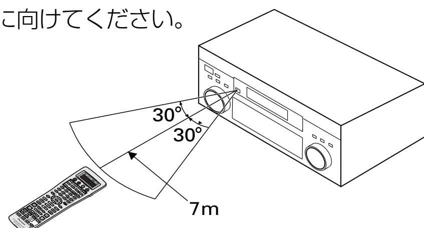
「視聴環境の周波数特性の補正」での設定をON/OFFします。

⑪ MASTER VOLUME

本機の音量を調節します。

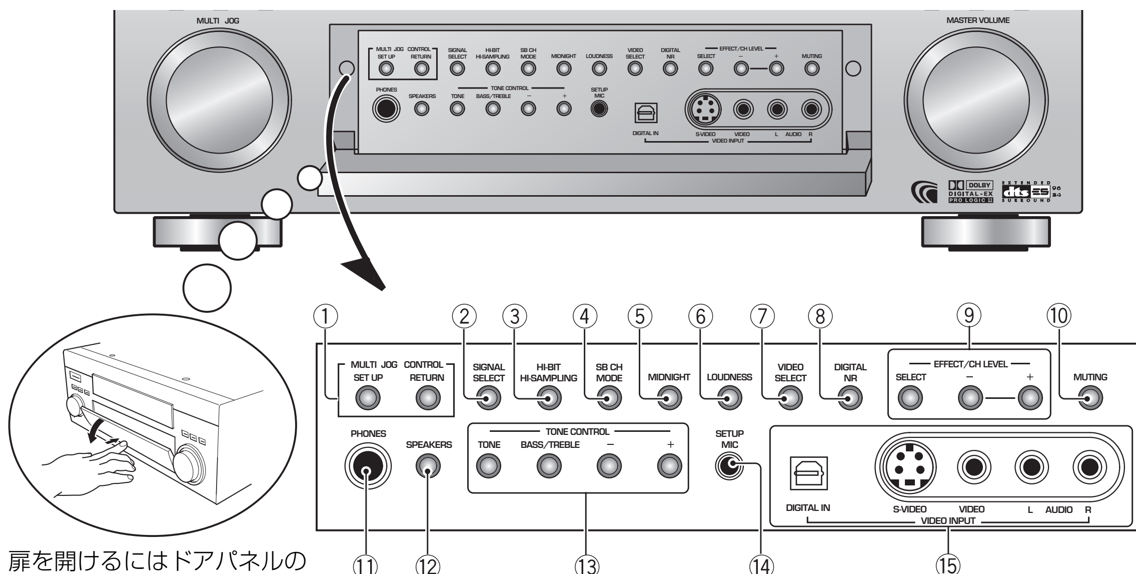
リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。



- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

フロントパネルドア内部



扉を開けるにはドアパネルの下側を軽く押してください。

① MULTI JOG CONTROL

SET UPボタン
システムセットアップモードにします。

RETURNボタン
システムセットアップモードのときに1つ前の手順に戻します。

② SIGNAL SELECTボタン (➡ P.42)
入力信号の種類(DIGITAL/ANALOGなど)を切り換えるとき押します。

③ HI-BIT HI-SAMPLINGボタン (➡ P.53)
ハイビット/ハイサンプリング機能をON/OFFします。

④ SB CH MODEボタン (➡ P.44)
サラウンドバックチャンネルのON/OFF/AUTOを選択します。またサラウンドバックスピーカーをＮＯ（無し）で設定しているときは、バーチャルサラウンドバック機能のON/OFF/AUTOを選択します。

⑤ MIDNIGHTボタン (➡ P.51)
ミッドナイトリスニング機能をON/OFFします。

⑥ LOUDNESSボタン (➡ P.52)
ラウドネス機能をON/OFFします。

⑦ VIDEO SELECTボタン (➡ P.55)
音楽を聞きながら他のファンクションのビデオ映像をみたいときに押します。

⑧ DIGITAL NRボタン (➡ P.51)
デジタルノイズリダクションをON/OFFします。

⑨ EFFECT/CH LEVEL (➡ P.39 P.48 P.49)

SELECTボタン
サラウンドモードのエフェクトレベルや出力レベルを調整するスピーカーを選択するとき押します。

＋/－ボタン
エフェクトレベルやチャンネルレベルを調整します。

⑩ MUTINGボタン
音を一時的に消すときに押します。もう一度押すと、ミュートは解除されます。

⑪ PHONES(ヘッドホン)端子
ヘッドホンを差し込む端子です。ヘッドホンを使用すると、スピーカーから音声は再生されません。

⑫ SPEAKERSボタン (➡ P.89)
スピーカーシステムのAとB、OFFを切り換えます。

⑬ TONEボタン (➡ P.52)

BASS/TREBLEボタン

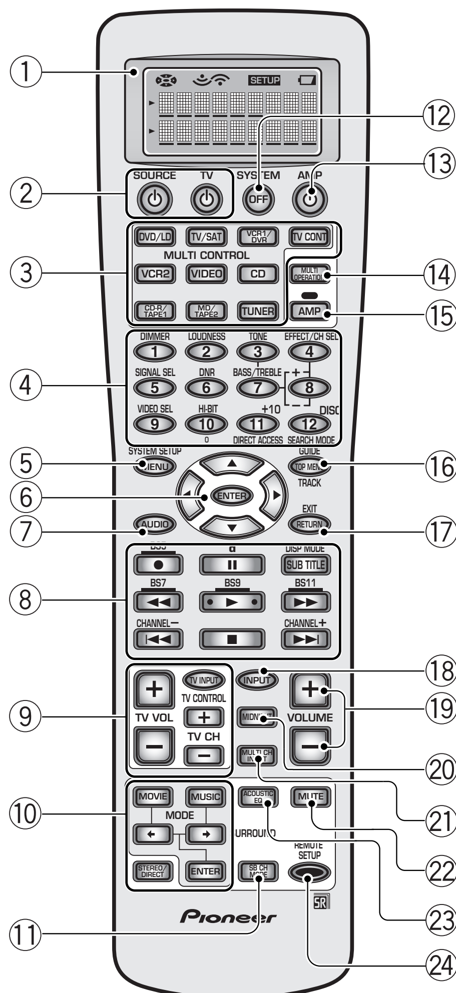
＋/－ボタン
トーンコントロール機能を設定するときに押します。

⑭ SETUP MIC端子 (➡ P.10)
オートセットアップを行う際、オートセットアップ用マイクを差し込みます。

⑮ VIDEO INPUT端子 (➡ P.25)
VIDEOファンクション用の接続端子です。（光デジタル接続も可能です）

リモコン

本機に付属しているリモコンのボタンとその機能について説明します。ここでは本機の操作に関する機能についてのみ記載します。ソース機器やモニターTVを操作する場合の使用例は「他機器のリモコン操作」(➡ P.61)をご覧ください。



以下のボタンはMULTI CONTROLボタンに応じて用途が変わります

② (SOURCE ⏻ のみ)

④ ～ ⑧、⑰ (➡ P.61)

以下のボタンはどのMULTI CONTROLボタンが選ばれていても、TV CONTに設定された機器を操作することができます

② (TV ⏻ のみ)、⑨

① リモコンディスプレイ

さまざまな情報を表示します。

（アイコン）：⑥ ▲/▼/◄/►/ENTERボタンを使用するときに点灯します。REMOTE SETUPのときにどのボタンで選択、決定するかを表示します。

（アイコン）：リモコンコードの送受信を知らせます。

SETUP：リモートセットアップのときに点灯します。

（アイコン）：電池の残りが少なくなったときに点灯します。

② ⏻SOURCE電源ボタン

ソース機器の電源をON/OFFします。

⏻TV電源ボタン

テレビの電源をON/OFFします。

③ 他機器操作ボタン

リモコンで他機器を操作するとき、または本機の入力を切り換えるとき押します。

④ 数字ボタン

リモコンの操作モードにしたがってさまざまな目的に使用します。リモコンがアンプ操作モードの場合はそれぞれのボタンが以下の働きをします。

DIMMERボタン (➡ P.55)

本体のディスプレイの明るさを調整するとき押します。

LOUDNESSボタン (➡ P.52)

ラウドネス機能をON/OFFします。

TONEボタン (➡ P.52)

BASS/TREBLEボタン

トーンコントロールを設定するときに押します。

EFFECT/CH SELボタン (➡ P.39 P.48 P.49)

サラウンドモードのエフェクトレベルや出力レベルを調整するスピーカーを選択するとき押します。

＋/－ボタン

トーンコントロールやリスニングモードの効果、スピーカー出力レベルなどを調整します。

SIGNAL SELボタン (➡ P.42)

入力信号の種類を切り換えるとき押します。

DNRボタン (➡ P.51)

デジタルノイズリダクション機能をON/OFFします。

VIDEO SELボタン (➡ P.55)

音楽を聞きながら他のファンクションのビデオ映像をみたいときに押します。

HI-BITボタン (➡ P.53)

ハイビット/ハイサンプリング機能をON/OFFします。

⑤ SYSTEM SETUP/MENUボタン
システムセットアップモードにします。リモコンがDVD/LDの操作モードのときはメニュー画面を表示します。

⑥ ▲/▼/◀/▶/ENTERボタン
各種設定、メニュー画面で項目を選択したり、決定するときに押します。

⑦ AUDIOボタン
リモコンがDVD/LDの操作モードのときに、ディスクに記録されている音声を選択します。

⑧ ソース機器操作ボタン
③他機器操作ボタンで選択した他の機器を操作するときに押します。

⑨ TV CONTROLボタン
テレビを操作するボタンです。
③他機器操作ボタンのTV CONTに登録された機器をいつでも操作することができます。

⑩ リスニングモードボタン (➡ P.43 P.45)
MOVIE、MUSICがサラウンドモードです。

MOVIEボタン
リスニングモードをムービーモードにします。

MUSICボタン
リスニングモードをミュージックモードにします。

⬅ ➡ボタン
MOVIEやMUSICなどのリスニングモードを選択します。

ENTERボタン
MOVIEやMUSICなどのリスニングモードを決定します。

STEREO/DIRECTボタン
リスニングモードをステレオモードまたはダイレクトモードにします。

⑪ SB CH MODEボタン (➡ P.44)
サラウンドバックチャンネルのON/OFF/AUTOを選択します。またサラウンドバックスピーカーをNO(無し)で設定しているときは、バーチャルサラウンドバック機能のON/OFF/AUTOを選択します。

⑫ SYSTEM OFFボタン (➡ P.67)
あらかじめ設定したコマンドと、すべてのパイオニア機器の電源を切るとき押します。

⑬ ⏻AMP電源ボタン
本機の電源をONまたはOFF(スタンバイ状態)にするとき押します。

⑭ MULTI OPERATIONボタン (➡ P.65)
マルチオペレーションを実行するときに押します。

⑮ AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

⑯ TOP MENU/GUIDEボタン (➡ P.61)
リモコンがDVD/LDの操作モードのときはトップメニュー画面を表示します。また、リモコンがTV/SATの操作モードのときはBSデジタル放送の番組表を表示します。

⑰ RETURN/EXITボタン
本機のシステムセットアップやDVDのメニュー画面の操作などで1つ前の手順に戻したり、解除したりします。

⑱ INPUTボタン
入力ファンクションを順次切り換えます。

⑲ VOLUME(+/−)ボタン
本機の音量を調節するとき押します。

⑳ MIDNIGHTボタン (➡ P.51)
ミッドナイトリスニング機能をON/OFFします。

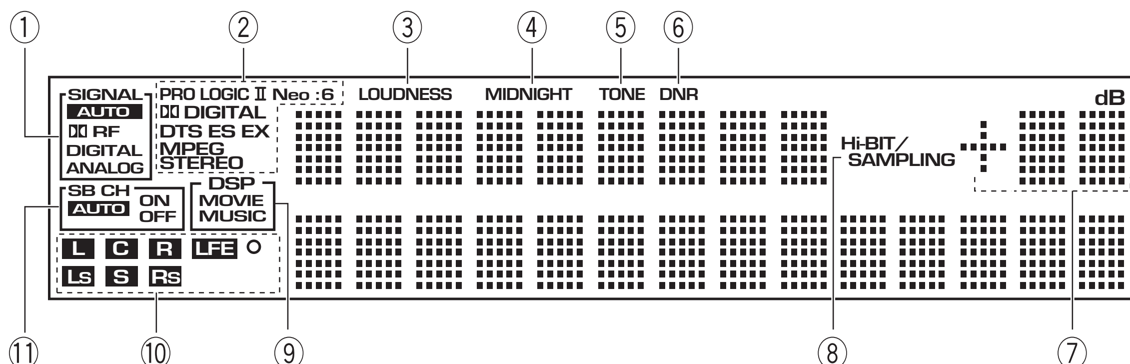
㉑ MULTI CH INPUTボタン (➡ P.53)
MULTI CH IN端子に接続した機器を再生するときに押します。

㉒ MUTEボタン
音を一時的に消すときに押します。もう一度押すと、ミュートは解除されます。

㉓ ACOUSTIC EQボタン (➡ P.50)
「視聴環境の周波数特性の補正」での設定をON/OFFします。

㉔ REMOTE SETUPボタン (➡ P.57 ～ P.71)
リモコンの各種設定に使用します。

ディスプレイ



① SIGNAL SELECTインジケーター
(➡ P.42)
現在選択されている機器の入力信号の種類が点灯します。

② デジタルフォーマットインジケーター
(➡ P.95 ～ P.96)
PRO LOGIC II: プロロジックII処理をしているときに点灯。
Neo :6: Neo: 6処理をしているときに点灯。
DIGITAL: ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯。
DTS: DTS信号を入力しているときに点灯。
ES: ESデコード(DTSディスクリートまたはDTSマトリックス)処理をしているときに点灯。
EX: EXマトリックス処理をしているときに点灯。

EX、ES信号が入力されても実際にEX、ES処理がされていないときはES、EXは点灯しません。入力信号がES、EX信号かどうかは、⑩プログラムフォーマットインジケーターで示されます。
MPEG: MPEG-2 AAC信号を入力しているときに点灯。
STEREO: 再生出力がフロント2ch(設定によってはサブウーファーも含む)のみの場合と、ヘッドホン挿入時に点灯。

③ LOUDNESSインジケーター
ラウドネス機能がONのときに点灯。

④ MIDNIGHTインジケーター
ミッドナイトリスニング機能がONのときに点灯。

⑤ TONEインジケーター
トーンコントロール機能がONのときに点灯。

⑥ DNRインジケーター
デジタルノイズリダクション機能がO N のときに点灯。

⑦ VOLUME(音量レベル)表示部
音量レベルを表示します。－－－d B が最小レベルを表し、+12 dBが最大レベルを表します。

⑧ Hi-BIT/SAMPLINGインジケーター
ハイビット/ハイサンプリングモードがONのときに点灯。

⑨ DSPインジケーター
MOVIE: リスニングモードでMOVIEを選択しているときに点灯。
MUSIC: リスニングモードでMUSICを選択しているときに点灯。



:MOVIE、MUSICモードでパイオニアオリジナルサラウンドモードを選択しているときに点灯。

⑩ プログラムフォーマットインジケーター
DIGITALやDTS信号等が入力された時、そのソースに含まれるチャンネルの情報を点灯します。
L: 左フロントチャンネル
C: センターチャンネル
R: 右フロントチャンネル
LS: 左サラウンドチャンネル
S: サラウンドチャンネル(モノラル)
RS: 右サラウンドチャンネル

LFE:LowFrequencyEffect(超低音の効果音)チャンネル

o: 実際にLFE信号が入ってきたときに点灯します。

「6,1再生検出信号」の入ったソースが再生されると「LS」「S」「RS」の3つのインジケーターが点灯します。

⑪ SBCHインジケーター(➡ P.44)
サラウンドバックチャンネルの状態を表します。
AUTO:サラウンドバックチャンネルまたはバーチャルサラウンドバック機能がAUTOのときに点灯。
ON: サラウンドバックチャンネルまたはバーチャルサラウンドバック機能がONのときに点灯。
OFF: サラウンドバックチャンネルまたはバーチャルサラウンドバック機能がOFFのときに点灯。

映像機器の接続について

映像機器を本機と接続する場合は、**ソース機器**と**モニターＴＶ** の接続コードに必ず同じタイプのコードをご使用ください。

例えばDVDプレーヤーと本機をSビデオコードで接続した場合、モニターTVをコンポジットコードで接続しても映像は出力されません。

本機の映像入力と映像出力の関係は以下の表のようになります。詳細はさらに下の事例をご覧ください。

（コード／ケーブルに関する詳細は次ページにあります）

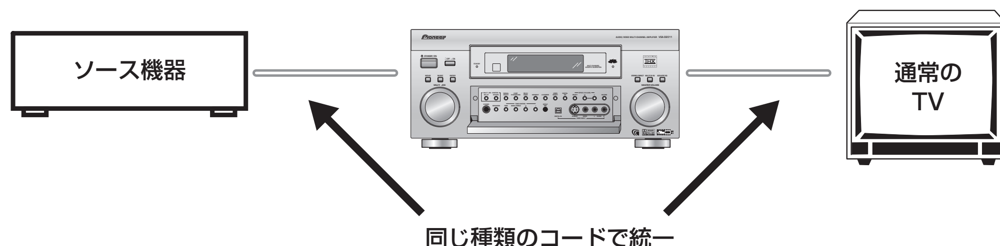
IN＼OUT	*コンポジット	*S	コンポーネント	D
コンポジット	○	×	×	×
S	×	○	×	×
コンポーネント	×	×	○	×
D	×	×	×	○

＊ OSD画面は本機リアパネルのMONITOR OUT1端子にコンポジットビデオまたはSビデオコードで接続しないと出ません。

ソース機器をコンポジットまたはSビデオコードで接続する場合

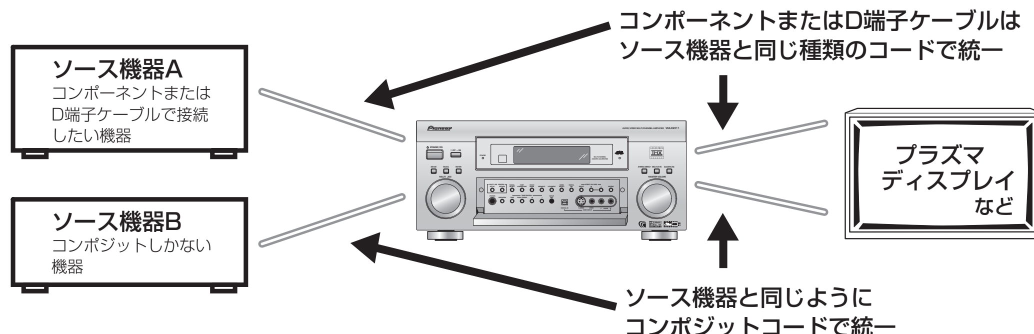
ソース機器ー本機ーモニターTVと接続するコード／ケーブルは必ず同じ種類のコードで統一してください。

例えば、DVDプレーヤーをSビデオコードで接続した場合、モニターTVをコンポジットコードで接続しても映像は出力されません。



ソース機器の映像出力端子が機器によってバラバラな場合

下記の組合わせで考えます。



メモ

・ 録画機器用の映像出力端子(OUT)の信号はモニター出力と同じです。

リアパネルの全体図

CONTROL IN/OUT端子 (➡ P.94)

MONITOR OUT1、2端子 (➡ P.22)
OSD画面はMONITOR OUT1端子に接続したときのみ出ます。

PRE OUT端子 (➡ P.93)

デジタル出力端子 (➡ P.27)

デジタル入力端子 (➡ P.27)
端子に表示された機器と違う機器を接続するときは入力設定が必要です。
(➡ P.74)

USBデジタル入力端子 (➡ P.90)
ＵＳＢケーブルでＰＣと接続します。

アナログ音声入力端子 (➡ P.26)

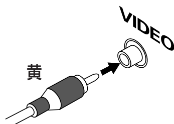
AV機器入出力端子 (➡ P.22 ～ P.25)

MULTI CH INPUT端子 (➡ P.23 P.24)

接続コード/ケーブルについて （コード／ケーブルは全て別売りです）

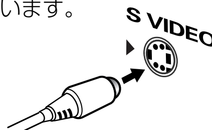
■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。



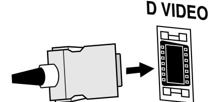
■Sビデオケーブル

映像信号のY とC の2 つの信号(色差信号)からなり、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。



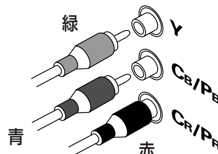
■D端子ケーブル

映像色差信号とフォーマット識別制御信号を、1 つのコネクタで接続できるケーブルです。コンポーネント映像ケーブルと同等の映像品質を楽しめます。



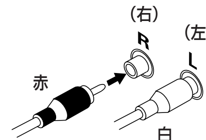
■コンポーネント映像ケーブル

映像信号のY、CB/PB、CR/PR の3つの信号(色差信号)からなり、Sビデオケーブルよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。（ビデオコード3本での接続も可能です）



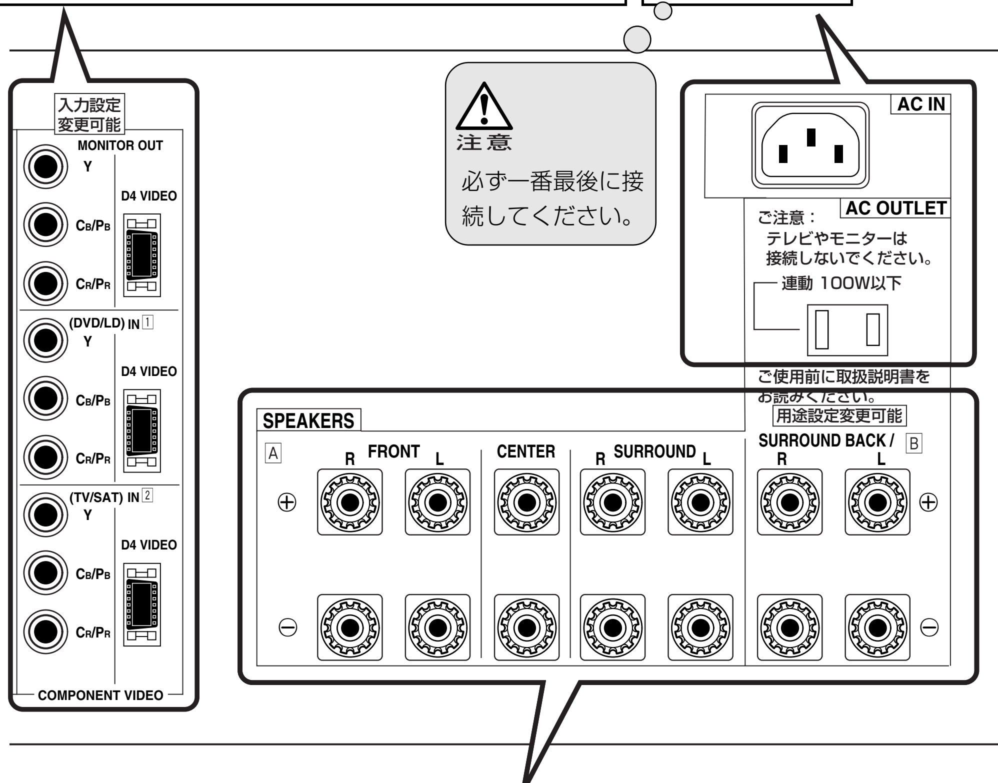
■オーディオコード

オーディオ機器の接続に使用します。



COMPONENT VIDEO入/出力端子(➡ P.22 P.24)
端子に表示された機器と違う機器を接続するときは入力設定が必要です。(➡ P.75)

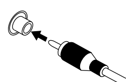
AC OUTLET
AC IN
(➡ P.31)

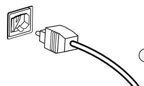


スピーカー端子(メインシステム/B)(➡ P.88)
別エリアでのステレオ再生(➡ P.88)
フロントスピーカーのBi-Amp接続用(➡ P.88)

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続に使用します。

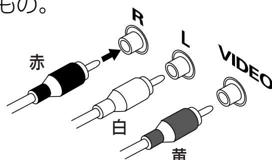

同軸ケーブル
(またはビデオコード)


光ファイバーケーブル

- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

■AVコード

オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。

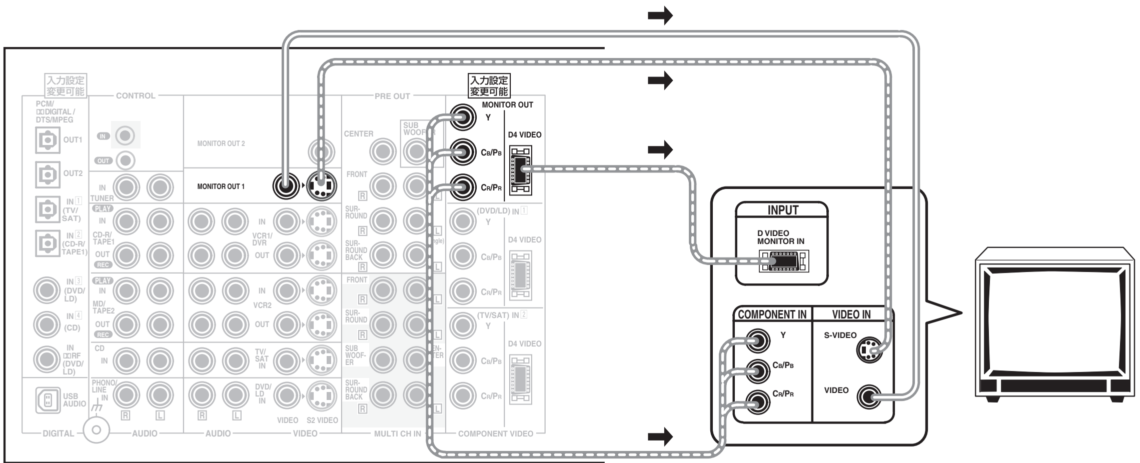


メモ

本機リアパネルのS端子にはS2 VIDEOと書かれていますが、S、S1、S2と書かれた機器全てと接続が可能です。
また同様に本機のD端子にはD4 VIDEOと書かれていますが、D1、D2、D3、D4と書かれた機器全てと接続が可能です。

TV(モニター)の接続

「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
OSD画面はMONITOR OUT1端子に接続したときのみ出ます。

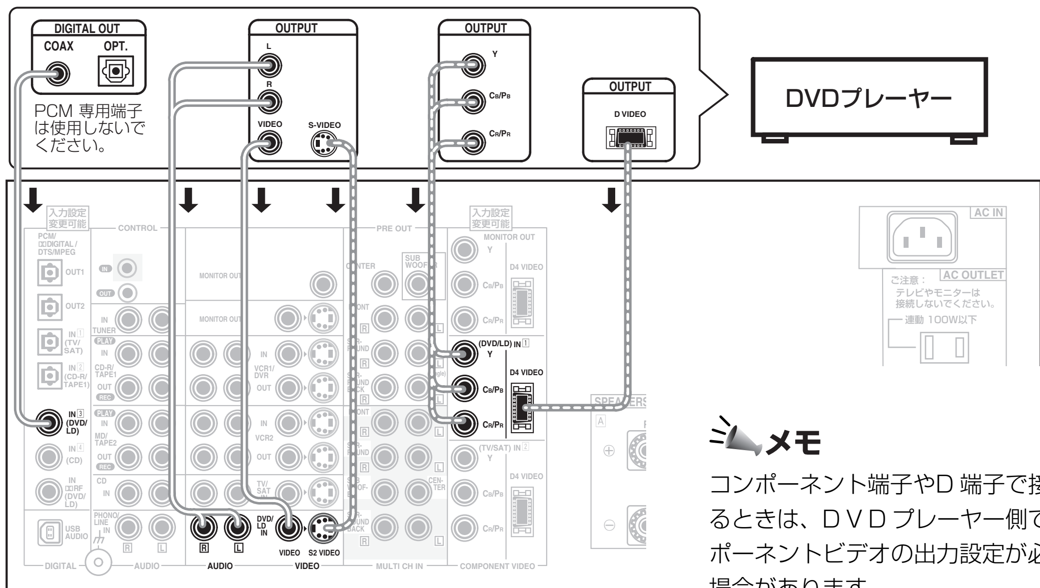


メモ

TV(モニター)の1つの入力にSビデオやコンポーネントビデオなど数種類のコードを複数接続すると映像が乱れたり汚く写ることがあります。詳しくはTV(モニター)の取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーの接続

「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
コンポーネント端子やD 端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です(➡ P.75)。
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です(➡ P.74)。



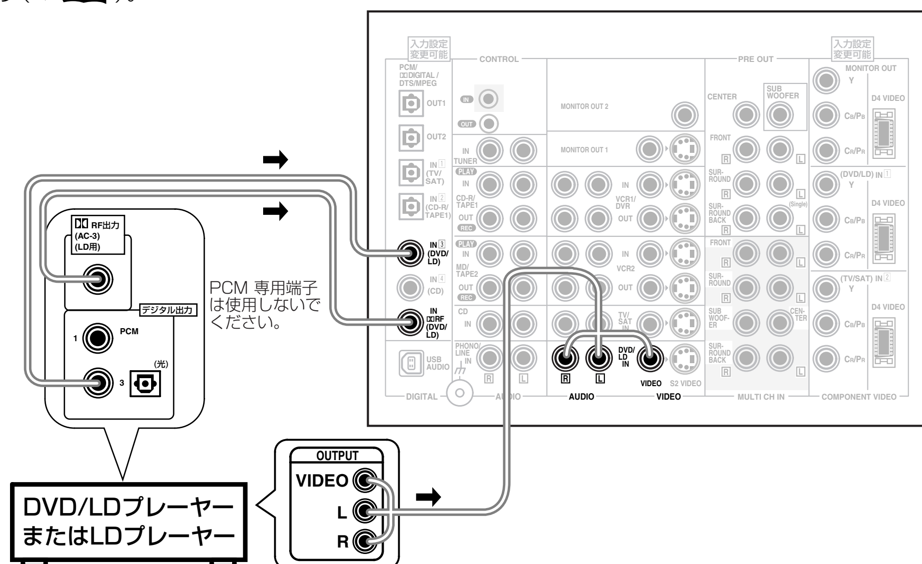
メモ

コンポーネント端子やD 端子で接続するときは、DVDプレーヤー側でコンポーネントビデオの出力設定が必要な場合があります。

DVD/LDコンパチブルプレーヤーまたはLDプレーヤーの接続

DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーに RF出力端子がある場合は、 RF端子も接続します。これは、ドルビーデジタルLDソフトの再生に必要です。また、LDのアナログオーディオ信号はデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

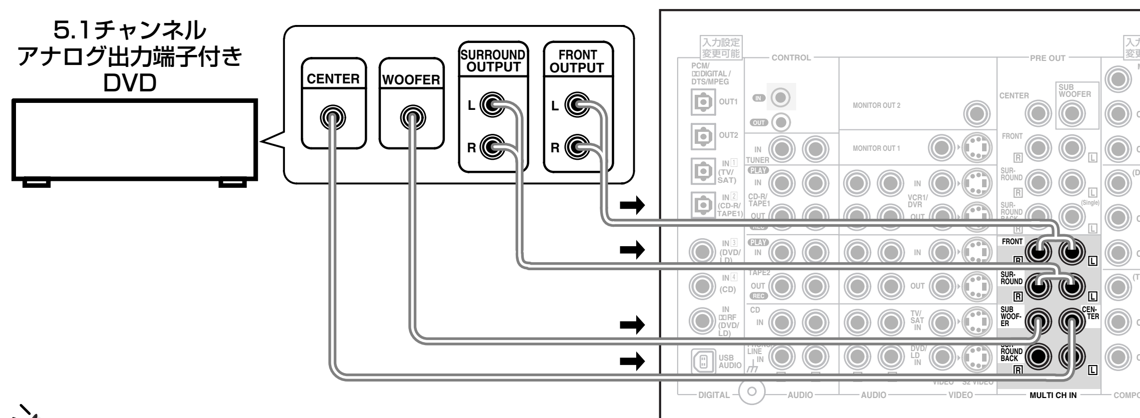
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です（➡ P.74）。（➡ P.74）



メモ
- RF端子の接続は同軸ケーブルで行います。
- RF端子に接続した機器を再生するときは、SIGNAL SELECTボタンで入力信号を RFに切り換えてください（ RFは RF端子が割り当てられている入力ファンクションを選んでいるときのみ選択することができます）。

DVDオーディオプレーヤーの接続

DVDプレーヤーに5.1chアナログ出力端子がある場合は、本機のMULTI CH INPUT端子と接続してDVDオーディオ再生を行うことができます。DVDオーディオまたはSACDを再生するには入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「DVDオーディオ（マルチチャンネル入力）の再生」（➡ P.53）をご覧ください。

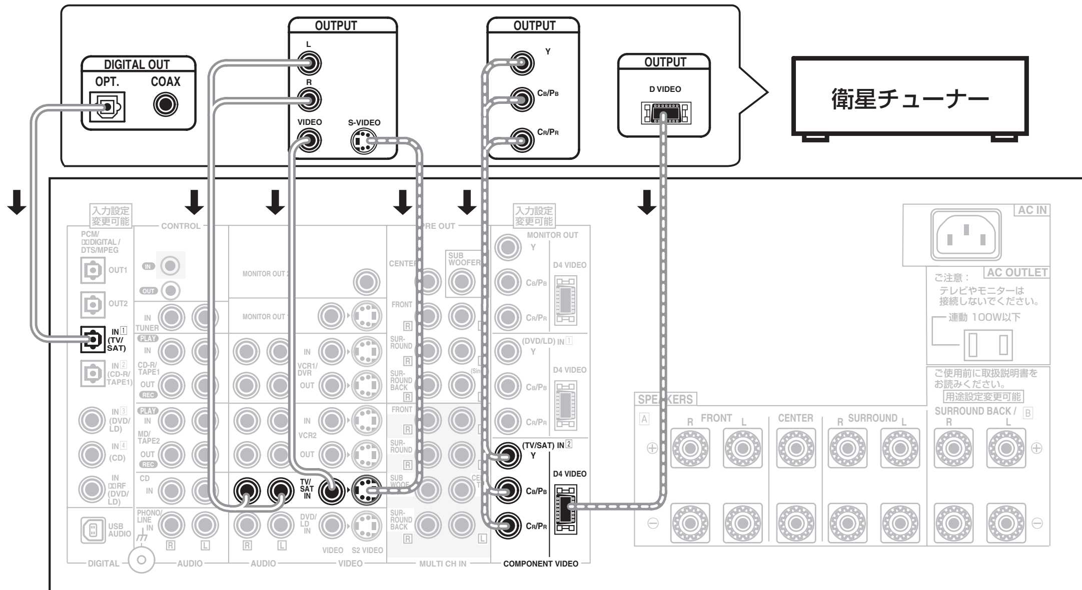


メモ

DVDプレーヤー側の設定で、DVD5.1chアナログ出力をONに設定しないと音が出ません。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

BS/CSチューナーの接続

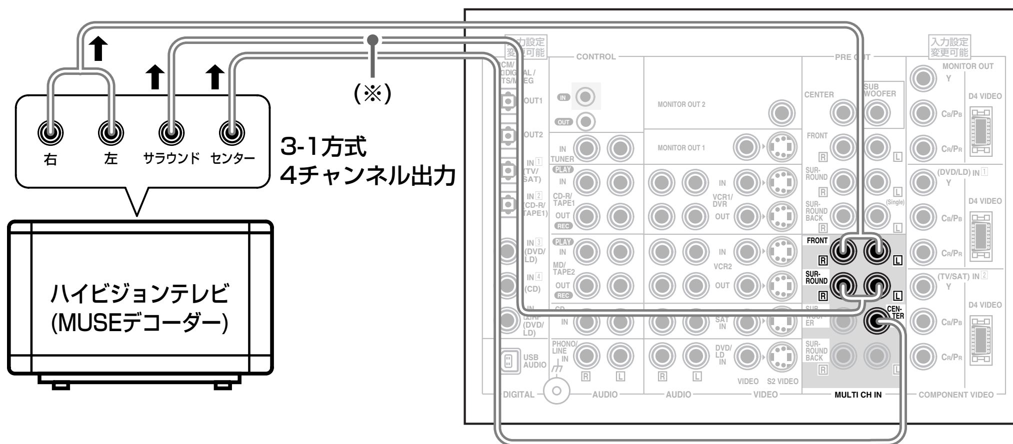
「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
コンポーネント端子やD端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です(➡ P.75)。
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です(➡ P.74)。



ハイビジョンテレビ(またはMUSEデコーダーの3-1方式4チャンネル放送)との接続

本機リアパネルのMULTI CH IN端子に、オーディオコード(別売)で接続します。

この端子に接続した機器の音声を再生するには、入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「DVDオーディオ(マルチチャンネル入力)の再生」(➡ P.53)をご覧ください。





サラウンドの接続(※)は1P→2Pの分岐コード(モノラル→ステレオ)をお使いください。
(ハイビジョンテレビ(MUSE デコーダー)側にサラウンド右/左の出力がある場合は、通常のステレオオーディオコードをお使いください。)

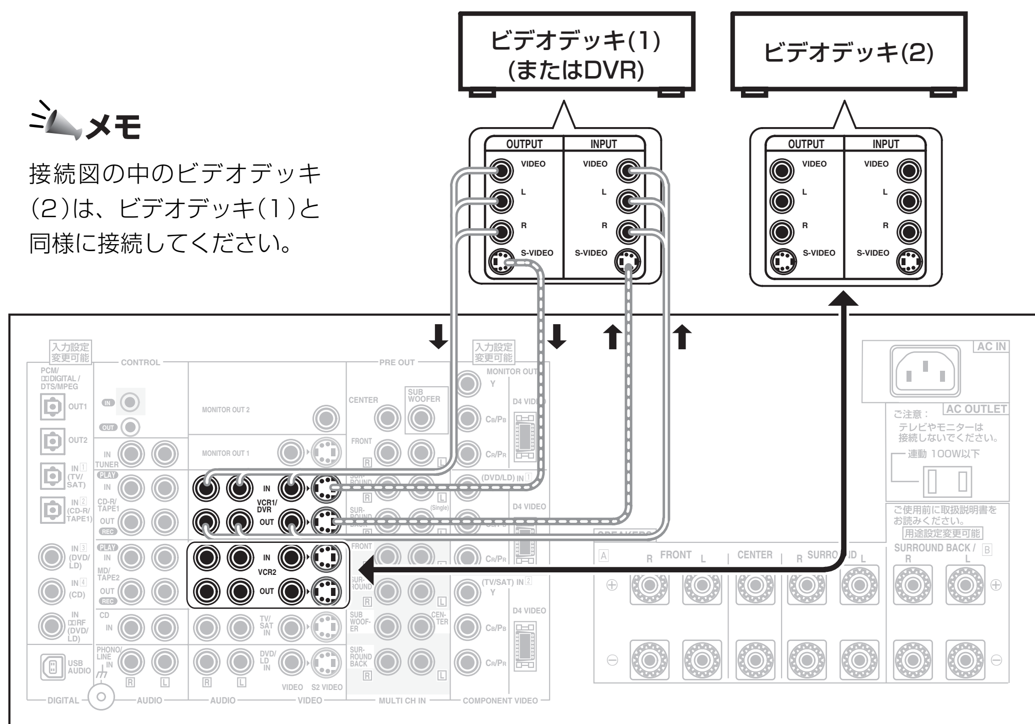
ビデオ機器の接続

「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
コンポーネント端子やD 端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です(➡ P.75)。
録画をすることを前提とする場合は、ソース機器と録画機器の映像信号をコンポジットかS2のどちらかに統一して接続する必要があります。また音声信号についてもアナログ接続する必要があります。

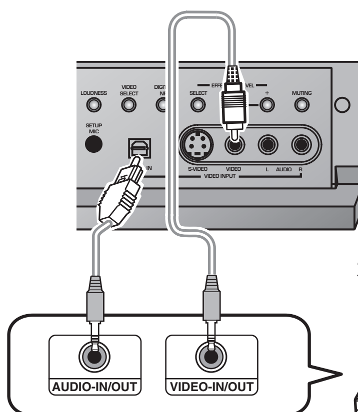


メモ

接続図の中のビデオデッキ(2)は、ビデオデッキ(1)と同様に接続してください。



■前面（「VIDEO」入力）の接続



この端子に接続された機器を再生するときは入力ファンクションをVIDEOにします。
このデジタル入力端子はVIDEO入力専用です。

ポータブルDVD、ゲーム機など

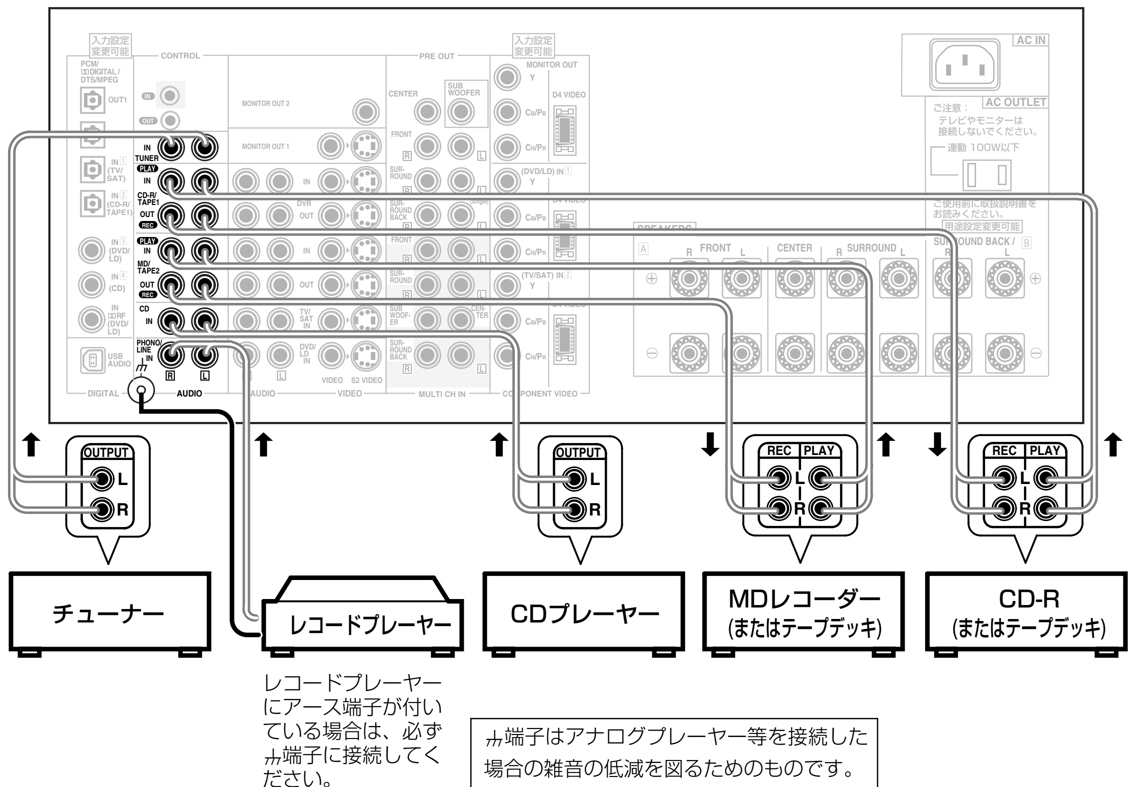


メモ

ポータブルＤＶＤを接続するときはミニプラグを使用します。

オーディオ機器のアナログ接続

デジタル出力のあるCDプレーヤーやMDレコーダーでは、さらに「デジタル機器の接続」(➡ P.27)もできます。



レコードプレーヤーにアース端子が付いている場合は、必ず⏚端子に接続してください。

⏚端子はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。

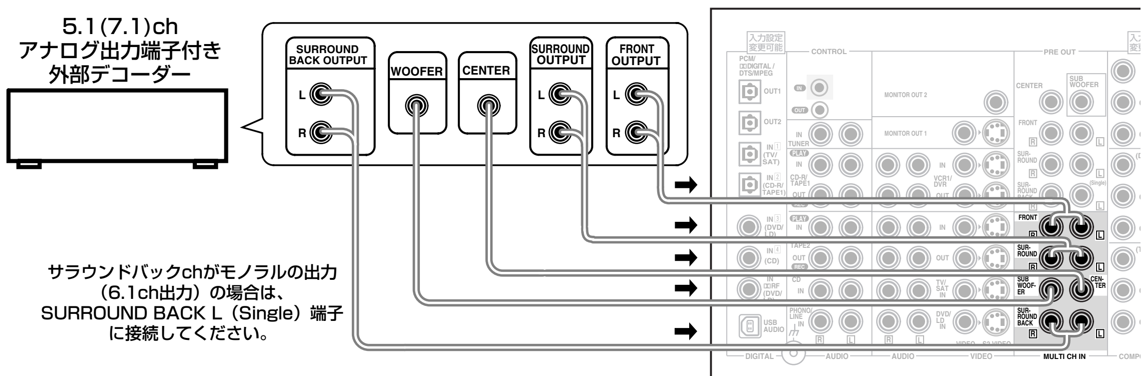


メモ カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス(漏れ磁束)の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

注意 工場出荷時の設定のままでPHONO/LINE端子にレコードプレーヤー以外を接続しないでください。大音量を出力し、スピーカー等を破壊する恐れがあります。PHONO/LINE端子にレコードプレーヤー以外の機器またはイコライザ内蔵レコードプレーヤーを接続する際は、「PHONO/LINE Setup」(➡ P.77)でPHONO/LINE端子をLINEに設定してください。

外部デコーダーのアナログ接続

マルチチャンネルアナログ出力端子(5.1chまたは7.1ch)を持つ外部デコーダーとの接続には、本機のMULTI CH INPUT端子を使用します。この端子に接続した機器の音声を再生するには、入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「DVDオーディオ(マルチチャンネル入力)の再生」(➡ P.53)をご覧ください。



デジタル機器の接続

ドルビーデジタルやDTSソフトを再生するには、デジタル接続が必要です。接続は同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで行います（1つの機器に対してどちらか一方のみで接続します）。

メモ

PCM/DDDIGITAL/DTS/MPEG OUT端子はデジタル入力された信号を出力しますので、デジタル録音をするには光デジタル入力を持つデジタル録音機器と接続してください。

衛星チューナー
（➡ P.24）
DIGITAL OUT

CD-R
（またはテープデッキ、MD）
DIGITAL IN　DIGITAL OUT

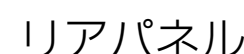
CDプレーヤー
DIGITAL OUT

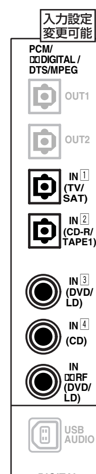
Bタイプ

DIGITAL OUT
COAX　OPT.
PCM 専用端子は使用しないでください。

DVDプレーヤー
（➡ P.22）

Aタイプ
USBケーブル
PC
（➡ P.90）


リアパネル





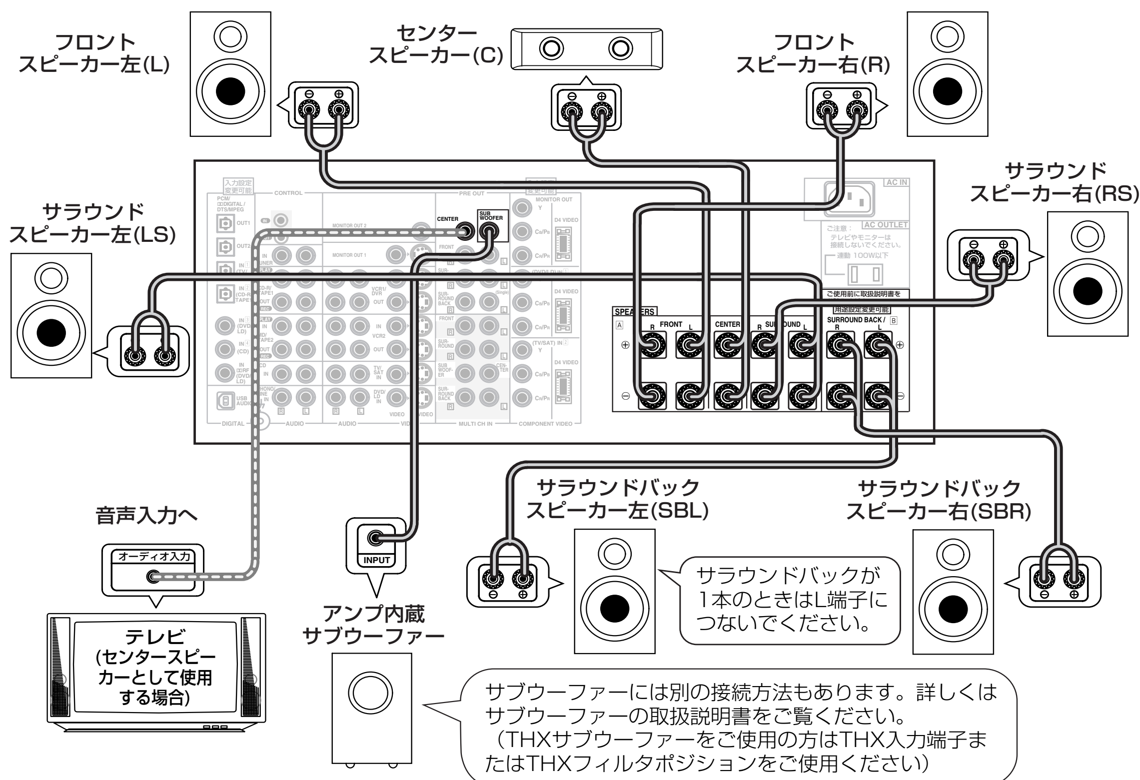
メモ

どのデジタル入力端子をどの機器に使用するかは自由に変更することができます。ただし、工場出荷時の設定（右図）と異なる接続を行う場合は「Digital-In Select（デジタル入力の設定）」（➡ P.74）にて設定の変更を行ってください。

- Digital-1～4には[TUNER]、[PHONO/LINE]、[VIDEO]、[USB]を選ぶことができません。
- DDRF INには[TUNER]、[PHONO/LINE]、[VIDEO]、[CD]、[CD-R]、[MD]、[USB]を選ぶことができません。

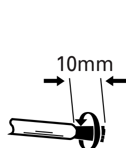
スピーカーの接続

以下のように各スピーカーを接続します。本機でサラウンドを楽しむためには、7本のスピーカーとサブウーファーを接続することをおすすめします。

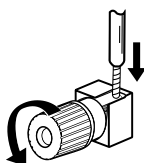


■SPEAKER(スピーカー)端子

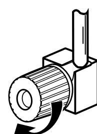
① 線をねじる。



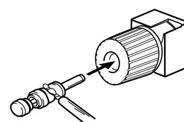
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。



③ スピーカー端子を締めつける。



バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)




注意

- **公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのスピーカーをご使用ください。**
  本機ではスピーカーインピーダンスを変更することができます。工場出荷時は8Ω〜16Ωですが、お手持ちのスピーカーが6Ω以上8Ω未満の場合は設定を変更してください。変更のしかたは、「スピーカーインピーダンスの切り換え」(次ページ)をご覧ください。
- スピーカーと本機の⊕および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、⊕ および⊖ が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

メモ

また、以下のようなときはサラウンドバックスピーカーをスピーカー端子Bとして使用することもできます。

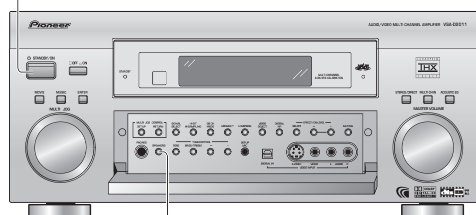
- メインのリスニングルーム以外の場所(キッチンなど)でも聴きたいとき。(この場合はステレオ再生になります)
- フロントスピーカーをBi-Ampで使いたいとき。

サラウンドバックスピーカーをスピーカー端子Bとして使用するときは「サラウンドバックシステムの設定」(➡ P.34)で設定した後に、「スピーカーシステムA/Bの使いこなし」(➡ P.88)をご覧ください。

スピーカーインピーダンスの切り換え

スピーカーインピーダンスの設定は、6Ω以上8Ω未満の設定と8Ω～16Ωの設定の2通りあります。お手持ちのスピーカーが6Ω以上8Ω未満の場合は以下の手順で設定を変更してください。

1,2



2

1 **本機をスタンバイ状態にする。**
スタンバイインジケーターが点灯します。

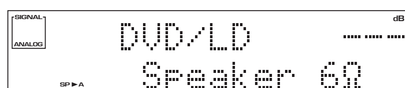
2



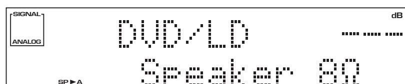
+



SPEAKERSボタンを押しながらSTANDBYボタンを押す。
スピーカーインピーダンスが変更されます。
再度、設定を変更したいときは手順1からやり直してください。



スピーカーインピーダンスが6Ω以上8Ω未満の場合



スピーカーインピーダンスが8Ω～16Ωの場合

スピーカーの配置について

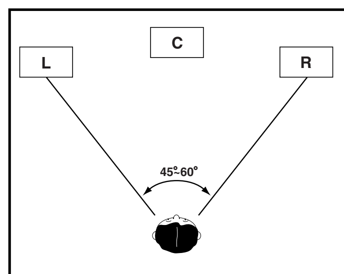
スピーカーの配置はマルチチャンネルサラウンド再生において重要な役割を果たします。
一般家庭における各スピーカーの配置の例は以下の通りです。以下の図を参考にしながらリスニングルームに合わせたスピーカーの配置をお試しください。



スピーカーを床に直接設置すると、建物に直接振動が伝わり音質が変わってしまったりします。また、柔らかすぎる棚の上なども音質に影響がありますので、専用スタンドやコンクリートブロックなどの使用をおすすめします。

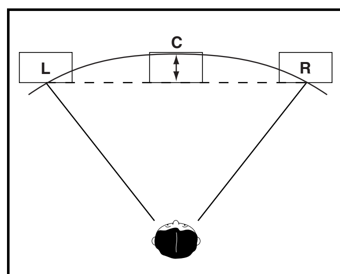
フロント & センター

リスニングポイントからの角度



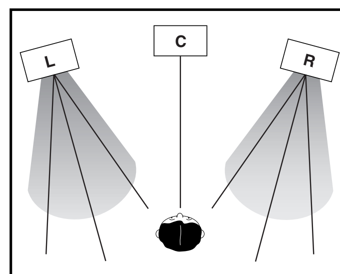
センター(C)を使用する場合は広めに、センター(C)を使用しない場合は狭く配置することをおすすめします。(上図の範囲)

奥行き



センター(C)はフロント(L/R)と同一面からフロントまでの距離を超えない位置に。フロントよりも前方だと音場感を損ねます。

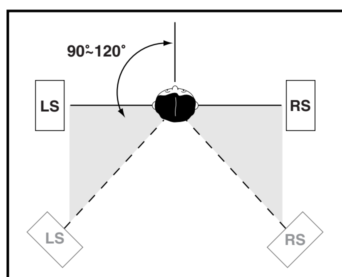
スピーカーの向き



中抜け感を防ぐために多少内振りに。但し、あまり内振りにしすぎると拡がり感などを損ねます。

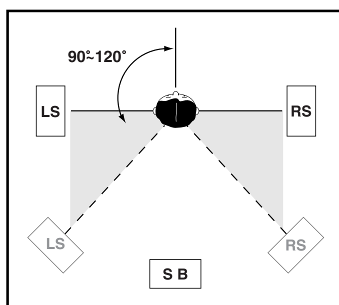
サラウンド & サラウンドバック

サラウンドバック無しの場合

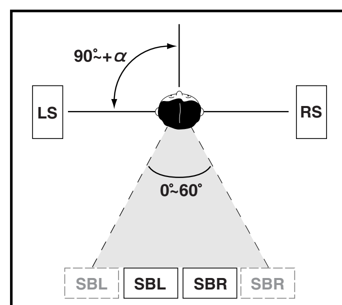


サラウンドスピーカー(LS/RS)は耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。DVDオーディオ用の配置と両立したいときは後方寄りに配置します。SLとSRが真正面で向き合わないように多少左右に振ったりしてみてください。

サラウンドバック1本の場合



サラウンドバック2本の場合

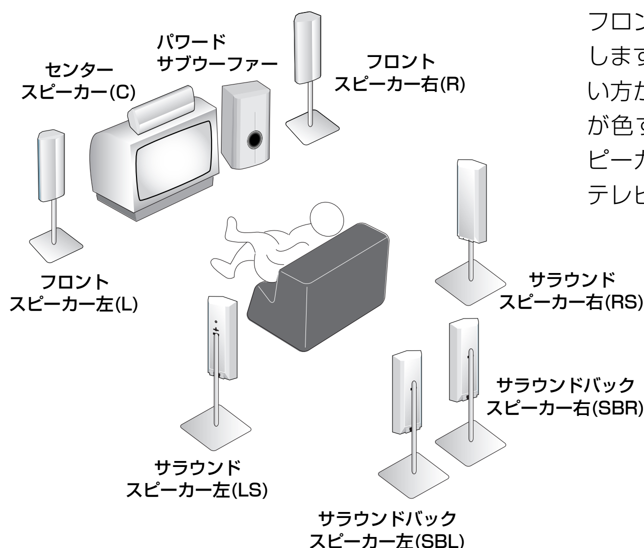


サラウンドバックスピーカー(SB/SBL/SBR)も耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。サラウンドバック2本の場合はSBLとSBRを隣接させリスニングポジションから等距離に設置(設定)するとTHXモードの効果が最大限発揮されます。(➡ P.43 P.45)

サブウーファー

特に制限はありませんが、他のスピーカーの低音出力との打ち消し合いが起こらないような場所に配置してください。また、壁の近くに設置すると建物との共振により低音が極端に増強される場合がありますのでご注意ください。

モニターTVとスピーカーの位置関係



フロントスピーカーはテレビから等距離になるようにします。センタースピーカーはモニターT V 画面に近い方がセリフなどが自然に聞こえます。但し、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のスピーカーを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。



センタースピーカーをテレビの上側に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。

電源コードのつなぎかた

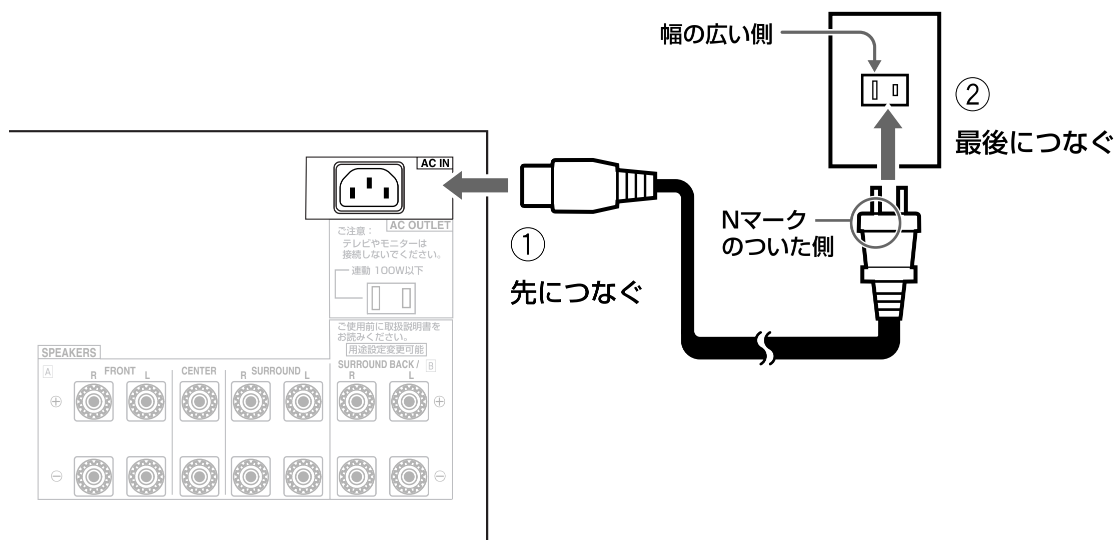
本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせせることをお薦めします。下図のように電源プラグのNマークのある側をコンセントの幅の広い方(アース側)に合わせて差し込んでください。



- **本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード(電流容量15A、機器側3Pプラグインソケット方式)以外の電源コードはご使用にならないでください。**
- 本機のAC INLETのアース端子は本機のシャーシに接続されていません。



- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。ただし、1ヶ月程度電源コンセントから電源コードを抜いた状態または主電源をOFFにしておくと本機で設定した各種設定がリセットされますのでご注意ください。



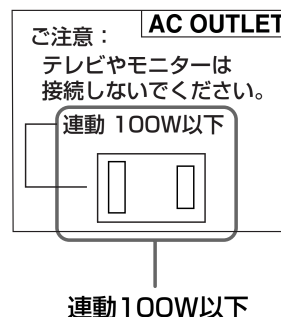
予備コンセント(AC OUTLET)の接続

[連動100W以下]

本機の電源スイッチのON/STANBY(OFF)の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。
接続した機器の消費電力が100Wを超えないようにしてください。



- 消費電力がパネルに表示されているワット数を超えるような電気器具(暖房、アイロン、テレビ、トースター、ドライヤーなど)は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- テレビは接続しないでください。
  表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れる場合があります。



サラウンドの設定について

サラウンドの設定では**「サラウンドバックシステムの設定」**、**「簡単設定(Quick設定)」**を説明した後に、サラウンド設定の基本となる**「スピーカーシステム(各スピーカーの有り/無し/低域再生能力)の設定」**、**「スピーカー出力レベルの設定」**、**「スピーカーまでの距離設定」**を説明します。サラウンド設定の基本となる3つの設定に**「視聴環境の周波数特性の補正(Acoustic Cal EQ)」**を加えた4つの設定(補正)を音場補正と呼びます。本機のオートセットアップ機能を使うと、これらの4つの設定(音場補正)を自動で行うことができます。初めて音場補正を行う場合は、オートセットアップ機能による設定をおすすめします(➡「ホームシアター入門 step2」P.10 ～ P.13)。

音場補正の設定項目の詳細と効果

スピーカーシステムの設定

これはソースに含まれる音声成分の全てを再生するための基本設定です。この設定が正しく行われないと、サウンドトラックの特定チャンネルに収録された音声が再生されなかったり、低域成分が欠落してしまう、などの不具合が発生する場合があります。スピーカー接続の有り/無しや低域再生能力の大小、クロスオーバー周波数などを設定し、上記の問題を回避します。

スピーカー出力レベルの設定

リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせる設定です。「スピーカーまでの距離設定」と同様に、音の定位感や移動感を正確に再現することが目的です。この設定が正しく行われないと、いわゆる「バランスの悪い音」になってしまいます。これまでは聴感での設定が一般的でしたが、この方法では正確な設定は不可能です。プロのスタジオ・エンジニアは、ミキシング作業前に必ず専用の音圧測定器で測定を行い、バランスの微調整を施します。本機では、MCACCによって、このプロレベルの精密な調整がだれでも簡単に出来るようになりました。

スピーカーまでの距離の設定

実際には距離を設定することで各チャンネル間の遅延(ディレイ)を算出・補正しています。マルチチャンネル再生では特に重要で、音の定位感や移動感を正確に再現するために必要です。測定用のマイクを使用して実測した場合は、電気的な遅延現象(特にサブウーファーに多く見受けられる)をも測定します。よって、メジャー等を使った物理的な距離測定とは違う値が設定される場合もあります。

視聴環境の周波数特性の補正(Acoustic Cal EQ)

「視聴環境の周波数特性の補正」とは、リスニングポイントでの視聴環境トータルの周波数特性(以下、F特)の補正を意味します。全チャンネルに同じ種類のスピーカーを使用しても、リスニングポイントでは音色が違って聞こえます。これは、設置場所・設置方法・壁面・内装、など様々な影響により実際のF特が違ってしまうためです。
本機の「視聴環境の周波数特性の補正」では、リスニングルーム固有のF特まで含めた補正をすることで、各チャンネルの音のつながりが飛躍的に向上させ、これまでにない実像感やリアルな移動感を再現します。スタジオや映画館などにおいてはこの補正は絶対に欠かせないものです。これがホームシアターとの大きな差でしたが、当社の研究により、一般家庭環境におけるF特の補正には最も有効であるエンベロープ補正方式を採用し、この差を埋めることを可能としました。
全チャンネルをフラット特性にする「ALL CH ADJUST」と、フロントスピーカーの特性に合わせ込む「FRONT ALIGN」の2種類の補正カーブを用意しました。

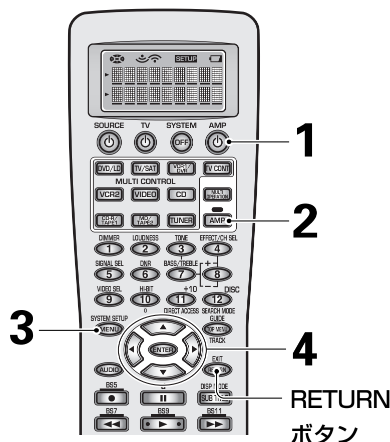


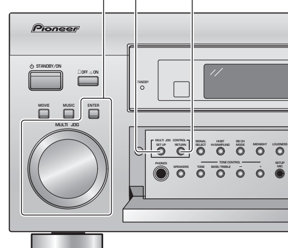
メモ

一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、システムを使用するたびに設定し直す必要はありません。ただし、スピーカーシステムの構成や配置を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります。また、設定内容は1ヶ月程度、主電源をOFFまたはコンセントを抜いた状態にしておくとクリアされますのでご注意ください。

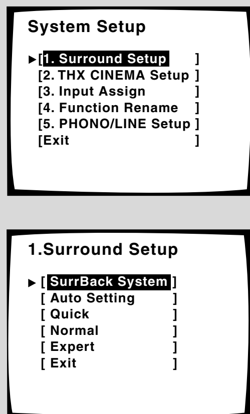
■ 操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。

設定項目の選択





以下はOSD画面（テレビ画面）です



1 AMP **本機の電源を入れ、テレビの電源も入れる。**
テレビは本機の出力映像が表示されるようにしておきます。

2 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 SYSTEM SETUP MENU **システムセットアップにする。**
テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

4 **[1.Surround Setup]を選んでENTERボタンで決定する。**
サラウンドの設定のメニュー画面になります。
「Exit」を選んで、決定するとシステムセットアップを終了します。

[SurrBack System]（➡ P.34）：
サラウンドバックチャンネルをノーマルサラウンド(6.1chまたは7.1chサラウンド)用で使用するか、それ以外の用途で使用するかを設定します。
[Auto Setting]（➡ P.10）：
自動で音場補正を行います。詳しくは「ホームシアター入門 step2」をご覧ください。
[Quick]（➡ P.35）：
サラウンドに関する最低限度の設定を簡単に行うことができます。
[Normal]（➡ P.36）：
サラウンド設定の基本となる3つの設定を手動で自由に設定することができます。
[Expert]（➡ P.78）：
音場補正の設定をよりきめ細かく設定することができます。

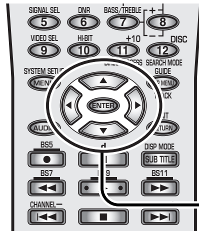
5 **34ページ～40ページに記載されているサラウンドの設定の各項目の手順に従って設定を行う。**
この場合、各項目の手順2へお進みください。

メモ
- システムセットアップの全ての項目は1つの項目を終了すると、自動的に次の項目が選択されます。
- RETURNボタンを押すと1つ前の手順に戻ることができます。

メモ
本機には「Surround Setup」の他に「THX CINEMA Setup」、「Input Assign」、「Function Rename」、「PHONO/LINE Setup」がありますので、必要に応じて設定を行ってください。詳しくは「システムセットアップの設定項目一覧」（➡ P.72）をご覧ください。

SurrBack System（サラウンドバックシステムの設定）

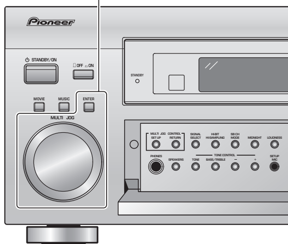
ここではサラウンドバックチャンネルをどのように使用するかを設定します。設定は「Normal System」と「Second Zone」、「Front Bi-AMP」の3つの中から選択します。サラウンドバックチャンネルをノーマルサラウンドシステム(6.1chまたは7.1chサラウンド)として使用したいときは「Normal System」を選択し、スピーカーシステムBとしてメインのリスニングルーム以外の場所で使用したいときは「Second Zone」を選択します(「スピーカーシステムA/Bの使いこなし」➡ P.88)。また、フロントスピーカーをBi-AMPとして使用したいときは「Front Bi-AMP」を選択します(「スピーカーシステムA/Bの使いこなし」➡ P.88)。



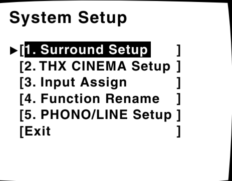
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

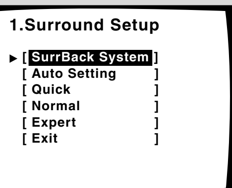
1~4

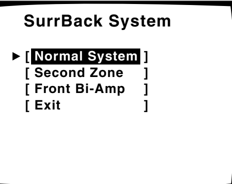
1~4

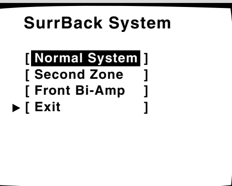


以下はOSD画面(テレビ画面)です

1


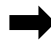
2


3


4


ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 


② SYSTEM SETUP 

1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[SurrBack System]を選んで決定する。**

「Normal System」と「Second Zone」、「Front Bi-AMP」の選択画面が表示されます。詳しい説明は上記をご覧ください。

3 **[Normal System]と[Second Zone]、[Front Bi-AMP]のいずれかを選んで決定する。**

設定されたシステムが反転したまま[Exit]が自動で選択されます。

4 **[Exit]を決定する。**

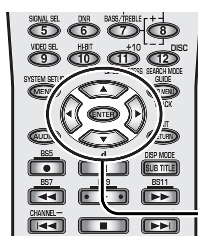
サラウンドバックシステムの設定を終了します。

次は[Auto setting](➡ P.10)、[Quick](➡ P.35)、[Normal](➡ P.36)、[Expert](➡ P.78)の中から設定したい項目を選びます。

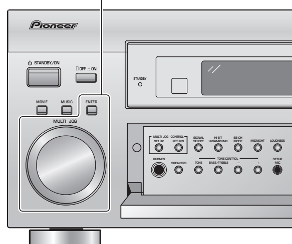
Quick（簡単設定）

「ホームシアター入門 step2」（➡ P.10 ～ P.13 ）でオートセットアップを行った場合は、ここでの設定は必要ありません。オートセットアップではQuick（簡単設定）以上に細やかなサラウンド設定が自動で設定されます。Quick（簡単設定）を行うとオートセットアップで設定された値はQuick（簡単設定）の値に変更されます。

ここではサラウンドに関する最低限度の設定を行うことで、リスニング環境を簡単に設定することができます。まずは接続しているスピーカーを選択します。設定はフロントスピーカーとサラウンドスピーカーが接続されている前提となっているので、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは必ず接続してください。ルームサイズの設定ではSmall、Medium、Largeの中からご自分の部屋に近いサイズを選び、リスニングポジションの設定ではFront、Center、Rearの中からご自分のリスニングポジションに近い設定を選びます。それらを設定することでスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのズレなどを補正し、適切なサラウンド効果が得られるようなります。

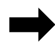


▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。



ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 


② SYSTEM SETUP 

1 [1.Surround Setup]を選んで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 [Quick]を選んで決定する。

簡単設定の設定画面になります。

3 設定したい項目を選んで決定し、その項目の設定内容を変更して決定する。

自動的に次の項目が選択されます。

設定項目の種類と内容は以下の通りです。

Subwoofer：

サブウーファーを接続しているときは[YES]を選択し、接続していないときは[NO]を選択します。

Center SP：

センタースピーカーを接続しているときは[YES]を選択し、接続していないときは[NO]を選択します。

SurrBack SP：

サラウンドバックスピーカーを接続しているときは[YES]を選択し、接続していないときは[NO]を選択します。

Room size：

リスニングルームのサイズが、約3.5 m×4.5 mの場合は[Small]を、約5.5 m×6 mの場合は[Medium]を、約7.5 m×9 mの場合は[Large]を選択します。

Listening Position：

リスニングポジションが、フロントスピーカーに近い場合は[Front]を、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの中間の場合は[Center]を、サラウンドスピーカーに近い場合は[Rear]を選択します。

4 [Exit]を選んで決定する。

簡単設定を終了します。

次は[Auto setting]（➡ P.10 ）、[Normal]（➡ P.36 ）、[Expert]（➡ P.78 ）の中から設定したい項目を選びます。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

2

```
1.Surround Setup

  [ SurrBack System ]
  [ Auto Setting    ]
► [ Quick           ]
  [ Normal          ]
  [ Expert          ]
  [ Exit            ]
```

3

```
QUICK

► Subwoofer        [ YES]
  Center SP        [ YES]
  SurrBack SP      [ YES]
  Room size        [ Medium]
  Listening Position
                   [ Center ]
  [Exit]
```

4

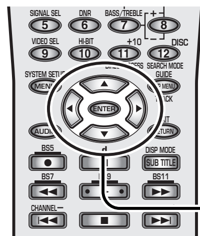
```
QUICK

  Subwoofer        [ YES]
  Center SP        [ YES]
  SurrBack SP      [ YES]
  Room size        [ Small   ]
  Listening Position
                   [ Front   ]
► [Exit ]
```

Normal（サラウンドの基本設定）

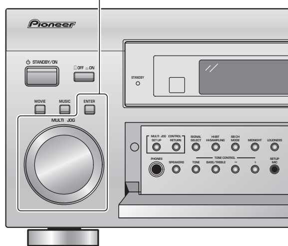
「ホームシアター入門 step2」（➡ P.10 ～ P.13 ）でオートセットアップを行った場合は、ここでの設定は必要ありません。オートセットアップではNormal（サラウンドの基本設定）で設定する以上に細やかなサラウンド設定が自動で設定されます。

ここでは、サラウンド設定の基本となる「Speaker Setting（スピーカーシステムの設定）」、「Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）」、「Channel Delay（スピーカーまでの距離の設定）」を手動で設定します。それぞれの詳細は「音場補正の設定項目の詳細と効果」（➡ P.32 ）をご覧ください。



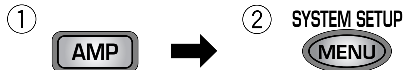
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~3



1~3

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 [1.Surround Setup]を選んで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 [Normal]を選んで決定する。

サラウンドの基本設定のメニュー画面になります。

「Exit」を選んで、決定するとサラウンドの基本設定を終了します。

[Speaker Setting]（➡ P.37 ）：
スピーカーの有り/無し、低域再生能力の大/小を設定します。

[Channel Level]（➡ P.39 ）：
リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせるように設定します。

[Channel Delay]（➡ P.40 ）：
リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。

3 38ページ～40ページに記載されているサラウンドの基本設定の各項目の手順に従って設定を行う。

この場合、各項目の手順3へお進みください。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

1

System Setup
▶[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

2

1.Surround Setup
[SurrBack System]
[Auto Setting]
[Quick]
▶[Normal]
[Expert]
[Exit]

Normal
▶[Speaker Setting]
[Channel Level]
[Channel Delay]
[Exit]

Speaker Setting（スピーカーシステムの設定）

この設定はソースに含まれる音声成分の全てを再生するために必要な基本設定です。

- **スピーカーの有り/無し、低域再生能力の大/小の設定**
  この設定をしないと音声成分の一部が欠落してしまう場合がありますので、お手持ちのスピーカーシステムや視聴環境などに合わせて正しく設定してください。サラウンドバックスピーカーは1本(×1)か2本(×2)かも設定します。

サブウーファー以外

[LARGE](大) : 低音域を再生する十分な能力がある場合。
[SMALL](小) : そのチャンネルの低音域をフロントまたはサブウーファーから出力する場合。
[NO](無) : 接続しない場合（NOに設定されたチャンネルの音声はほかのスピーカーから出力されます）

サブウーファー

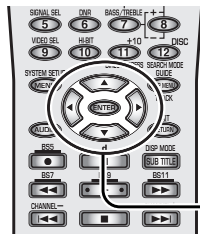
[YES](有) : サブウーファーを接続する場合。
[PLUS] : LFE成分とフロント・センターchの低音域を、両方ともサブウーファーから出力する場合。ただし、アナログ入力ではリスニングモードによってサブウーファー出力が無い場合もあります。
（フロントスピーカーがSMALL設定の場合、この設定は選択できません。）
[NO](無) : サブウーファーを接続しない場合
（フロントスピーカーがSMALL設定の場合、この設定は選択できません。）

以下の組み合わせが設定可能です。

フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
SMALL	**SMALL**/NO	**SMALL**	**SMALL**（×1,×2）/NO	**YES** 全ての低域成分を再生する場合
		NO	NO	
LARGE	LARGE/SMALL/NO	LARGE	LARGE（×1,×2）/SMALL（×1,×2）/NO	*YES/PLUS/NO * 5.1ch収録のLFE成分と、SMALL設定されたチャンネルの低域成分を再生する場合
		SMALL	SMALL（×1,×2）/NO	
		NO	NO	

太字：工場出荷時の設定

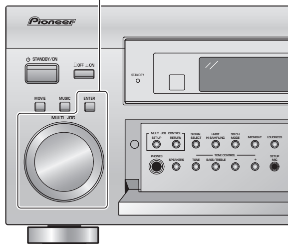
サラウンドの設定



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

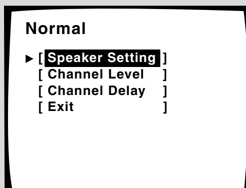
1~8

1~8

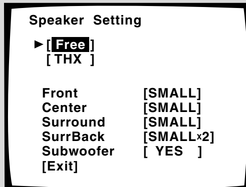


以下はOSD画面(テレビ画面)です

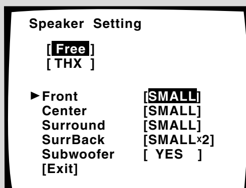
3



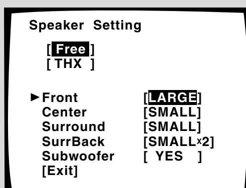
4



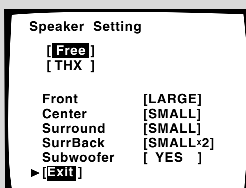
5



6

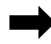


8



ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 


② SYSTEM SETUP 

1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Normal]を選んで決定する。**

3 **[Speaker Setting]を選んで決定する。**

スピーカーシステムの設定になります。

4 **設定方法を選んで決定する。**

[Free]：手動ですべてを設定します。この場合は手順5へお進みください。

[THX]：THXの推奨によりすべてsmallで設定されるので、SurrBackの接続した本数のみを設定します。この場合は手順6へお進みください。

5 **設定するスピーカーを選んで決定する。**

手順4で[THX]を選んだ場合、SurrBack以外は選択できません。

6 **手順5で選んだスピーカーを[LARGE]、[SMALL]、[YES]、[NO]、[PLUS]のいずれかに設定し、決定する。**

設定するスピーカーによって選べる内容が異なります。設定内容については前ページの説明をご覧ください。

7 **それぞれのスピーカーに手順5～6を繰り返す。**

8 **[Exit]を選んで決定する。**

スピーカーシステムの設定を終了します。

次ページの[Channel Level]に進みます。この場合、39ページ手順3へお進みください。

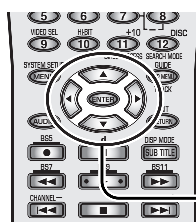


メモ

・サブウーファーをPLUSにした場合、サブウーファーの低域成分とフロントの低域成分の打ち消しが発生し、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、まずスピーカーの設置場所や向きを変えてみてください。それでも解消されない場合は実際に音を出しながらサブウーファーをYESにしたり、フロントスピーカーを小(SMALL)にしてみて比較し、最適な設定にしてください。

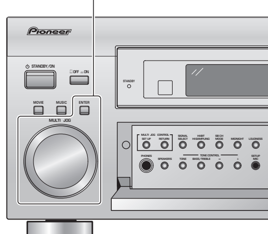
Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）

リスニングポジション（視聴位置）での各チャンネルの音量レベルが一定に揃うように調整します。実際に出力されるテストトーンを耳で確かめながら手動で各スピーカーの出力レベルを調整します。音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト/スローモードで75dB SPLに調整してください。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

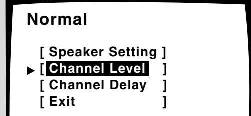
1~8



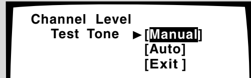
1~8

以下はOSD画面（テレビ画面）です

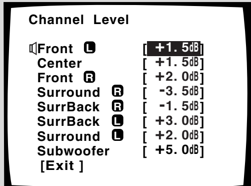
3



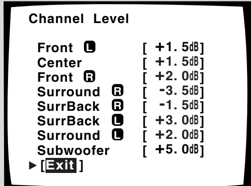
4



5 Manualの場合



8 Manualの場合





メモ

リモコンまたは本体で調整するときは、リモコンのEFFECT/CH SELボタンまたは本体EFFECT/CH LEVELのSELECTボタンで調整するスピーカーを選び、+/−ボタンで調整します。

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 

➡
② 

1 [1.Surround Setup]を選んで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 [Normal]を選んで決定する。

3 [Channel Level]を選んで決定する。

スピーカー出力レベルの設定になります。

4 **設定方法を選んで決定する。**

[Manual]：テストトーンを再生するスピーカーを手動で切り換えて調整します。この場合は手順5へお進みください。

[Auto]：テストトーンを再生するスピーカーが自動で切り換わります。この場合は手順6へお進みください。

〜ご注意〜

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

5 **調整するスピーカーを選んで決定する。**

6 **チャンネルレベルを調整する。**

−10dBから＋10dBの範囲内において0.5dB間隔で調整することができます。

[Manual]の場合：手順5で選んだスピーカーのチャンネルレベルを**▲ ▼ボタン**で調整し、**ENTERボタン**で決定する。順7へお進みください。

[Auto]の場合：自動で選択されたスピーカーのチャンネルレベルを順次**▲ ▼ ボタン**で調整する。全てのチャンネルレベルを調整したら手順8へお進みください。

〜ご注意〜

サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

7 **それぞれのチャンネルに手順5〜6を繰り返し、全てのチャンネルレベルを調整したら[Exit]を選びます。**

8 ENTERボタンを押して[Exit]を決定する。

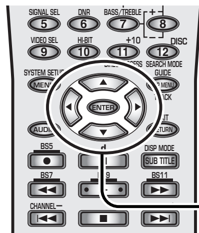
スピーカー出力レベルの設定を終了します。

次ページの「Channel Delay」に進みます。この場合、40ページ手順3へ進みます。

サラウンドの設定

Channel Delay（スピーカーまでの距離の設定）

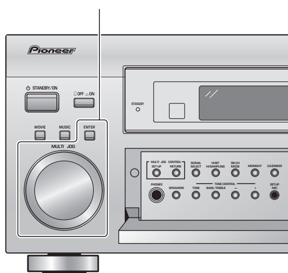
リスニングポジション（視聴位置）からスピーカーまでの距離を設定することにより、各チャンネルの再生にディレイタイムが付加され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。マニュアルで設定する場合は、それぞれのスピーカーから視聴位置までの距離を測り、ここで指定してください。本機は、指定された距離から自動的にディレイタイムを算出します。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~7

1~7



以下はOSD画面（テレビ画面）です

3

```
Normal

  [ Speaker Setting ]
  [ Channel Level   ]
► [ Channel Delay   ]
  [ Exit            ]
```

4

```
Channel Delay

  Front L        [ 3.0m ]
  Center         [ 2.7m ]
  Front R        [ 3.0m ]
► Surround R     [ 2.7m ]
  SurrBack R     [ 2.1m ]
  SurrBack L     [ 1.8m ]
  Surround L     [ 2.4m ]
  Subwoofer      [ 3.3m ]
  [Exit ]
```

5

```
Channel Delay

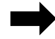
  Front L        [ 3.0m ]
  Center         [ 2.7m ]
  Front R        [ 3.0m ]
► Surround R     [ 3.0m ]
  SurrBack R     [ 2.1m ]
  SurrBack L     [ 1.8m ]
  Surround L     [ 2.4m ]
  Subwoofer      [ 3.3m ]
  [Exit ]
```

7

```
Channel Delay

  Front L        [ 3.0m ]
  Center         [ 2.7m ]
  Front R        [ 3.0m ]
  Surround R     [ 3.0m ]
  SurrBack R     [ 2.1m ]
  SurrBack L     [ 1.8m ]
  Surround L     [ 2.4m ]
  Subwoofer      [ 3.3m ]
► [Exit]
```

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP  ② SYSTEM SETUP MENU

1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**
サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Normal]を選んで決定する。**

3 **[Channel Delay]を選んで決定する。**
スピーカーまでの距離の設定になります。

4 **設定するスピーカーを選んで決定する。**

5 **手順4で選んだスピーカーまでの距離を設定し、決定する。**
0.1mから9mの範囲内において0.1m間隔で設定できます。

6 **それぞれのスピーカーに手順4〜5を繰り返す。**

7 **[Exit]を選んで決定する。**
スピーカーまでの距離の設定を終了します。

8 SYSTEM SETUP MENU **SYSTEM SETUPボタンを押してシステムセットアップを終了する。**
本機が通常操作に戻ります。

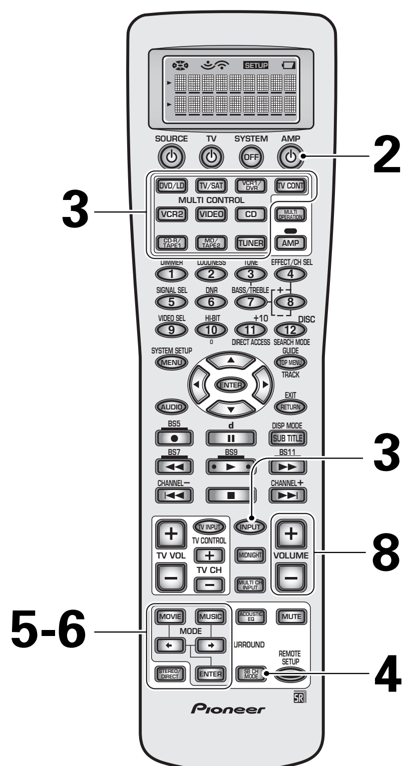


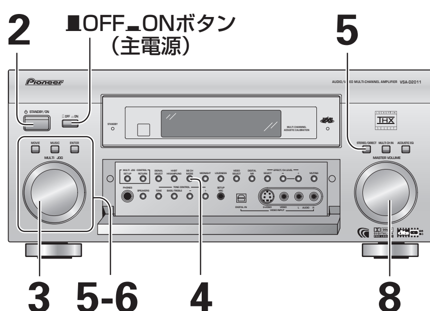
メモ

サラウンドバックスピーカーを2本接続した場合は、設置および設定をリスニングポジションから等距離にしますと、THXモードの効果が最大限に発揮されます。

■ 操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▁)にしてください。

基本再生





1 再生する機器の電源を入れる。

2 AMP 本機の電源を入れる。

3 INPUT 再生する機器を選ぶ。

ボタンを押すたびに(本体の場合は、MULTI JOGを右に回すと)入力が順次切り換わります。リモコンの他機器操作ボタンで直接選択することもできます。
入力信号設定はAUTOに設定されています。
必要に応じて入力信号の種類を選びます。
「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.42)

4 SB CH MODE 再生したいチャンネル数を選ぶ。

詳しくは「サラウンドバックチャンネルのON/AUTO/OFF」(➡ P.44)をご覧ください。

5 好みのリスニングモードのタイプを選ぶ。

MOVIE MUSIC MODE SURROUND STEREO/DIRECT ENTER

「MOVIE」、「MUSIC」、「STEREO/DIRECT」の中から選びます。
ディスプレイに各タイプの名称が表示されます。

6 手順5で選んだサラウンドモードの種類を⬅ ➡ ボタンで選んでENTERボタンで決定する。

再生しているソースや選択されたチャンネル数などに応じて更にモードが選択できます。
⬅ ➡ ボタンを押すたびに(本体の場合は、MULTI JOGを回すと)リスニングモードの種類が順次切り換わります。
ディスプレイの下段にモードの名称が表示されます。
詳しくは「リスニングモードの種類と効果」(➡ P.45)をご覧ください。

7 手順1の再生機器の再生を開始する。

8 音量を調節する。

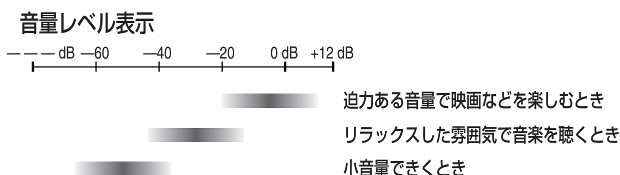
＋ VOLUME －

メモ

- 前面の入力端子に接続した機器を選択するには入力を「VIDEO」にします。
- 本機は、ドルビーデジタル、DTS、PCM(サンプリング周波数 fs：32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHzおよび96kHz)、MPEG-2 AACのデジタル信号に対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できないことがありますので、その場合はアナログ接続してANALOGを選択してください。詳しくは「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.42)をご覧ください。

音量について

再生するソフトや使用するスピーカーによって多少違いますが、表示と音量はおおよそ右図のようになります。



96kHz/24ビットフォーマットディスクの再生について

本機では、DTS 96/24やPCM96kHz(24ビット/20ビット/16ビット)フォーマットのソフトを高音質(すべて96kHzで処理)で再生することができます。

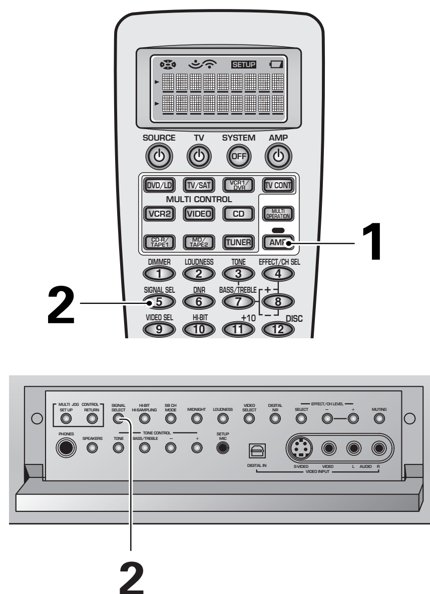
DTS 96/24 5.1chソフト：リスニングモードはSTEREO/DIRECTモード以外のときはDTS 96kHzと表示され、切り換えることはできません(マルチチャンネル出力)。STEREO/DIRECTモードのときは96kHz STEREOと96kHz DIRECTが切り換わり、2ch再生を行います。

96kHz 2chソフト(DTSまたはPCM)：STEREOモードを選択してください。

- DTS 96/24フォーマットはお手持ちのDVDプレーヤーが96kHzデジタル出力に対応していなくても、DTS対応であれば本機を通して再生することができます。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ANALOG/DIGITAL信号の切り換え

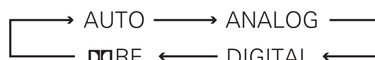
本機では各入力についてアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。



1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 SIGNAL SEL 5 **再生したい入力信号を選択する。**

SIGNAL SELECTボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。



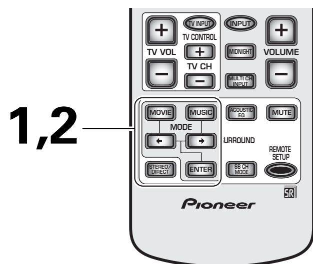
AUTOにしたときは、RF→DIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。(RFはRF端子が割り当てられている入力ファンクションを選んでいるときのみ選択することができます)

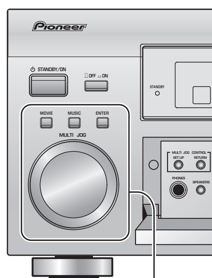
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のLDを再生すると、 DTSの原信号がそのまま再生されるため、ノイズが発生します。入力信号は必ず、DIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります(DTS信号を出力しないなど)。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

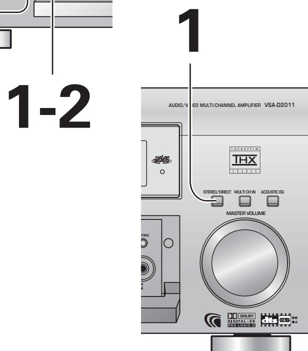
メモ

- すべてのデジタル入力端子がいずれも割り当てられていない機器については、SIGNAL SELECTは、ANALOGに固定されています。
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているL D の音声はデジタル出力からは出力されません。このような音声を再生するには必ずANALOGを選択してください。

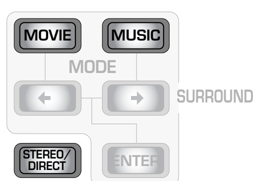
リスニングモードの選択







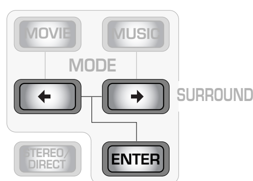
1



好みのリスニングモードのタイプを選ぶ。

「MOVIE」、「MUSIC」、「STEREO/DIRECT」の中から選びます。
ディスプレイに各タイプの名称が表示されます。

2



手順1で選んだサラウンドモードの種類を⬅ ➡ ボタンで選んでENTERボタンで決定する。

再生しているソースや選択されたチャンネル数などに応じて更にモードが選択できます。
⬅ ➡ ボタンを押すたびに(本体の場合は、MULTI JOGを回すと)リスニングモードの種類が順次切り換わります。
ディスプレイの下段にモードの名称が表示されます。
詳しくは「リスニングモードの種類と効果」(➡ P.45)をご覧ください。

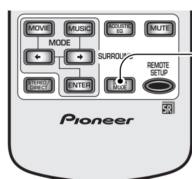
サラウンドバックチャンネルモード

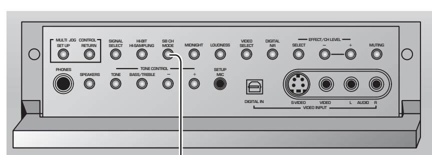
本機ではサラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックスピーカーから音を出す(6.1chまたは7.1ch再生)か出さない(5.1ch再生)かを設定することができます。また、サラウンドバックスピーカーを接続していないときでも、サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すか出さないかを設定することもできます(バーチャルサラウンドバックモード)。

サラウンドバックチャンネルのON/AUTO/OFF

サラウンドバックスピーカーをON、AUTO、OFFのいずれかに設定します。設定内容は以下の通りです。

- ON　：リスニングモードでサラウンドモードが選択されているときは最大7.1chでの再生を行います。
- AUTO：ONと同様ですが、6.1ch再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによってサラウンドバックチャンネルがON/OFFします。
- OFF　：最大5.1chでの再生を行います。(サラウンドバックスピーカーから音は出ません)





1 

サラウンドバックチャンネルをON、AUTO、OFFのいずれかにする。

SB CH MODEボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。

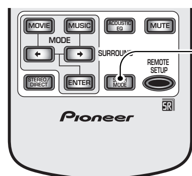


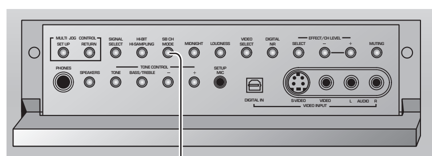
- サラウンドバックチャンネル数を設定した後で「スピーカーシステムの設定」(➡ P.37)を変更すると、サラウンドバックチャンネル数が自動で切り換わることがありますのでご確認ください。
- サラウンドバックチャンネル数は入力ファンクションごとに設定されます。
- マルチチャンネル入力モードまたはステレオモードを選んでいるときは切り換えができません。

バーチャルサラウンドバックモードのON/AUTO/OFF

サラウンドバックスピーカーを接続していないときに、サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すモードです。ON、AUTO、OFFのいずれかに設定します。設定内容は以下の通りです。
バーチャルサラウンドバックモードがONのときはディスプレイにリスニングモード+VSBが表示されます。

- ON　：リスニングモードでTHX CINEMA以外のサラウンドモードが選択されているときはONになり、サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。ただし、ステレオ信号を入力しているときはNeo:6 CINEMA/MUSICまたはパイオニアオリジナルサラウンドモードのときのみONとなります。
- AUTO：ONと同様ですが、6.1ch再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによってバーチャルサラウンドバックモードがON/OFFします。
- OFF　：サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声は出ません。





1 

バーチャルサラウンドバックモードをON、AUTO、OFFのいずれかにする。

SB CH MODEボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。



- バーチャルサラウンドバックモードは入力ファンクションごとに設定されます。
- マルチチャンネル入力モードまたはステレオモードを選んでいるときは切り換えができません。

リスニングモードの種類と効果

本機のリスニングモードは「MOVIE」、「MUSIC」、「STEREO」の3つのタイプに分かれています。モードの切換方法については、「リスニングモードの選択」、「サラウンドバックチャンネルモード」をご覧ください。
本書では特に注記の無い限り、「6.1再生検出信号」の記録されたソースも、5.1chソースとして扱います。
スピーカーの設定によってはサブウーファーから音が出ないことや音が小さいことがあります。詳しくは「スピーカーシステムの設定」（➡ P.37 ）をご覧ください。

MOVIEモード（サラウンド）

MOVIEモードには大きく分けて2つのモードがあります。1つは「THX CINEMA」、「DDPRO LOGIC II MOVIE」、「DDPRO LOGIC」、「Neo:6 CINEMA」の4つで、ドルビーデジタル5.1chなどのマルチチャンネル信号を忠実にデコードをするモードです。2chソースはマトリクス・サラウンド・デコードを行います。もう1つは上記4つのモード以外のモードで6つの中からお好きなモードを選択することができます。これら6つはパイオニアオリジナルサラウンドモードで、映画音声の再生に最適なサラウンド処理を行うモードです。忠実なデコード(2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード)処理の後オリジナルの処理を加えます。(2chソース入力時は、各モードに最適なサラウンド化方式が自動的に割り当てられます)各モードの技術詳細は「技術資料」（➡ P.95 〜 P.97 ）をご覧ください。

THXCINEMA
あらゆる映画ソフトの再生に適します。THX独自技術により映画館の音響に近似した音場が得られます。

DDPL II MOVIE (DDPRO LOGIC II MOVIE)＊
5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み(クロストーク)が少なく、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

DDPRO LOGIC＊
4.1ch化します。ビデオテープやTV放送など、ソースのクオリティを問わずご使用いただけます。

Neo:6 CINEMA＊
6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chソースを6.1chソースと同じような雰囲気でお楽しみいただけます。これはセパレーション特性を重視したデコードによるものです。

＊ ドルビーデジタル5.1chなどのデジタルマルチチャンネル信号を入力しているときは、ソフトに忠実なデコードを行い、ディスプレイにはデコード名称が表示されますので、DDPRO LOGIC II MOVIE、DDPRO LOGIC、Neo:6 CINEMAの3つのモードを選択することはできません。

ACTION
包み込むような空間での反射音を再現します。大きい音がしっかり定位し、躍動感、スピード感が楽しめます。アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を、あますところなく楽しんでいただけます。アクション系の映画の再生に効果的です。(2chソースのサラウンド化のデコード方式：Neo:6 CINEMA)

SCI-FI (Science Fiction)
広い空間に音が抜けていくイメージです。セリフと効果音の分離が良いため、SF映画などのSE(特殊効果音)の多いソースに効果的です。(2chソースのサラウンド化のデコード方式：DDPRO LOGIC II MOVIE)

DRAMA

サラウンドスピーカーからの音が一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで、落ち着いた雰囲気で映画を楽しんでいただけます。幅広い範囲でサラウンド効果が楽しめ、直接音もしっかりと響きます。ストーリー性重視の映画の再生に効果的です。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：DDPRO LOGIC II MOVIE）

MUSICAL

ミュージカルなどの音楽系ソースを再生しているときのサラウンド感や、コンサートホールのホール感を再現します。広い空間で音に包み込まれるような響きが特徴です。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：Neo:6 MUSIC）

MONOFILM

古い映画やモノラル信号のテレビ放送も含め、すべてのソースに適したマルチチャンネルサラウンドモードです。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：DDPRO LOGIC）

X-D THEATER（Xはサラウンドバックチャンネルモードに合わせて5または7と表示されます）

2chで収録された音声を、5chまたは7chのサラウンド効果で再生できます。ドルビーサラウンドソフト再生時は特に効果的です。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：DDPRO LOGIC）

MUSICモード（サラウンド）

MUSICモードには大きく分けて2つのモードがあります。1つは「DDPRO LOGIC II MUSIC」、「Neo:6 MUSIC」の2つで、ドルビーデジタル5.1chなどのマルチチャンネル信号を忠実にデコードをするモードです。2chソースはマトリクス・サラウンド・デコードを行います。もう１つは上記2つのモード以外のモードで6つの中からお好きなモードを選択することができます。これら6つはパイオニアオリジナルサラウンドモードで、あらゆる音楽ソースの再生に適したオリジナルのサラウンドモードです。以下6つの中からお好きなモードを選択することができます。忠実なデコード(2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード)処理の後オリジナルの処理を加えます。（2chソース入力時は、各モードに最適なサラウンド化方式が自動的に割り当てられます。）各モードの技術詳細は「技術資料」(➡ P.95 ～ P.97)をご覧ください。

DDPL II MUSIC (DDPRO LOGIC II MUSIC)*

5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み(クロストーク)が少なく、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

Neo:6 MUSIC*

6.1ch化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適したモードといえます。また、センターとサラウンド、サラウンドバックｃｈから出力される音声が音場にナチュラルな拡がり感を加えます。

* ドルビーデジタル5.1chなどのマルチチャンネル信号を入力しているときは、ソフトに忠実なデコードを行い、ディスプレイにはデコード名称が表示されますので、DDPRO LOGIC II MOVIE、DDPRO LOGIC、Neo:6 CINEMAの3つのモードを選択することはできません。

CLASSICAL

大型のコンサートホールをシミュレートしています。クラシック系の音楽に適しています。反射音の遅延時間帯が長く、さらに残響音を加えることでコンサートホール特有の美しい響きと、オーケストラの迫力が楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。DSP処理でサラウンド化します。）

CHAMBER

石（コンクリート製）のコンサートホールをシミュレートしています。残響音豊かな本格的コンサートホールの響きを楽しむことができます。クラシック音楽などで自然な広がりを感じていただけます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。DSP処理でサラウンド化します。）

JAZZ

一般的なジャズクラブをシミュレートしています。音の響きが強くなるのが特徴です。反射音のほとんどが100ms以下で、目の前で演奏しているような迫力と定位感を楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：Neo:6 CINEMA）

ROCK

中規模コンサートホールをシミュレートしています。楽器の分離感と臨場感があり、重低音に迫力のあるサラウンドを楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：◻◻PRO LOGIC II MUSIC）

DANCE

フロアの床面が正方形をしているクラブをシミュレートしています。音の響きが強いのが特徴です。反射音の遅延時間はほとんどが50ms以下で、迫力あるDANCE MUSICが楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：◻◻PRO LOGIC II MUSIC）

X-CH STEREO（Xは再生モードに合わせて5または7と表示されます）

標準のステレオ（2ch）音声を加工することなく、5本または7本のスピーカーにて再生しますのでお部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。ステレオ音声のまま最大7本のスピーカーにて再生します。）

STEREO（ステレオ）モード

左右のフロントスピーカーからステレオ音声（2ch）で再生するモードです。
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースは2chにダウンミックスして再生します。

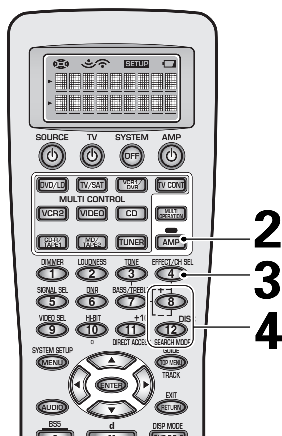
- STEREO
  音場補正（Surround Setup）での各設定を反映し、「便利な音声再生用機能」（➡ P.51）の効果を加えてステレオ再生することができます。
- DIRECT
  2chソースを原音に忠実な高品位ステレオ再生します。「スピーカーシステムの設定」（➡ P.37）における設定は反映されます。
  ただし、サブウーファーがPLUS設定でもアナログ入力の場合はサブウーファー出力はありません。

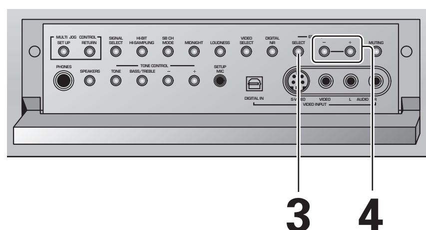


- 「DIRECT」を選択しているときに、「アコースティックキャリブレーションEQ」（➡ P.50）や「便利な音声再生用機能」（➡ P.51）をONにすると、自動的に「STEREO」に切り換わります。

リスニングモードの効果を調整する

ＭＯＶＩＥまたはＭＵＳＩＣモードのエフェクト効果を調整します。調整できるリスニングモードはＭＯＶＩＥが「ACTION」、「SCI-FI」、「DRAMA」、「MUSICAL」、「MONOFILM」、「X-D THEATER」の6つです。MUSICでは「CLASSICAL」、「CHAMBER」、「JAZZ」、「ROCK」、「DANCE」の5つを調整することができます。





1 効果を調整したいリスニングモードを選択する。
(➡ P.43 P.45)

2 AMP リモコンをアンプ操作モードにする。

3 EFFECT/CH SELL 4 **エフェクトレベルの設定にする。**

ディスプレイに「EFFECT」が表示されるまでEFFECT/CHSELボタンを数回押してください。



4 ＋ 8 － 12 **エフェクトレベルの効果を調整する。**

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。10が最も効果が弱く、90が最も効果を強くします。１０ステップで調整します。

メモ

- 工場出荷時の設定は50に設定されています。
- 本体でエフェクトレベルを調整する場合は、フロントパネルのEFFECT/CH LEVELのSELECTボタンを何度か押してディスプレイに「EFFECT」を表示させ、＋/－ボタンを押して調整します。

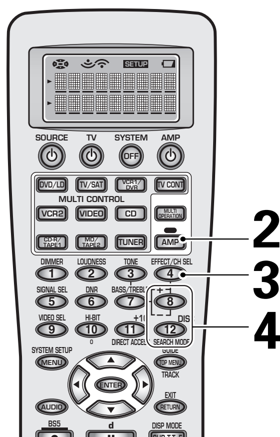
ⅅⅅPRO LOGIC II MUSICモードに音響効果を加え、調整する

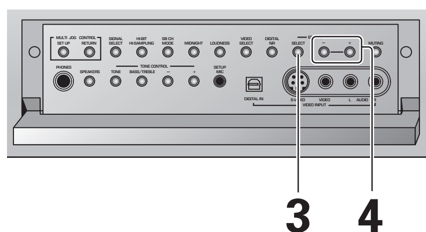
ⅅⅅPRO LOGIC II MUSICモードには3つの音響効果を加え、その効果を調整することができます。それぞれの説明は以下の通りです。

CENTER WIDTH：センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーに振り分けて出力することで、音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生により適した音場を創り出すことができます。効果は0～7の範囲で調整することができます。0がセンタースピーカーからのみの出力で、7はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。工場出荷時は3に設定されています。

DIMENSION：リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで、拡がりのある音場を創り出すことができます。－3から＋3の範囲で調整することができます。－3はリスニングポジションから前方の音場が強くなり、＋3はリスニングポジションから後方の音場が強くなります。工場出荷時は0に設定されています。

PANORAMA：前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドchに繋げるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。オンまたはオフの設定で、工場出荷時はオフに設定されています。





1 ⅅⅅPRO LOGIC II MUSICモードを選択する。
（➡ P.43 P.46 ～ P.47 ）

2 AMP リモコンをアンプ操作モードにする。

3 EFFECT/CH SELL 4 「CENTER WIDTH」、「DIMENSION」、「PANORAMA」の中から加えたい音響効果を選ぶ。

ディスプレイに設定したい音響効果が表示されるまでEFFECT/CH SELボタンを数回押してください。
それぞれの音響効果の詳しい説明は上記を参照。

4 ＋ 8 － 12 音響効果を調整する。

それぞれの音響効果の詳しい調整値は上記を参照。

メモ

- 本体でⅅⅅPRO LOGIC II MUSICモードに音響効果を加える場合は、フロントパネルのEFFECT/CH LEVELのSELECTボタンを何度か押してディスプレイに「CENTER WIDTH」、「DIMENSION」、「PANORAMA」のいずれかを表示させ、＋/－ボタンを押して調整します。

アコースティックキャリブレーションEQのON/OFF

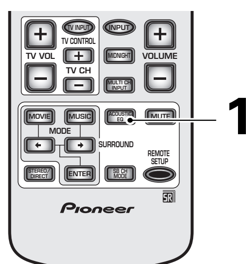
「オートサラウンドセットアップ」で設定した「視聴環境の周波数特性の補正」(➡ P.32)での設定をON/OFFします。自動設定を行っても、以下の設定がOFFになっていると、アコースティックキャリブレーションEQの効果は発揮されません(自動設定後は自動的に「ALL CH ADJUST」でONになります)。設定のONには「ALL CH ADJUST」と「FRONT ALIGN」、「CUSTOM1」、「CUSTOM2」の4つのモードがあります。詳細は以下の通りです。

ALL CH ADJUST：部屋の特性を含めて、サブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性をフラットに補正します。全てのチャンネル間の再生音のつながりが良くなり、サラウンドなどの音場のバランスが改善されるため、ワンランク上の臨場感、迫力をお楽しみ頂けます。

FRONT ALIGN：フロント左/右(L/R)とサブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性を、フロントchの特性に合わせます。フロントchについてはスピーカー本来の性能をそのまま引き出し、他のチャンネルはフロントchの特性に合わせることで、チャンネル間のつながりと音場のバランスを改善します。

CUSTOM1：「オートサラウンドセットアップ」で設定した「視聴環境の周波数特性の補正」の設定値をコピー(保存)することができます。更にCUSTOMにコピーされた設定値は手動で微調整することもできます。

CUSTOM2：CUSTOM1と同様です。



MCACC
インジケーター　1



1 

アコースティックキャリブレーションE Q をONにする。

ボタンを押すたびにアコースティックキャリブレーションEQが以下のように切り換わります。



ALL CH ADJUSTまたはFRONT ALIGN、CUSTOM1、CUSTOM2のときはONとなりMCACCインジケーターが点灯します。


メモ

- アコースティックキャリブレーションEQのON/OFFは全てのファンクションに共通で切り換わります。
- MULTI CH INモードでは、使用できません。
- STEREO DIRECTモード(➡ P.47)を選択しているときにアコースティックキャリブレーションEQをONにすると、DIRECTモードは自動的に解除されます。
- 工場出荷時はOFFに設定されていますが、「オートサラウンドセットアップ」を行うとALL CH ADJUSTで自動的にONになります。

MCACC(Multi Channel ACoustic Calibration system)とは

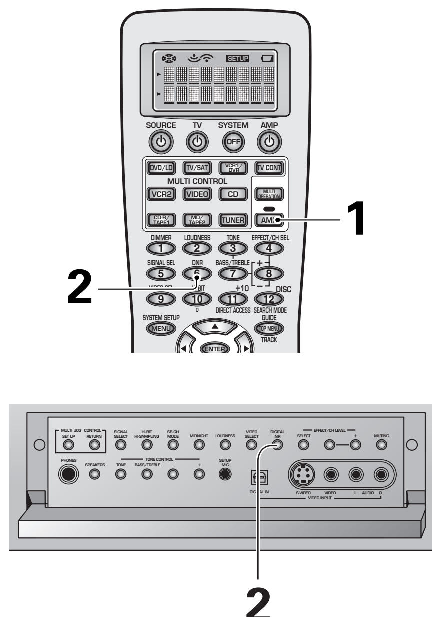
パイオニアのアンプとしての設計思想であるマルチチャンネルステレオフォニック思想(➡ P.6)を深化させる上で、実際の制作現場の技術者へのヒアリングを国内外問わず、徹底的に行ってきました。その中から、特に映画制作のスタンダードを確立したルーカスフィルム社と、音楽レコーディング業界の最高峰エアースタジオ社(ロンドン)の技術陣営との対話から、特にこれまで現実が困難であったアコースティックな環境補正を行うために、「一般家庭でも簡単かつ高精度にスタジオと同等の調整を行えること」を目標として、当社研究所で4年の歳月をかけて開発したのが、MCACC(Multi Channel ACoustic Calibration system)です。この機能により、本機ではスタジオ環境に近似した高精度な音場の自動解析処理と最適補正を可能としました。

便利な音声再生用機能

STEREO/DIRECTモード（P.47）のときに、これらの機能をONにすると、DIRECTモードは自動的に解除されます。

デジタルノイズリダクション機能（ノイズの低減）

DIGITAL NRをONにすると、カセットテープやビデオテープなど、雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減することができます。



1 AMP リモコンをアンプ操作モードにする。

2 DNR 6 DIGITAL NRをONにする。

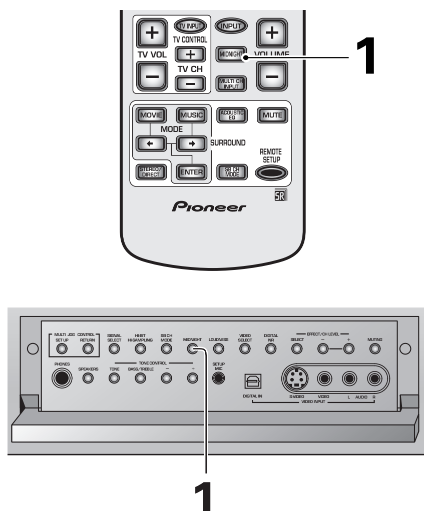
ボタンを押すたび、DIGITAL NRがONまたはOFFに切り換わります。
ONにするとDNRインジケーターが点灯します。

メモ

- 以下の場合は、DIGITAL NRをONにしてもノイズが十分に低減されないことがあります。
  - 突然のノイズ
  - 極端に大きいノイズ
  - 高い周波数成分を非常に多く含む信号
  - もともとノイズの少ない録音状態の良い信号
- 各音源に対し、DIGITAL NRは以下のような改善効果があります。
  ステレオ再生時
  - アナログ入力時 .... 10～18dB
  - デジタル入力 .... 10～15dB
  - AM/FMチューナー .... 10～15dB
  MOVIEまたはMUSICモードで再生時
  .... 6～10dB
- THX CINEMA、MULTI CH INモード、96kHz信号再生時では使用できません。

ミッドナイトリスニング機能（小音量での快適なサラウンド再生）

音量を小さくすると、サラウンド効果が弱くなったり、微小な音やセリフなどが聴きとりにくくなることがあります。ミッドナイトリスニング機能は、ボリュームレベルやソースに応じて様々な補正を行いますので小音量でも全体のバランスが良い状態で映画などをお楽しみいただけます。



1 MIDNIGHT ミッドナイトリスニング機能をONにする。

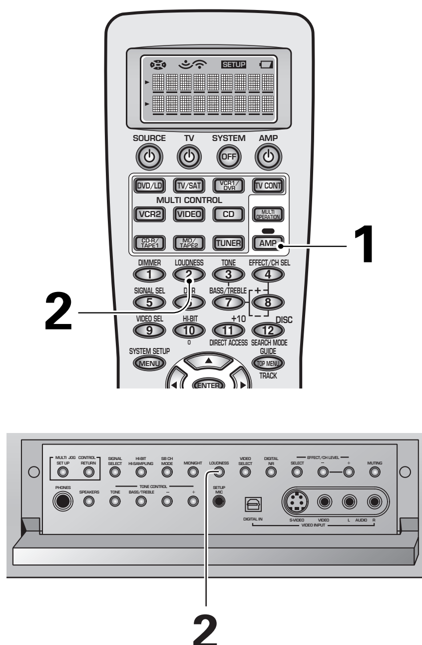
ボタンを押すたびに、ミッドナイトリスニング機能がONまたはOFFに切り換わります。
ONにするとMIDNIGHTインジケーターが点灯します。

メモ

- この機能は音量が－20dBより小音量のときに効果があり、音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- THX CINEMA、MULTI CH INモードでは使用できません。
- ラウドネス機能との併用はできません。

ラウドネス機能（小音量時の高低音域の補正）

ラウドネス機能はボリュームレベルに応じて、低音域、高音域のレベルを適正値に補正します。



1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 LOUDNESS 2 **ラウドネス機能をONにする。**

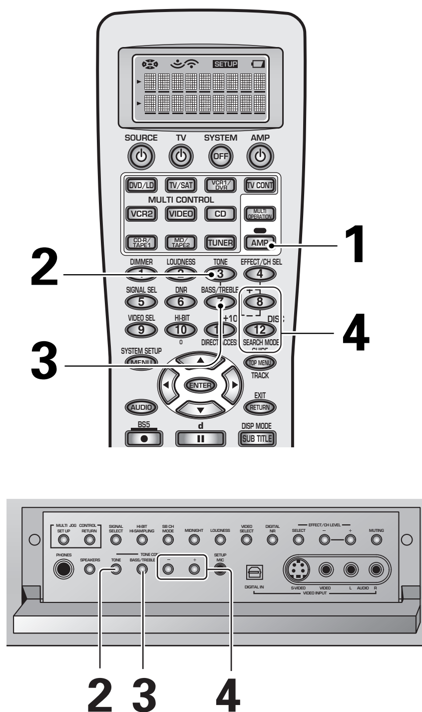
ボタンを押すたびに、ラウドネス機能がONまたはOFFに切り換わります。
ONにするとLOUDNESSインジケーターが点灯します。

メモ

- この機能は音量が－20dBより小音量のときに効果があり、音量に合せて効果も自動調整されます。
- THX CINEMA、MULTI CH INモードでは使用できません。
- ミッドナイトリスニング機能との併用はできません。

トーンコントロール機能（好みに応じた高低音の調整）

トーンコントロール機能をONにすると、低音、高音がお好みによって調整できます。



1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 TONE 3 **トーンコントロールモードをONにする。**

ボタンを押すたびにトーンコントロールモードがONまたはBYPASSに切り換わります。
ONにするとTONEインジケーターが点灯します。

3 BASS/TREBLE 7 **低音か高音を選ぶ。**

ディスプレイに「TONE:BYPASS」が表示されたら手順2 に戻りトーンコントロールモードをONにしてください。
ボタンを押すたびに低音（BASS）と高音（TREBLE）が切り換わります。

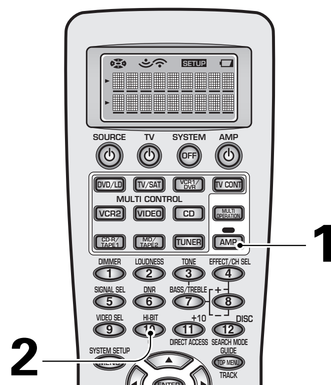
4 ＋ 8 － 12 **調整する。**

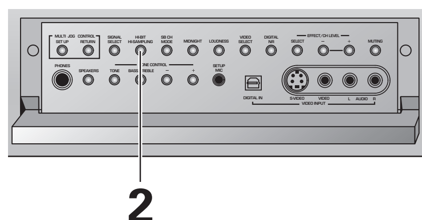
メモ

- トーンは、－6～＋6dBの範囲で調整できます。
- THX CINEMA、MULTI CH INモードでは使用できません。

ハイビット/ハイサンプリング機能

CDやDVDなどの音声信号に対し、ダイナミックレンジの拡大、および周波数方向の広帯域化を行い高音質化します。





1 AMP リモコンをアンプ操作モードにする。

2 HI-BIT 10 ハイビット/ハイサンプリング機能をONにする。

ボタンを押すたび、ハイビット/ハイサンプリング機能がONまたはOFFに切り換わります。ONにするとHi-BIT/SAMPLINGインジケーターが点灯します。

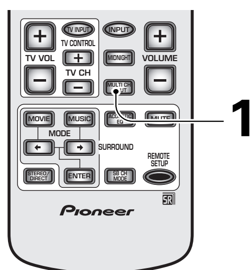


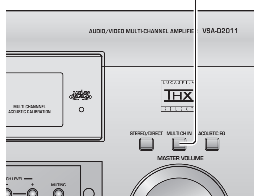
- MULTI CH INモードでは使用できません。
- STEREO/DIRECTモード(P.47)のときに、ハイビット/ハイサンプリング機能をONにすると、DIRECTモードは自動的に解除されます。
- 96kHz信号または88.2kHz信号入力時は使用できません。

DVDオーディオ(マルチチャンネル入力)の再生

MULTI CH IN端子に接続した機器の各チャンネルの音声を、すべてアナログ処理のまま忠実に高SN比にて再生します。映像は入力ファンクション選択で選ばれている機器の映像が映ります。接続については「DVDオーディオプレーヤーの接続」(➡ P.23)をご覧ください。

- スピーカーシステムの設定(➡ P.37)で無し(NO)に設定されているチャンネルからは音が出ません。





1 MULTI CH INPUT マルチチャンネル入力にする。

ボタンを押すたび、ONとOFFが切り換わります。



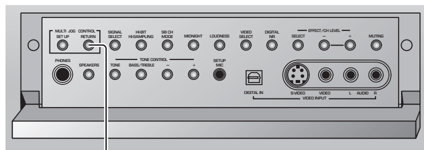
- マルチチャンネル入力信号にはリスニングモードの効果を加えることはできません。リスニングモードを切り換えるとマルチチャンネル入力モードは「OFF」になります。
- 「アコースティックキャリブレーションEQ」(P.50)や「便利な音声再生用機能」(P.51)をONにすることはできません。
- 入力ファンクションごとにマルチチャンネル入力モードを設定することができます。
- マルチチャンネル入力モードは入力ファンクションごとにラストメモリーされます。

DUAL MONO(デュアルモノ)の再生と設定

モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号のことを1＋1デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は、例えば以下のようなMPEG-2 AACやドルビーデジタルの1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 2 か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1　　：チャンネル1の音声のみを再生する場合。
ch2　　：チャンネル2の音声のみを再生する場合。
ch1/ch2：チャンネル1／チャンネル2の音声をそれぞれ左／右のフロントスピーカーから分けて再生する場合。



1



デュアルモノ信号を検出するとLとRが数秒点滅します。その後ch1選択時はL、ch2選択時はR、ch1/ch2選択時はL Rが点灯します。

1



フロントパネルのRETURNボタンを3秒以上押し続けてデュアルモノの設定を変更する。

ボタンを押し続けることで以下のように切り換わります。

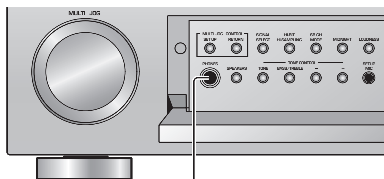


聞きたいチャンネルが表示されているときに指を離してください。



- 工場出荷時の設定はDUAL ch1に設定されています。

ヘッドホンを使う



ヘッドホン端子

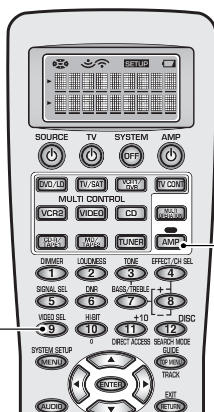
1 **ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込む。**



- ヘッドホンを差し込むとスピーカーから音は出なくなります。ただし、MULTI CH INモードのときはサブウーファーからのみ音が出ます。
- 各リスニングモードの効果は2chにダウンミックスされますが、2chソースに対してマトリクスデコードによるサラウンド処理は行いません。
- MULTI CH INモードのときは、MULTI CH IN端子のFRONT L、Rの音声をヘッドホンから出力します。
- ヘッドホンを差し込んでいるときはSYSTEM SETUPを行うことはできません。

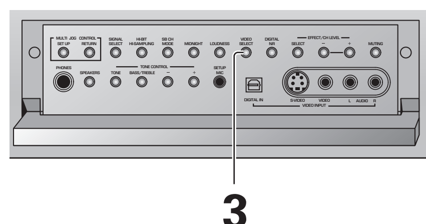
別のファンクションの映像を見る(ビデオセレクト)

ビデオセレクト機能は、お好みの音楽ソースを聞きながら別の機器のビデオ映像などを同時に見ることができる機能です。



2

3

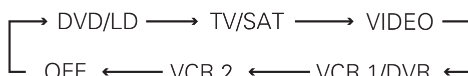


3

1 **音楽ソースを再生する。**
(「基本再生」➡ P.41)

2 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

3 VIDEO SEL 9 **映像のみを再生したいビデオ入力を選択する。**
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。



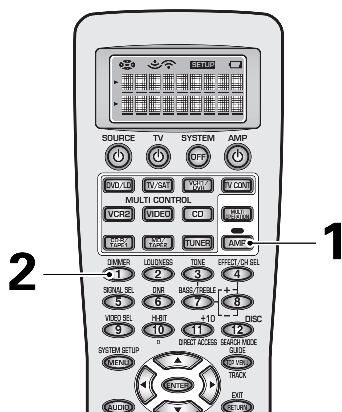
4 **手順3で選択したビデオ入力機器を再生する。**
(「基本再生」➡ P.41)

メモ

- ビデオセレクト機能は、本機の電源を切ったり、入力ファンクションを切り換える(または他機器操作ボタンを押す)とキャンセルされます。

ディスプレイの明るさを調整する

リモコンのDIMMERボタンを使って、フロントパネルディスプレイの明るさを調整できます。



1

2

1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

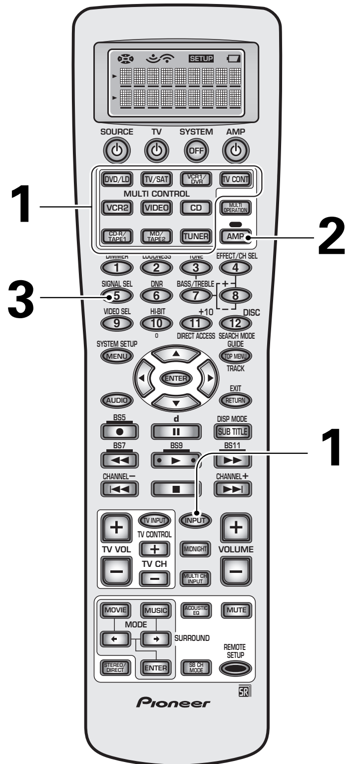
2 DIMMER 1 **好みの明るさに調整する。**
ボタンを押すたびにディスプレイの明るさを4段階に調整できます。
一巡すると、普通の明るさに戻ります。

メモ

- 調整値に関わらず、操作時は一時的に明るく表示します。

本機を使った録音/録画

オーディオ機器からの音声やビデオ機器からの映像、音声を本機を使って録音/録画する方法について説明します。ソース機器と録音・録画機器の接続は「接続」(➡ P.25 P.26 P.27)をご覧ください。



1 INPUT **録音または録画したいソースを選ぶ。**

ボタンを押すたびに(本体の場合は、INPUT SELECTORを右に回すと)入力が順次に切り換わります。

2 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 SIGNAL SEL 5 **入力信号を選択する。**

デジタル録音するときは、DIGITALを選択します。詳しくは「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.42)をご覧ください。

4 **録音機器の録音またはビデオデッキ(DVDレコーダー)の録画を開始する。**

5 **録音または録画するソースを再生する。**

メモ

- **音声はアナログーデジタル変換していませんので、接続する信号の種類を合わせてください。**
- **映像はコンポジットまたはSビデオで接続し、ソース機器と録画機器のコードの種類を合わせてください。**
- 「オートセットアップ(➡ P.10)を行っているときには録音・録画を行わないでください。
- 各録音信号に、本機の音量、チャンネルレベル、「便利な音声再生用機能」(➡ P.51)、リスニングモードの設定は、反映されません。ただし、PHONO入力を録音するときは「便利な音声再生用機能」、リスニングモードの設定は反映されます。しかし、この場合操作するたび音がとぎれることがありますのでDIRECTモードにして録音することをおすすめします。
- デジタル出力については、再生はできても信号の種類やコピーガード、録音機器の仕様などにより録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください(➡ P.26)。
- MULTI CH INPUTに入力された音声は、録音することができません。
- DVDなどのビデオソフトの中にはコピーガードが設定されていて録画できないものがあります。

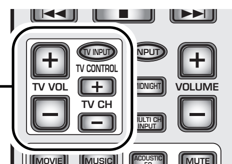
他機器を操作するためのリモコン設定

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品(DVDプレーヤーなど)や他社の機器(ビデオデッキ、テレビなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出して簡単に本機のリモコンで操作できるようになります(Preset Recall)。プリセットコードが登録されていない場合、または本機のリモコンで操作できる機能を追加したい場合は、その操作のリモコンコードを直接登録(学習)することができます(Learning)。



- ケーブルTVチューナーとモニターTVなどを登録したいときは、モニターTVをTV CONT、ケーブルTVチューナー(ソース機器)をTV/SATに登録すると便利です。
- リモコンが他機器の操作モードになっていても、TV CONTに登録された機器はTV CONTROLボタンでいつでも操作することができます。

TV CONTROL ボタン



リモコン設定操作ガイド



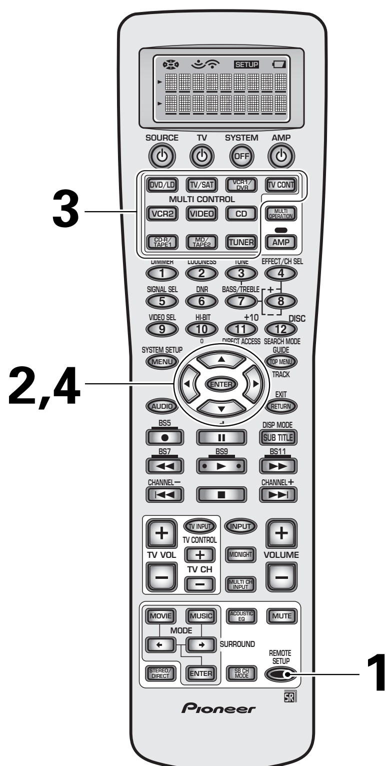
各種リモコン設定中(➡ P.57 ～ P.71)、リモコンディスプレイの左上部に左記のマークが表示されたときはそのボタンを使用して設定作業を行うことを意味しています。

Preset Recallセットアップモード(プリセットコードの呼び出し)

ここでは、本機のリモコンの他機器操作ボタンに、操作したい他機器のプリセットコードを登録します。



- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

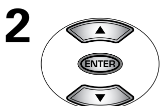


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

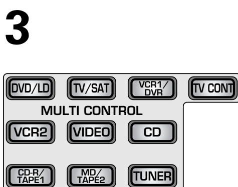
2



「Preset」を選んで決定する。

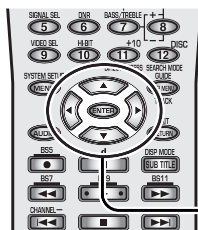
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3

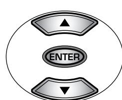


プリセットコードの登録をしたい他機器操作ボタンを選択する。

<ITEM>が表示されます。操作する機器と他機器操作ボタンとの名称を一致させておくことをおすすめしますが、異なる名称の機器を登録することも可能です(TVボタンにLDプレーヤーのプリセットコードを登録するなど)。異なる名称の端子(入力ファンクション)に機器を接続しているときは、その端子に対応する他機器操作ボタンを選択してください。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

4 

登録したい機器の種類を選んで決定する。

リモコンのディスプレイにメーカー名が表示されます。

5 登録したい機器のメーカーを選ぶ(「プリセットコードメーカー一覧」➡ P.98)。

同じメーカー内にプリセットコードが複数ある場合は−1、−2と続いて表示されます。

6 選択した機器にリモコンを向けてENTERボタンを押す。

リモコンからその機器の電源ON/OFF信号が送られた後に、リモコンのディスプレイに<OK?>が表示されます。

機器の電源がON/OFFした場合

その機器のプリセットコードが呼び出されました。「YES」を選んで、手順7へお進みください。

機器の電源がON/OFFされなかった場合

呼び出されたプリセットコードがその機器のリモコンコードと一致していない可能性があります。同一メーカーで機器のプリセットコードが複数ある場合は「NO」を選んで決定した後に、別の番号を使って手順5からやり直してください。

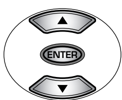
メモ

・ENTERボタンは選択した機器に向けて押さないと、機器の電源はON/OFFしません。
・選択した機器にSTANDBY/ONモードがない場合は、正しく設定できていても電源はON/OFFしません。この場合はそのまま手順7へ進み、その後に実際に操作できるかどうか試してみてください。
・表示されている全ての番号を押しても電源がON/OFFまたは操作できない場合は「Learningセットアップモード」(➡ P.59)で登録してください。

7 

プリセットコードの登録を決定する。

「COMPLETE」と表示され、Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。
手順2〜6を繰り返し、その他の機器も設定します。

8 

「Exit」を選んで決定する。

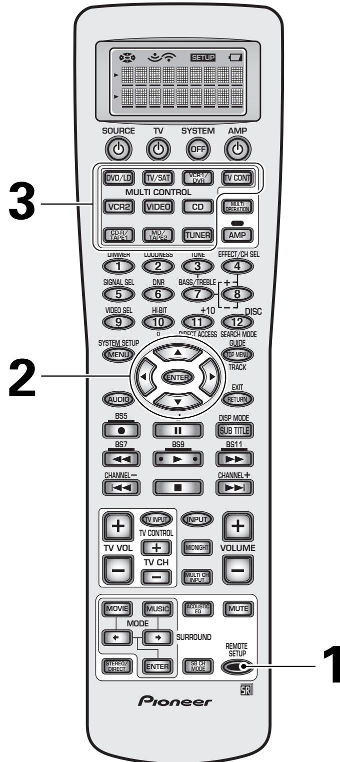
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

Learningセットアップモード(他機器のリモコンコードを本機のリモコンに登録する)

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードが登録できない場合は、以下の手順で他機器のリモコンコードを本機のリモコンに登録(学習)することができます。プリセットコードを設定しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録(学習)することができます。



- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

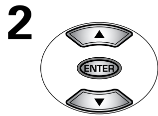


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

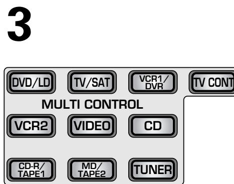
2



「Learning」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3

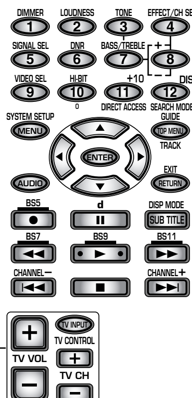


リモコンコードの登録をしたい他機器操作ボタンを選択する。

操作する機器と他機器操作ボタンとの名称を一致させておくことをおすすめしますが、異なる名称の機器を登録することも可能です(TVボタンにLDプレーヤーのボタンを登録するなど)。異なる名称の端子(入力ファンクション)に機器を接続しているときは、その端子に対応する他機器操作ボタンを選択してください。

4

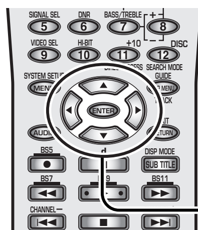




登録したい操作ボタンを選択する。

選択された他機器操作ボタンと選択された操作ボタンを表示後、「LEARN」が点滅表示されます。

手順3でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。

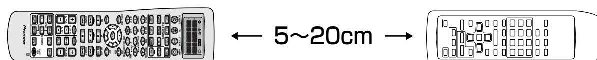


▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

6~8

5 **「LEARN」が点滅している間に他機器のリモコンを下図のように本機のリモコンに向け、他機器リモコンの登録したい操作ボタンを押す。**

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向けます。



② 登録したい操作のボタンを押します。「O K 」が表示された後、<Continue?>が表示されます。

・「Select Key」が点滅している場合は手順4からやり直してください。

6 **登録を続ける場合は、以下の手順を行います。**

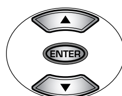
同じ他機器操作ボタンに別のリモコンコードを追加登録するには

「Yes」を選んで決定した後に、手順4～5を繰り返します。

別の他機器操作ボタンにリモコンコードを登録するには

「No」選んで決定した後に、手順2～6を繰り返します。

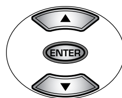
7



「Exit」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

8



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

メモ

・手順5で「NG」と表示されたり、登録後に実際に操作できない場合は下記の方法を試してみてください。（リモコンコードによっては正しく登録できないものもあります）

手順5でリモコン同士の距離を変えてみる

リモコンコードが正しく認識される場合があります。

・手順5で「FULL」と表示されたときは、メモリに十分な空き容量が無いことを示しているので以下の方法を試してみてください。

必要に応じて別のボタンの設定をクリアしてから登録し直してください。「リモコンの設定クリア」（➡ P.70 ）

他機器のリモコン操作

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(➡ P.57)をご覧ください。
- **実際に操作を始める前に操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をお読みください。**
- 機種によっては操作できないボタンもあります。

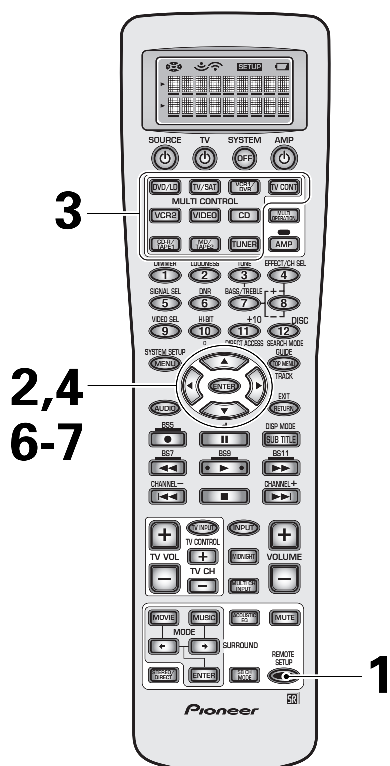
ボタン	DVD	テレビ	BSデジタルチューナー内蔵テレビ	CATV	VTR (ビデオデッキなど)	CD/CD-R/MD/TAPE	TUNER
	DVDレコーダー		BSデジタルチューナー				
	LD						
⏻	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF
►	再生	BS9	緑		再生	再生	BAND
■	停止		d（データ連動）		停止	停止	CLASS
❚❚	一時停止				一時停止	一時停止	RF ATT
►►	早送り	BS11	黄	ページを1つ上げる	早送り	早送り	TUNING＋
◄◄	早戻し	BS7	赤	ページを1つ下げる	早戻し	早戻し	TUNING－
►►❙	次のチャプター(トラック)の頭出し	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	トラックの頭出し	STATION＋
❙◄◄	前のチャプター(トラック)の頭出し	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	トラックの頭出し	STATION－
●（2度押し）	[DVDレコーダー] 録画	BS5	青		録画	[CD-R/MD/TAPE] 録音	MPX
RETURN/EXIT	[DVD/DVDレコーダー] 設定画面などで1つ前に戻る	戻る	設定画面などで1つ前に戻る	Exit			
TOP MENU/GUIDE	[DVD/DVDレコーダー] トップメニュー画面を表示		番組表を表示	番組表を表示			
MENU	[DVD/DVDレコーダー] 各種メニュー画面を表示	各種メニュー画面を表示	BSメニュー/番組ナビを表示	各種メニュー画面を表示			
AUDIO	音声の選択	音声の選択	音声の選択		TVチューナーとビデオチューナーの切り換え	[TAPE] リバース面への切り換え	
SUB TITLE/DISP MODE	字幕の選択	表示コール	表示コール			ディスプレイ表示の変更	DISP MODE
◄ ► ▲ ▼	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作		ダブルテープデッキの操作	▲▼(TUNE+/–) ◄ ►(STATION+/–)
ENTER	操作を決定	操作を決定	操作を決定	操作を決定			
数字ボタン（1〜9）	チャプター(トラック)のダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	[BSチューナー内蔵TV] BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 [BSデジタルチューナー] チャンネルのダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	トラックのダイレクト選択	放送局のダイレクト選択
数字ボタン 10	チャプター(トラック)のダイレクト選択 0	チャンネルのダイレクト選択 10	[BSチューナー内蔵TV] BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 0 [BSデジタルチューナー] チャンネルのダイレクト選択 0	チャンネルのダイレクト選択 0	チャンネルのダイレクト選択 10	トラックのダイレクト選択 10	放送局のダイレクト選択 0
数字ボタン（11）	*チャプター(トラック)のダイレクト選択 +10	チャンネルのダイレクト選択 11 または+10	*チャンネルのダイレクト選択 ・		チャンネルのダイレクト選択 11 または+10	[CD/CD-R/MD] トラックのダイレクト選択 >10	DIRECT ACCESS
数字ボタン（12）	[DVD] Search Mode [DVDレコーダー] ディスクナビゲーター画面を表示 [LD] A面とB面の切り替え	チャンネルのダイレクト選択 12	#	選択したチャンネルの決定	チャンネルのダイレクト選択 12	[CD/CD-R] DISC	

* DVDプレーヤーによっては10以上を選ぶとき＋10方式ではなく、ENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは＋10ボタンで操作することができます。

Direct Functionモードを設定する

ダイレクトファンクションは他機器操作ボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを同時に切り換えるかどうかを設定する機能です。OFFにすると入力ファンクションは切り換わらず、操作ボタンの機能だけが切り換わります。
本機に接続されている機器と、本機の入力切換動作が必要ない機器（直接テレビに接続されているなど）と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてONになっています。

メモ
・1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
・リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
・リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1 REMOTE SETUP 3秒間押し続ける

リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 **「DirctFnc」を選んで決定する。**
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3 **設定したい他機器を選択する。**
<Direct Func>が表示されます。

4 **「On」か「Off」か「＊Exit＊」を選んで決定する。**
「On」：ダイレクトファンクションをONに設定します。
「Off」：ダイレクトファンクションをOFFに設定します。
「Exit」：ダイレクトファンクションの設定を終了します。
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

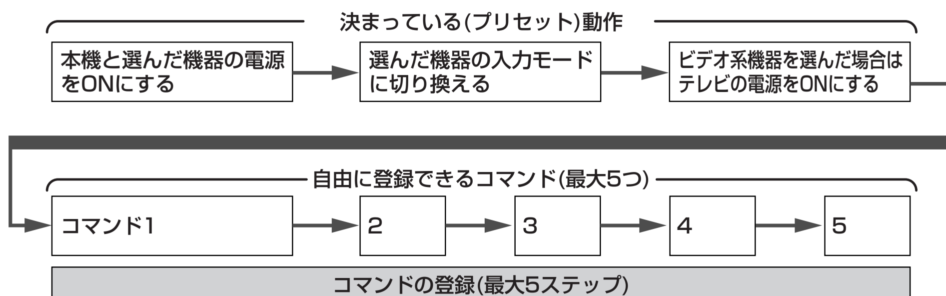
5 **続けてその他の機器の設定を行う場合は、手順2～4を繰り返す。**

6 **「＊Exit＊」を選んで決定する。**
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

7 **「Exit」を選んで決定する。**
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

マルチオペレーション

マルチオペレーションとは、2つのボタン(MULTI OPERATIONと他機器操作ボタン)を押すだけで、あらかじめ決められている(プリセット)動作と、複数の操作(コマンド)を一度に実行する便利な機能です。各他機器操作ボタンに登録することができます。リモコンからは次のようにコマンドが送信されます。



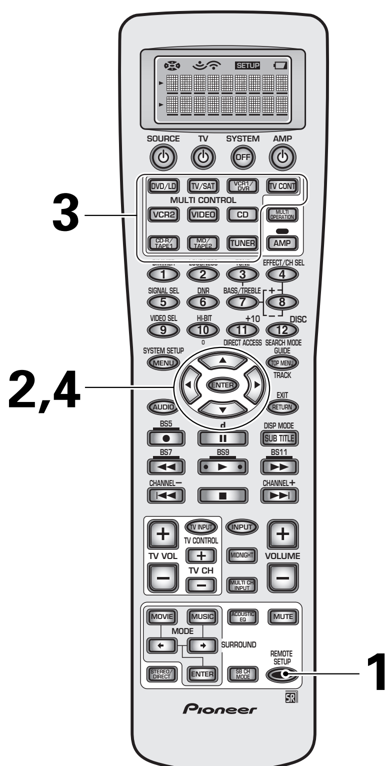
- 登録する他機器操作ボタンでTV CONTROLを選んだときの「決まっている(プリセット)動作」は「テレビの電源をONにする」のみとなります。
- 「決まっている(プリセット)動作」ではパイオニア以外の機器の電源はONしません。

マルチオペレーションをプログラムする

マルチオペレーション機能で実行したい一連の操作をプログラムする方法について説明します。
以下の手順を始める前に、操作したい機器のプリセットコードまたはリモコンコードを本機のリモコンに登録しておく必要があります。詳しくは、「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧ください。(➡ P.57)



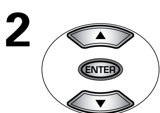
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



ここではDVD/LDボタンに「DVDを再生する」という操作をプログラムする手順を例にとって説明します。

1 

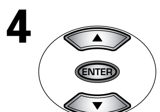
リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 

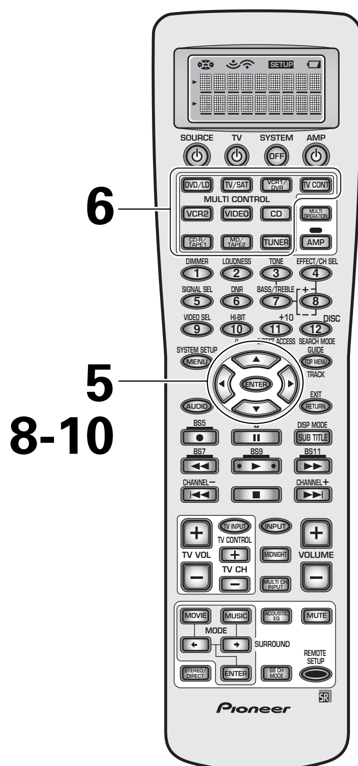
「MultiOpe」を選んで決定する。
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3 

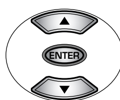
マルチオペレーションをプログラムしたい他機器操作ボタンを選択する。
<MultiOpe>が表示されます。
例)DVD/LDボタンを選択します。

4 

「1stCmmnd」を選んで決定する。
現在の設定内容(工場出荷時は「Blank」)が表示された後、「<1st>Change」が表示されます。



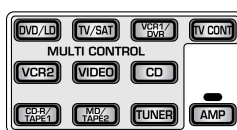
5



「Change」か「Clear」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Change」：「Function」が点滅して1つめのコマンドの登録（変更）になります。手順6 へお進みください。
「Clear」：現在登録されているコマンドを消去します。手順8へお進みください。
「Exit」：手順4へ戻ります。

6



操作したい機器を選択する。

「Key」が点滅します。
例）DVD/LDボタンを選択します。

7



実行したい操作ボタンを選択する。

例）►再生ボタンを選択します。
「Complete」と表示された後、コマンド番号選択画面に戻ります。（手順8へお進みください）

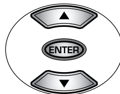
手順6でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。

EXTRA MENU内のコマンドを選択したいときはEXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンでコマンドを選択し、ENTERボタンで決定します。

TV CONTROL ボタン

手順6で「AMPボタン」を選択したときのみ

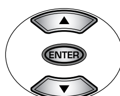
8



2つめのコマンドを登録したいときは「2ndCmmnd」を選んで決定した後に、手順5～7を繰り返します。

1つの他機器操作ボタンにおいて最大5つまで登録することができます。
3つめのコマンドは「3rdCmmnd」を選び、4つめのコマンドは「4thCmmnd」を選び、5つめのコマンドは「5thCmmnd」を選びます。

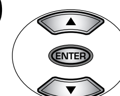
9



「＊Exit＊」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。別の他機器操作ボタンにも登録するときは、手順2～9を繰り返してください。

10

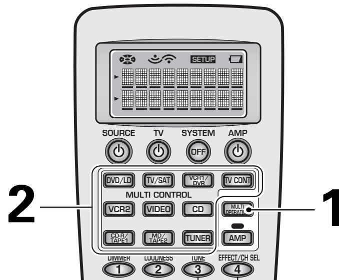


「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

マルチオペレーションを実行する

「マルチオペレーションをプログラムする」(➡ P.63)で登録した一連の操作(プリセット動作を含む)を実行する方法について説明します。



1 MULTI OPERATION

マルチオペレーションモードにする。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

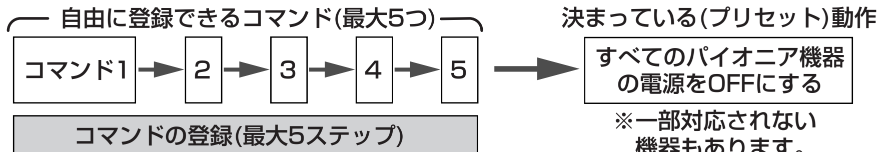
2 DVD/LD TV/SAT VCR1/DVR TV CONT MULTI CONTROL VCR2 VIDEO CD CD-R/TAPE1 MD/TAPE2 TUNER

操作したい他機器を選択する。

プリセット動作と、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

システムオフ

システムオフ(SYSTEM OFF)とは、5つまで自由に登録できる操作(コマンド)と、本機を含めたすべてのパイオニアの機器の電源OFFを、ワンタッチで実行する便利な機能です。リモコンからは次のようなコマンドが送信されます。

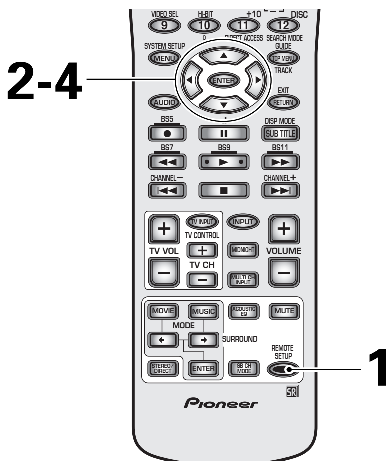


システムオフをプログラムする

システムオフ機能で実行したい一連の操作をプログラムする方法について説明します。
以下の手順を始める前に、操作したい機器のプリセットコードまたはリモコンコードを本機のリモコンに登録しておく必要があります。(詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧ください。(➡ P.57)

メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。

ここでは「DVDの再生を停止する」という操作をプログラムする手順を例にとって説明します。



1 REMOTE SETUP

3秒間押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 ENTER

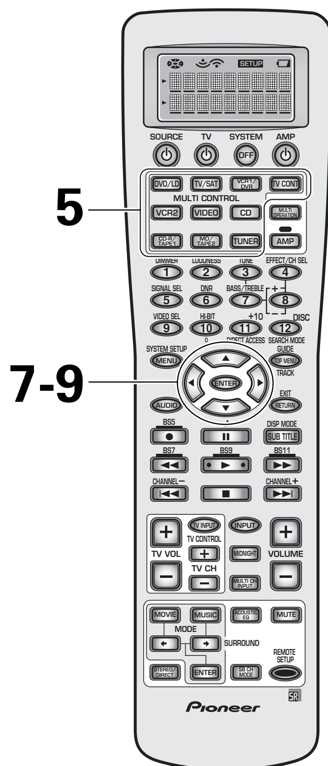
「SysOff」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに<System Off>が表示されます。

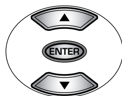
3 ENTER

「1stCmmnd」を選んで決定する。

現在の設定内容(工場出荷時は「Blank」)が表示された後、「<1st>Change」が表示されます。



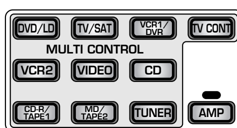
4



「Change」か「Clear」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Change」：「Function」が点滅して1つめのコマンドの登録（変更）になります。手順5 へお進みください。
「Clear」：現在登録されているコマンドを消去します。手順7へお進みください。
「Exit」：手順3へ戻ります。

5



操作したい他機器を選択する。

「Key」が点滅します。
例）DVD/LDボタンを選択します。

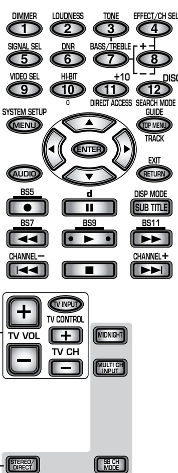
6



実行したい操作ボタンを選択する。

例）■停止ボタンを選択します。
「Complete」と表示された後、コマンド番号選択画面に戻ります。（手順7へお進みください）

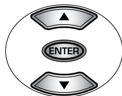
手順5でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。



TV CONTROL ボタン

手順5で「AMPボタン」を選択したときのみ

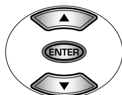
7



2つめのコマンドを登録したいときは「2ndCmmnd」を選んで決定した後に、手順4～6を繰り返します。

最大5つまで登録することができます。
3つめのコマンドは「3rdCmmnd」を選び、4つめのコマンドは「4thCmmnd」を選び、5つめのコマンドは「5thCmmnd」を選びます。

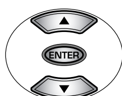
8



「＊Exit＊」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

9



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

システムオフを実行する

1 SYSTEM OFF

システムオフを実行する。

「システムオフをプログラムする」（➡ P.65）で登録されたコマンドが実行された後、パイオニア機器の電源がOFFになります。

ファンクションネーム

リモコンディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。例えばDVD/LDの入力端子にDVRを接続したとき、リモコンディスプレイ表示はDVD/LDですが再生しているのはDVRということになります。このようなときに、ディスプレイ表示をDVD/LDからDVRに変更できる便利な機能です。各入力ファンクション（他機器操作ボタン）ごとに接続された機器やメーカー名などを入力すれば、どこの入力ファンクション（他機器操作ボタン）にどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。

1 REMOTE SETUP　3秒間押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2

「FuncName」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3

名前を変更したい入力ファンクション（他機器操作ボタン）を選択する。

リモコンディスプレイが入力ファンクション名の変更画面になります。

4

▲▼ボタンで入力する文字を選んで、◄►ボタンでカーソルを左右に動かす。

入力できる文字は左記のメモの通りです。
最大8文字まで入力することができます。

5 ENTER

入力を終了する。

「END」が点滅します。

6 ENTER

もう一度ENTERボタンを押し、入力した名前を確認する。

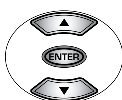
「Complete」と表示されRemote Setupメニューの表示画面に戻ります。別の入力ファンクション名も変更するときは手順2〜6を繰り返してください。

メモ

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789(スペース)
!”#$%&’()*+,−./:;<=>?@[\ ]^_`{I}~
►◄■●⏻ııı↑↓→← ・(スペース)

ホームシアター入門 / 各部名称 / 接続 / サラウンド設定 / 基本操作 / 応用操作 / リモコン / 使いこなし / 技術資料

7



「Exit」を選んで決定する。

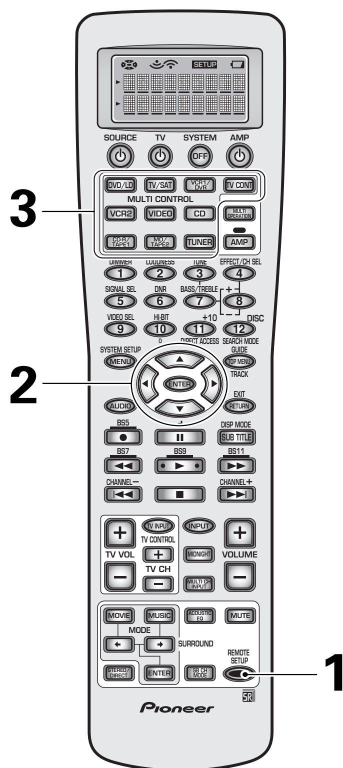
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

キーラベル

キーラベルとは各ボタンを押したときに、リモコンディスプレイに表示される文字やマークを1文字~8文字の範囲内でお好みのラベル(ボタンマーク)に付け換えられる機能です。例えばあるボタンにプリセットと異なるコマンドを学習させた場合(➡ P.59)、そのボタンのラベル(ボタンマーク)を付け換えたり変更することにより、そのコマンドがどこのボタンに学習されたのかを簡単に確認することができます。



- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

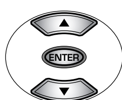
REMOTE SETUP

3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2



「KeyLabel」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3



ラベルを変更したいボタンのある他機器操作ボタンを選択する。

「Select Key」が点滅します。

4

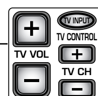


ラベルを変更したい操作ボタンを押す。

リモコンディスプレイが名前変更の画面になります。

手順3でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。





TV CONTROL
ボタン

5-8

メモ

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789(スペース)
!"#$%&'()*+,−./:;<=>?@[\]^_`{|}~
►◄■●⏻ıııl↑↓→← ・(スペース)

5 入力する文字や記号を▲ ▼ボタンで選び、◄ ►ボタンでカーソルを左右に動かす。
入力できる文字は左記のメモの通りです。
最大8文字まで入力することができます。

6 入力を終了する。
「END」が点滅します。

7 もう一度ENTERボタンを押し、入力した名前を確定する。
「Complete」と表示されRemote Setupメニューの表示画面に戻ります。別のボタンのラベルも変更するときは手順2〜7を繰り返してください。

8 「Exit」を選んで決定する。
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

リモコンの明るさ調整（リモコンライト）

リモコンライトの明るさを3段階で調整することができます。

2-4

1

1 REMOTE SETUP
3秒間押し続ける
リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 「Light」を選んで決定する。
リモコンのディスプレイに<LIGHT>highが表示されます。

3 「High」、「Low」、「OFF」または「＊Exit＊」を選んで決定する。
「High」：リモコンライトをより明るくします。
「Low」：リモコンライトを通常の明るさにします。
「Off」：ボタンを押したときのバックライトも含めリモコンライトは一切光りません。
「Exit」：リモコンの明るさ調整を終了します。Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

4 「Exit」を選んで決定する。
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

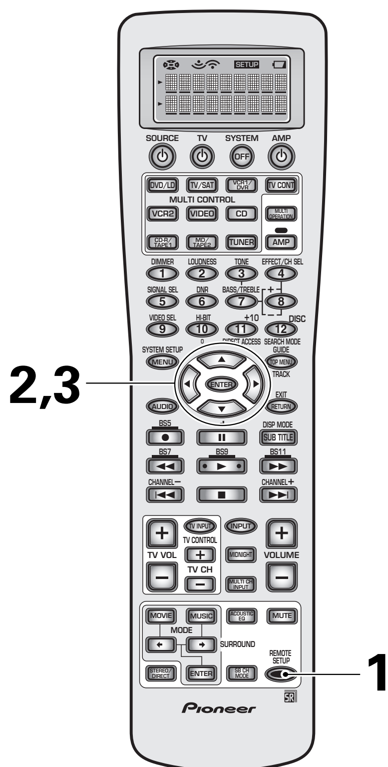
メモ
・工場出荷時の設定は「Low」です。
・調整は部屋を暗くした状態で行ってください。

リモコンの設定クリア

本機のリモコンのプリセット、マルチオペレーション設定などをクリアする方法について説明します。



- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、REMOTE SETUPボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

REMOTE SETUP

3秒間押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2

ENTER

「Clear」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに<CLEAR>が表示されます。

3

ENTER

リモコンの設定を解除したい項目を選ぶ

「Learning Clear」：「Learningセットアップモード」(➡ P.59)で登録したリモコンコードの設定をクリアします(ボタン1つ)。

「KeyLabel Clear」：「キーラベル」(➡ P.68)によって変更されたラベル(ボタンマーク)をクリアします(ボタン1つ)。

「All Clear」： P.57 ～ P.69 で行ったリモコンに関する全ての設定をクリアし、工場出荷時のメモリ内容に戻します。

「Learning Clear」を選んで決定する。

「Select Function」が点滅します。
次ページの手順4へお進みください。

「KeyLabel Clear」を選んで決定する。

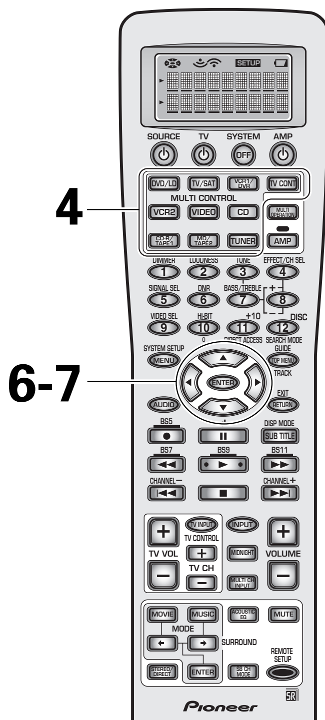
「Select Function」が点滅します。
手順4へお進みください。

「All Clear」を選んで決定する。

「<CLEAR?>YES」が表示されます。
手順6へお進みください。

「＊Exit＊」を選んで決定する。

リモコンの設定クリアを終了します。
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。



4

6-7

4



設定をクリアしたいボタンのある他機器操作ボタンを選択する。

「Select Key」が点滅します。

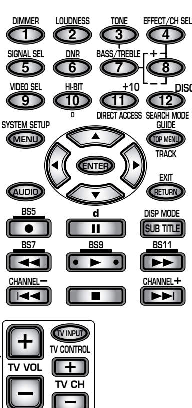
5

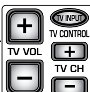


設定をクリアしたい操作ボタンを押す。

「<CLEAR？> Yes」が表示されます。

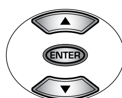
手順4でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンの設定をクリアすることができます。





TV CONTROL ボタン

6



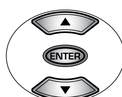
「Yes」か「No」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Yes」：設定をクリアし、リモコンの設定クリアを終了します。

「N o 」：設定のクリアを中止し、リモコンの設定クリアを終了します。

「＊Exit＊」：設定のクリアを中止し、リモコンの設定クリアを終了します。Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

7



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

システムセットアップの設定項目一覧

システムセットアップにするためにはまずリモコンを以下の順番で押してから以下の表をご覧ください。



を押すと、すべての設定状態を解除し通常状態に戻ります。

System Setup（システムセットアップ）

System Setup
[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

- **1.Surround Setup**（サラウンドセットアップ）

  1.Surround Setup
  [SurrBack System]
  [Auto Setting]
  [Quick]
  [Normal]
  [Expert]
  [Exit]

  - SurrBack System（➡ P.34）（サラウンドバックシステムの設定）
  - Auto Setting（➡ P.10）（オートサラウンドセットアップ）
  - Quick（➡ P.35）（簡単設定）
  - Normal（➡ P.36）（サラウンドの設定）
    - Speaker Setting（➡ P.37）（スピーカーシステムの設定）
    - Channel Level（➡ P.39）（スピーカー出力レベルの設定）
    - Channel Delay（➡ P.40）（スピーカーまでの距離の設定）
  - Expert Setup（➡ P.78）（エキスパートサラウンド設定）
    - Crossover Network（➡ P.79）（クロスオーバー周波数の設定）
    - Fine Channel Level（➡ P.80）（スピーカー出力レベルの細やかな設定）
    - Fine Channel Delay（➡ P.81）（スピーカーまでの距離の細やかな設定）
    - Acoustic Cal EQ（➡ P.82）（視聴環境の周波数特性の補正）
    - Bass Peak Level（➡ P.86）（超低域音声のピークレベル設定）
    - D-Range Control（➡ P.87）（ダイナミックレンジコントロールの設定）

- **2.THX CINEMA Setup**（➡ P.73）

  2. THX CINEMA Setup
  [PRO LOGIC II MOVIE]
  [PRO LOGIC]
  [Neo:6 CINEMA]
  [Exit]

- **3.Input Assign**（入力に関する設定）

  3.Input Assign
  [Digital-In Select]
  [Component-In Select]
  [Exit]

  - Digital-In Select（➡ P.74）（デジタル入力の設定）
  - Component-In Select（➡ P.75）（コンポーネントビデオ入力の設定）

- **4.Function Rename**（➡ P.76）（入力ファンクション表示の設定）

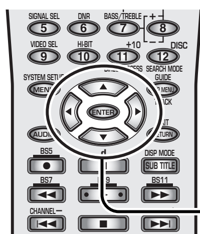
DVD/LD	[DVD/LD]
TV/SAT	[TV/SAT]
VCR1/DVR	[VCR1/DVR]
VCR2	[VCR2]
VIDEO	[VIDEO]
PHONO/LINE	[PHONO]
CD	[CD]
CD-R/TAPE1	[CDR/TAPE1]
MD/TAPE2	[MD/TAPE2]
USB	[USB]
[Exit]	

- **5.PHONO/LINE Setup**（➡ P.77）（PHONO/LINE端子の切り換え設定）

  5.PHONO/LINE Setup
  [PHONO]
  [LINE]
  [Exit]

THX CINEMA Setup

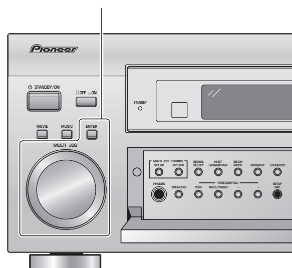
ここでは2chソースをTHX CINEMAモードで再生したときのマトリクス・サラウンド・デコード方法を選択します。選択できるデコード方法は「DDPRO LOGIC II MOVIE」、「DDPRO LOGIC 」、「Neo:6 CINEMA」の3つです。それぞれのモードの詳しい説明は「リスニングモードの種類と効果」のMOVIEモード(➡ P.45)をご覧ください。2chソースをTHX CINEMAモードで再生すると、ここで選んだマトリクス・サラウンド・デコードがされた後、THX CINEMA処理を行います。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~3

1~3



以下はOSD画面(テレビ画面)です

1

System Setup

[1. Surround Setup]
▶[2. THX CINEMA Setup]
[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

2

2. THX CINEMA Setup

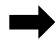
▶ [PRO LOGIC II MOVIE]
[PRO LOGIC]
[Neo:6 CINEMA]
[Exit]

3

2. THX CINEMA Setup

[PRO LOGIC II MOVIE]
[PRO LOGIC]
[Neo:6 CINEMA]
▶ [Exit]

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP  ② SYSTEM SETUP MENU

1 [2.THX CINEMA Setup]を選んで決定する。

THX CINEMA Setupの設定画面になります。

2 2chソース再生時にTHX CINEMAモードにしたときのデコード方法を選んで決定する。

選択できるモードについては上記をご覧ください。
設定されたシステムが反転したまま[Exit]が自動で選択されます。

3 [Exit]を決定する。

THX CINEMA Setupを終了します。
次ページの「Input Assign」に進みます。この場合、74ページ手順2へ進みます。

System Setupを終了するときは、SYSTEM SETUP MENU を押します。

Input Assign（入力に関する設定）

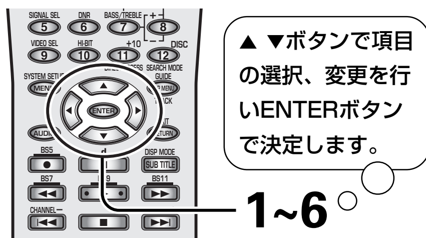
Digital-In Select（デジタル入力の設定）

デジタル入力端子（DIGITAL 1～4とDD RF IN）に接続したデジタル機器が、工場出荷時の設定（右表）と異なるときに設定します。DD RF IN入力はLDプレーヤーやDVD／LDプレーヤーのDD RF端子に対応します。

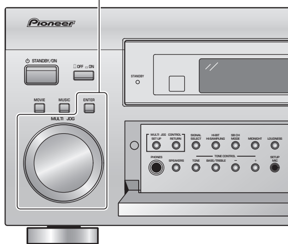
- Digital-1～4には[TUNER]、[PHONO/LINE]、[VIDEO]、[USB]を選ぶことができません。
- DDRF INには[TUNER]、[PHONO/LINE]、[VIDEO]、[CD]、[CD-R]、[MD]、[USB]を選ぶことができません。

IN 1	TV/SAT
IN 2	CD-R
IN 3	DVD/LD
IN 4	CD
DDRF IN	DVD/LD

メモ 工場出荷時の各入力端子の設定は右の図の通りです。



1~6



以下はOSD画面（テレビ画面）です

1

System Setup
[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
▶[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

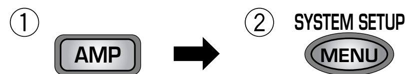
2

3.Input Assign
▶ [Digital-In Select]
[Component-In Select]
[Exit]

4

Digital-In Select
Digital-1 [TV/SAT]
▶ Digital-2 [DVD/LD]
Digital-3 [OFF]
Digital-4 [CD]
RF IN [DVD/LD]
[Exit]

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 [3.Input Assign]を選択して決定する。
入力に関する設定のメニュー画面になります。

2 [1.Digital-In Select]を選択して決定する。
デジタル入力の設定になります。

3 変更したい入力を選択して決定する。
例えばDigital-2を[CD-R/TAPE1]から[DVD/LD]に変更したいときはDigital-2を選びます。

4 手順3で選んだ入力を変更して決定する。
例えばDigital-2を[CD-R/TAPE1]から[DVD/LD]に変更したいときは[DVD/LD]を選びます。

5 他にも工場出荷時の設定ではない接続を行い、入力の変更が必要な場合は、手順3と4を繰り返します。

6 [Exit]を選択して決定する。
デジタル入力の設定を終了します。
次ページの「Component-In Select」に進みます。この場合、75ページ手順2へ進みます。
System Setupを終了するときは、SYSTEM SETUP MENU を押します。

メモ Digital-1～4で、同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選択した場合は、元に設定されていた入力がOFFに切り換わります。

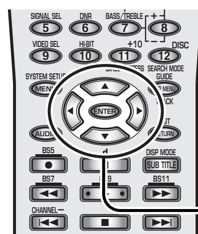
Component-In Select（コンポーネントビデオ入力の設定）

COMPONENT VIDEO入力端子（コンポーネントまたはD端子）に接続した映像機器が工場出荷時の設定と異なるときにこの設定を行います。

- 選択できる入力は[DVD/LD]、[TV/SAT]、[VCR1]、[VCR2]、[OFF]（映像信号を出力しません）です。

メモ 工場出荷時の各入力端子の設定は右の図の通りです。

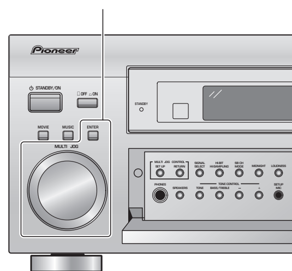
IN 1	DVD/LD
IN 2	TV/SAT



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

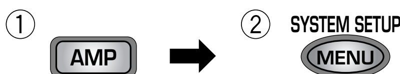
1~7

1~7



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① ②



1 **[3.Input Assign]を選択して決定する。**
入力に関する設定のメニュー画面になります。

2 **[Component-In Select]を選択して決定する。**
コンポーネントビデオ入力の設定になります。

3 **変更したい入力を選択して決定する。**
例えばComponent-1を[DVD/LD]から[VCR1]に変更したいときはComponent-1を選びます。

4 **手順3で選んだ入力を変更して決定する。**
例えばComponent-1を[DVD/LD]から[VCR1]に変更したいときは[VCR1]を選びます。

5 **他にも入力の変更を行う場合は、手順3と4を繰り返します。**

6 **[Exit]を選択して決定する。**
コンポーネントビデオ入力の設定を終了します。

7 **もう一度[Exit]を選択して決定する。**
入力に関する設定を終了します。
次ページの「Function Rename」に進みます。この場合、76ページ手順2へ進みます。
System Setupを終了するときは、SYSTEM SETUP MENU を押します。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

1
System Setup
[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
▶[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

2
3.Input Assign
[Digital-In Select]
▶ [Component-In Select]
[Exit]

3
Component-In Select
▶Component-1 [DVD/LD]
Component-2 [TV/SAT]
[Exit]

4
Component-In Select
▶Component-1 [VCR1]
Component-2 [TV/SAT]
[Exit]

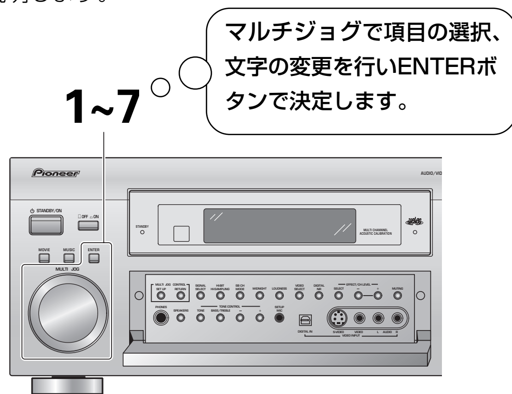
メモ

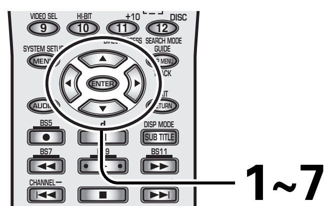
・Component-1～2で、同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選んだときは、先に設定されていた入力がOFFに切り換わります。

・コンポーネントやD端子から入力された信号はSビデオ出力端子、コンポジット出力端子には出力されません。

Function Rename（入力ファンクション表示の設定）

フロントパネルディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。例えばＶＣＲ１／DVRの入力端子にDVRを接続したとき、ディスプレイ表示を接続した機種の型番などに変更できる便利な機能です。各入力ファンクションごとに接続された機器の名称やメーカー名などを入力すれば、どこの入力ファンクションにどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。設定はリモコン、本体のどちらでもできますが、この操作は本体のマルチジョグを使用した方が容易なため、下記の手順は本体での操作を中心に説明します。

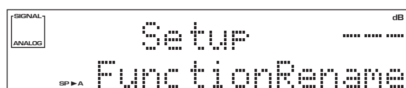




本体のSET UPボタンを押してから手順1へお進みください。

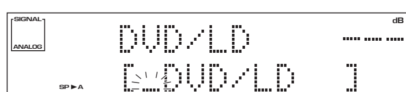


1 「FunctionRename」を選んで決定する。



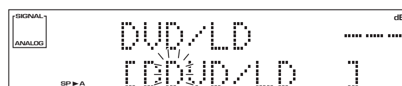
入力ファンクション表示の設定画面になります。

2 名前を変更したいファンクションを選択して決定する。



文字入力画面になります。アンダーバーが点滅します。（文字入力位置がスペースのときはアンダーバーが、文字のときは文字が点滅します。）

3 入力する文字を選んで決定する。



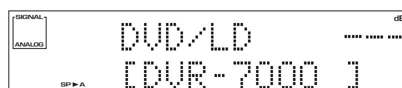
入力できる文字は以下の通りです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
!”#$%&’()*+,–./:;<=>?@[\ ]^_{l}（スペース）

4 手順3 を繰り返して入力ファンクション名を入力する。



5 ENTERボタンを最後まで押して入力ファンクション名を決定する。



6 他にも名前を変更したい入力ファンクションがある場合は、手順2～5を繰り返します。

7 Exitを選択して決定する。

入力ファンクション表示の設定を終了します。

次ページの「PHONO/LINE Setup」に進みます。この場合、77ページ手順2へ進みます。

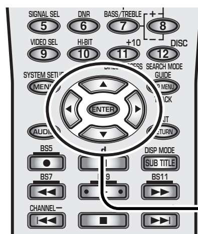
System Setupを終了するときは、 を押します。

メモ

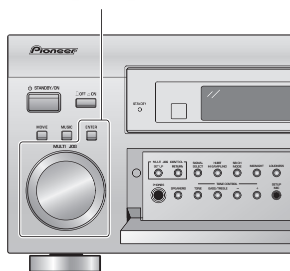
・RETURNボタンを押すと、文字入力位置を1つ前に戻すことができます。

PHONO/LINE Setup（PHONO/LINE端子の切り換え設定）

本機リアパネルのPHONO/LINE IN端子をPHONO端子として使うか、LINE端子として使うかを選択することができます。以下の設定でPHONOに設定したときはPHONO/LINE IN端子にはフォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーを接続し、LINEに設定したときはフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーまたはその他のオーディオ機器を接続してください。



1~4



以下はOSD画面（テレビ画面）です

1

System Setup
[1. Surround Setup]
[2. THX CINEMA Setup]
[3. Input Assign]
[4. Function Rename]
▶[5. PHONO/LINE Setup]
[Exit]

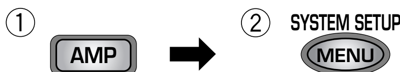
2

5.PHONO/LINE Setup
▶ [PHONO]
[LINE]
[Exit]

3

5.PHONO/LINE Setup
[PHONO]
[LINE]
▶ [Exit]

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[5.PHONO/LINE Setup]を選んで決定する。**
THX CINEMA Setupの設定画面になります。

2 **[PHONO]または[LINE]のどちらかを選んで決定する。**
それぞれの説明は上記をご覧ください。
選択された設定が反転したまま[Exit]が自動で選択されます。

3 **[Exit]を決定する。**
PHONO/LINE端子の切り換え設定を終了します。

4 **もう一度[Exit]を選んで決定する。**
System Setupを終了します。


メモ

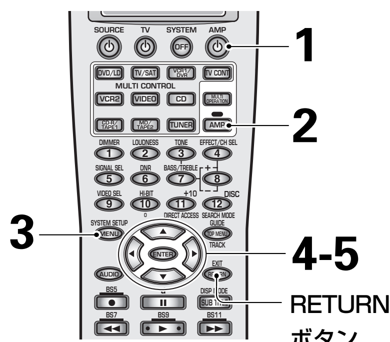
・工場出荷時はPHONOに設定されています。

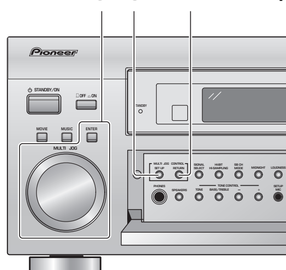
ExpertSetup(エキスパートサラウンド設定)

エキスパートサラウンド設定はより深くサラウンドを楽しみたい方のための設定です。必ず行わなければならない設定ではありませんが、「オートセットアップ」や「Normal(サラウンドの基本設定)」で設定された値をよりお好みに合わせるのに便利な設定です。ここでの設定を行う前にオートセットアップによる設定を行うことをおすすめします(➡「ホームシアター入門 step2」P.10 ～ P.13)。

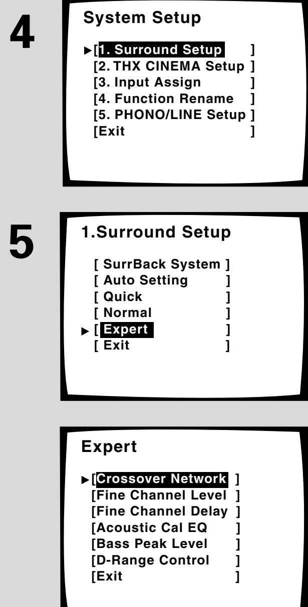
■ **操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。**

設定項目の選択





以下はOSD画面(テレビ画面)です



1 AMP

本機の電源を入れ、テレビの電源も入れる。

テレビは本機の出力映像が表示されるようにしておきます。

2 AMP

リモコンをアンプ操作モードにする。

3 SYSTEM SETUP MENU

システムセットアップにする。

テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

4 ENTER

[1.Surround Setup]を選んでENTERボタンで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

5 ENTER

[Expert]を選んでENTERボタンで決定する。

エキスパートサラウンド設定のメニュー画面になります。

[Crossover Network](➡ P.79):
オートセットアップで小(SMALL)に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのかを設定します。

[Fine Channel Level](➡ P.80):
オートセットアップで設定されたチャンネルレベルをより細やかに調整します。

[Fine Channel Delay](➡ P.81):
オートセットアップで設定されたチャンネルディレイをより細やかに調整します。

[Acoustic Cal EQ](➡ P.82):
オートセットアップで設定された視聴環境の周波数特性の補正をより細やかに調整したり、調整した値を保存したりします。

[Bass Peak Level](➡ P.86):
LFEチャンネルのピークレベルを設定します。

[D-Range Control](➡ P.87):
ダイナミックレンジをどの程度圧縮するかを設定します。

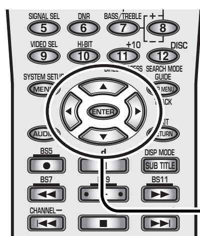
6

79ページ~87ページに記載されている各項目の手順に従って設定を行う。

この場合、各項目の手順2へお進みください。

Crossover Network（クロスオーバー周波数の設定）

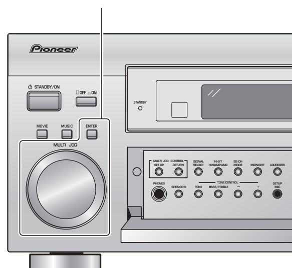
「スピーカーシステムの設定」で小（SMALL）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのかを設定します。



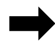
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~5

1~5



ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP  ② SYSTEM SETUP MENU

1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**
サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Expert]を選択して決定する。**
エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 **[Crossover Network]を選択して決定する。**
クロスオーバー周波数の設定になります。

4 **他のスピーカーで再生する低音域を何Hz以下にするかを選択して決定する。**
例えば、[50Hz]を選択すると、50Hz以下の低音域が他のスピーカーで再生されます。
選択された設定が反転したまま[Exit]が自動で選択されます。

5 **[Exit]を決定する。**
クロスオーバー周波数の設定を終了します。
次ページの「Fine Channel Level」に進みます。
この場合、80ページ手順3へ進みます。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

3

```
Expert

▶[Crossover Network  ]
 [Fine Channel Level ]
 [Fine Channel Delay ]
 [Acoustic Cal EQ    ]
 [Bass Peak Level    ]
 [D-Range Control    ]
 [Exit               ]
```

4

```
Crossover Network

Frequency    ▶ [ 50Hz]
               [ 80Hz]
               [100Hz]
               [150Hz]
               [200Hz]
               [Exit ]
(THX Speaker = 80Hz)
```

5

```
Crossover Network

Frequency      [ 50Hz]
               [ 80Hz]
               [100Hz]
               [150Hz]
               [200Hz]
             ▶ [Exit ]
(THX Speaker = 80Hz)
```

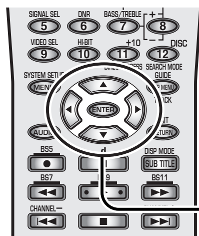


メモ

・工場出荷時は80Hzに設定されています。
・それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。

Fine Channel Level（スピーカー出力レベルの細やかな設定）

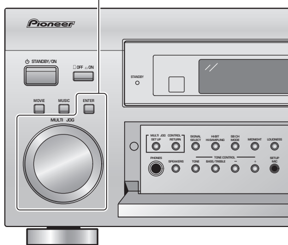
「オートセットアップ」や「Normal（サラウンドの基本設定）」で設定されたスピーカー出力レベルをより厳密に合わせたいときにこの設定を行います。ここでの設定では、フロント左スピーカーを基準としてその他のチャンネルレベルを調整します。選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最も最適と思われるもう1　つのチャンネルからテストトーンが再生されますので、そのテストトーンどうしが同じ大きさに聞こえるように調整します。フロント左スピーカーは調整の基準となるスピーカーのため調整することはできません。



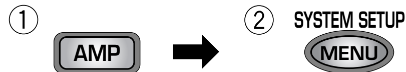
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~7

1~7



ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Expert]を選択して決定する。**

エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 **[Fine Channel Level]を選択して決定する。**

スピーカー出力レベルの細やかな設定になります。

4 **調整したいスピーカーのチャンネルを選択して決定する。**

選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最も最適と思われるもう1 つのチャンネルからテストトーンが再生されます。

～ご注意～

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

5 **チャンネルレベルを調整して決定する。**

－10dBから＋10dBの範囲内において0.5dB間隔で調整することができます。
調整方法については上記の説明をご覧ください。
決定すると自動的に次のチャンネルが選ばれ、そのチャンネルからテストトーンが出力されます。

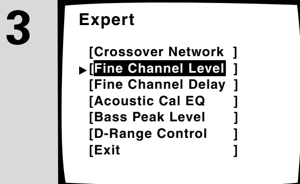
6 **それぞれのチャンネルに手順4～5を繰り返し、全てのチャンネルレベルを調整したら[Exit]を選びます。**

7 **[Exit]を決定する。**

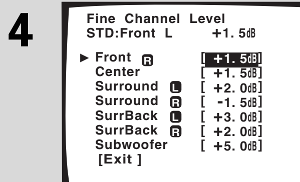
スピーカー出力レベルの細やかな設定を終了します。
次ページの「Fine Channel Delay」に進みます。この場合、81ページ手順3へ進みます。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

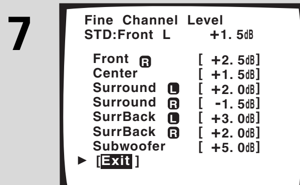
3



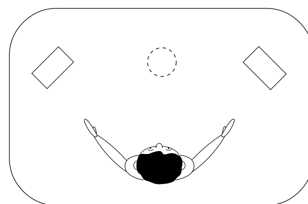
4



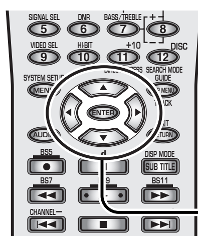
7



Fine Channel Delay（スピーカーまでの距離の細やかな設定）

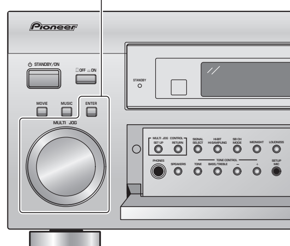


「オートセットアップ」や「Normal（サラウンドの基本設定）」で設定されたスピーカーまでの距離をより厳密に合わせたいときにこの設定を行います。ここでの設定では、選択したチャンネルとそのチャンネルに対して最も最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが再生されます。その2つのスピーカーに対して右図のように立ち、2つのテストトーンの聞こえるポイントが真ん中になるように調整します。なお、サブウーファーは、この方法でディレイ値を合わせるのが困難です。この場合は、テスト信号を出しながら距離の値を動かし、視聴ポイントでテスト信号の音量が最も大きくなるように調整してください。



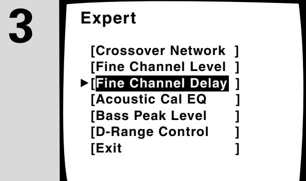
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~8

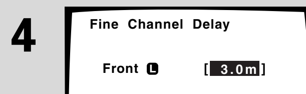


以下はOSD画面（テレビ画面）です

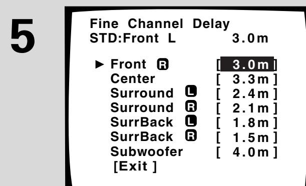
3



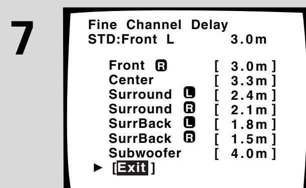
4



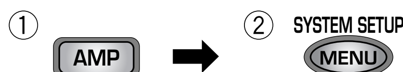
5



7



ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**
サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Expert]を選択して決定する。**
エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 **[Fine Channel Delay]を選択して決定する。**
スピーカーまでの距離の細やかな設定になります。

4 **Front Lチャンネルのスピーカーまでの距離を調整して決定する。**
以前に設定された値が表示されます。

5 **調整したいスピーカーのチャンネルを選択して決定する。**
選択したチャンネルのスピーカーともう1 つのスピーカーからテストトーンが出力されます。

6 **スピーカーまでの距離を調整して決定する。**
0.1mから9mの範囲内において0.1m間隔で設定できます。
調整方法については上記の説明をご覧ください。
決定すると自動的に次のチャンネルが選ばれ、そのチャンネルともう1つのチャンネルからテストトーンが出力されます。

7 **それぞれのチャンネルに手順5~6を繰り返し、全てのチャンネルレベルを調整したら[Exit]を選びます。**

8 **[Exit]を決定する。**
スピーカーまでの距離の細やかな設定を終了します。
次ページの「Acoustic Cal EQ」に進みます。この場合、82ページ手順3へ進みます。

ホームシアター入門
各部名称
接続
サラウンド設定
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

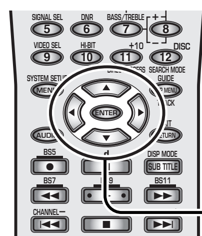
Acoustic Cal EQ（視聴環境の周波数特性の補正）

視聴環境のトータルな周波数特性を補正（均一化）します。補正カーブには[ALL CH ADJUST]と[FRONT ALIGN]の2種類があり、マイクを用いたオートサラウンドセットアップ（➡ P.10）により、補正カーブをすべて自動で調整します。それぞれの内容については「アコースティックキャリブレーションEQのON/OFF」（➡ P.50）をご覧ください。

ここでは[DATA COPY]機能を使うことで、オートサラウンドセットアップ（➡ P.10）により自動調整された2種類の補正カーブを[CUSTOM1]、[CUSTOM2]として保存することができ、お好みで調整することができます。調整し直したいときは以下の「自動調整された補正カーブを手動で調整する」をご覧ください。

自動調整された補正カーブを手動で調整する

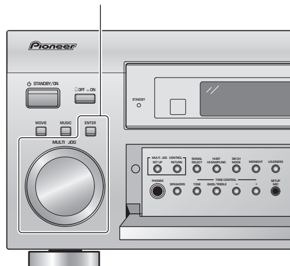
あらかじめ、オートサラウンドセットアップ（➡ P.10）を行い、補正カーブを自動で調整しておいてください。ここではすでに調整されている[ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]の補正カーブを[CUSTOM1]または[CUSTOM2]に保存した後その補正カーブを手動で調整する方法を説明します。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~18

1~18



以下はOSD画面（テレビ画面）です

3

Expert

[Crossover Network]
[Fine Channel Level]
[Fine Channel Delay]
▶ [Acoustic Cal EQ]
[Bass Peak Level]
[D-Range Control]
[Exit]

4

Acoustic Cal EQ

[CUSTOM1 ADJUST]
[CUSTOM2 ADJUST]
▶ [DATA COPY]
[DATA CHECK]
[Exit]

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 



② SYSTEM SETUP 

1 [1.Surround Setup]を選んで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 [Expert]を選択して決定する。

エキスパート設定のメニュー画面になります。

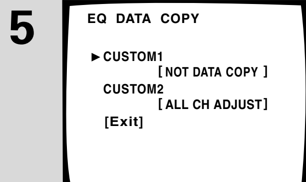
3 [Acoustic Cal EQ]を選択して決定する。

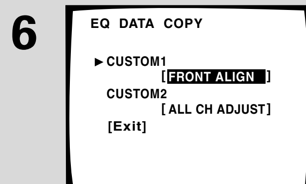
視聴環境の周波数特性の補正になります。

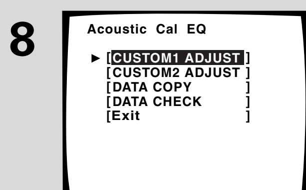
4 [DATA COPY]を選んで決定する。

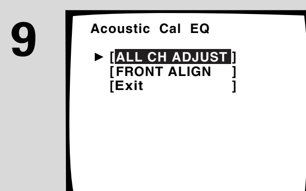
「CUSTOM1」または「CUSTOM2」のどちらに保存するかを選択する画面になります。

以下はOSD画面(テレビ画面)です

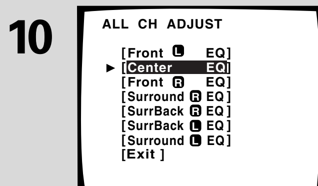
5


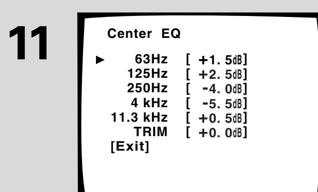
6


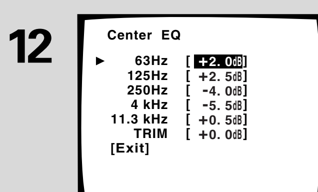
8


9


以下は[ALL CH ADJUST]を選択したときのOSDです

10


11


12


5 **「CUSTOM1」または「CUSTOM2」のどちらかを選んで決定する。**

6 **[ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]を選択して決定する。**

手順5で選んだ[CUSTOM]に手順6で選んだ補正カーブが保存されます。[NOT DATA COPY]を選択して決定すると[DATA COPY]モードを終了します。

7 **[Exit]を選んで決定する。**

[DATA COPY]モードが終了します。

8 **[CUSTOM1 ADJUST]または[CUSTOM2 ADJUST]を選んで決定する。**

この場合、手順5で選んだ[CUSTOM]を選んでください。

9 **[ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]を選択して決定する。**

テストトーンが出力されます。

～ご注意～

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

[ALL CH ADJUST]：サブウーファーを除いたすべてのスピーカーの補正

[FRONT ALIGN]：フロントスピーカーの特性に合わせた補正

10 **調整したいチャンネルを選択して決定する。**

手順9で[FRONT ALIGN]を選択したときはFRONT L R を選択することはできません。

11 **手順10で選んだチャンネルの調整したい帯域を選択して決定する。**

「スピーカーシステムの設定」でSMALL(小)に設定されたチャンネルは63Hzを選択することはできません。

12 **帯域を調整して決定する。**

−6dBから+6dBの範囲内において0.5dB間隔で調整することができます。

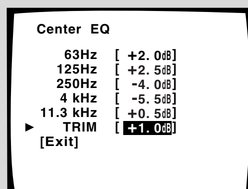
調整中に「OVER」がディスプレイに表示されたときは、その帯域または他の帯域のレベルが高すぎるので、「OVER」表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げてください。

決定すると自動的に次の帯域が選ばれます。

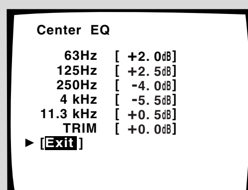
ホームシアター入門
各部名称
接続
サラウンド設定
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

以下はOSD画面（テレビ画面）です

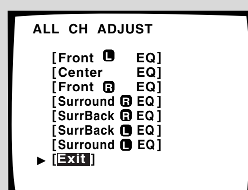
14



15



18



13 **それぞれの帯域に手順11～12を繰り返し、全ての帯域を調整します。**

14 「TRIM」を選択して決定する。

TRIMではそれぞれの帯域を調整することで、変わってしまったそのチャンネルレベルの全体的なバランスを調整します。

15 「TRIM」を調整して決定する。

－6dBから＋6dBの範囲内において0.5dB間隔で調整することができます。
決定すると自動的に[Exit]が選ばれます。

16 [Exit]を決定する。

決定すると自動的に次のチャンネルが選ばれます。

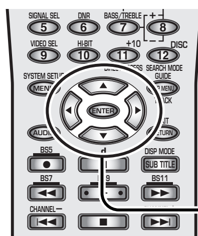
17 **それぞれのチャンネルに手順10～16を繰り返し、全てのチャンネルを調整します。**

18 [Exit]を選んで決定する。

[CUSTOM ADJUST]モードを終了します。
続けて[DATA CHECK]を行うときは、次ページの「自動調整された補正カーブを確認する」に進みます。この場合、手順4へ進みます。
視聴環境の周波数特性の補正を終了したいときは、もう一度[Exit]を選んで決定します。次ページの「Bass Peak Level」に進みます。この場合、86ページ手順3へ進みます。

自動調整された補正カーブを確認する

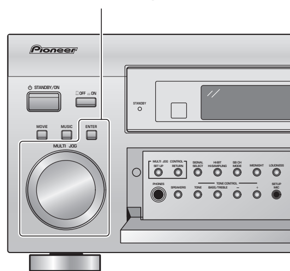
オートサラウンドセットアップ(➡ P.10)にて設定された、[ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]の補正カーブを確認することができます。



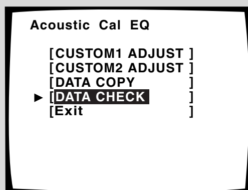
▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

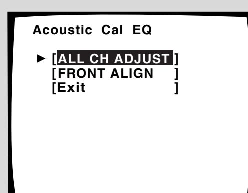
1~10

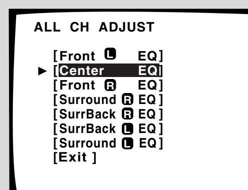
1~10

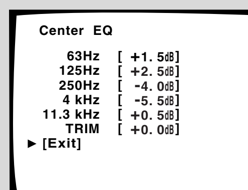


以下はOSD画面(テレビ画面)です

4


5


6


7


ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① 


② SYSTEM SETUP 

1 [1.Surround Setup]を選んで決定する。

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 [Expert]を選択して決定する。

エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 [Acoustic Cal EQ]を選択して決定する。

視聴環境の周波数特性の補正になります。

4 [DATA CHECK]を選んで決定する。

[ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]のどちらを確認するか選択する画面になります。

5 [ALL CH ADJUST]または[FRONT ALIGN]を選択して決定する。

6 確認したいチャンネルを選択して決定する。

そのチャンネルの周波数帯域の設定値が表示されますので、確認します。

手順5で[FRONT ALIGN]を選択したときはFRONT L R を確認することはできません。

7 確認が終了したら[Exit]を選んで決定する。

決定すると自動的に次のチャンネルが選ばれます。

8 それぞれのチャンネルに手順6~7を繰り返し、全てのチャンネルを確認します。

9 全てのチャンネルの確認が終了したら[Exit]を選んで決定する。

[DATA CHECK]モードを終了します。

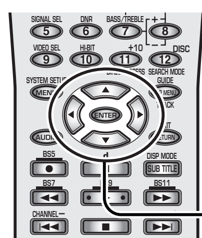
10 [Exit]を選んで決定する。

視聴環境の周波数特性の補正モードを終了します。

次ページの「Bass Peak Level」に進みます。この場合、86ページ手順3へ進みます。

Bass Peak Level（超低域音声のピークレベル設定）

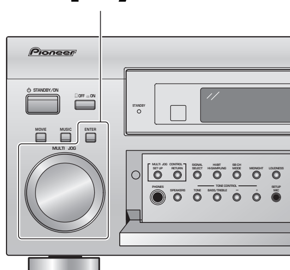
ドルビーデジタルおよびDTS対応のソフトは超低域信号成分（LFEチャンネル）を多く含んでいます。この超低域周波数信号がスピーカーの再生能力を超えると、再生音声に歪みが生じることがあります。ここでは、LFEチャンネルのピークレベルを設定する方法について説明します。ピークレベルを設定することにより歪みを防止します。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

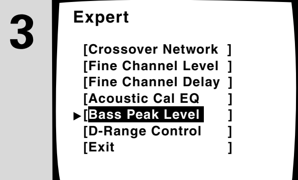
1~7

1~7

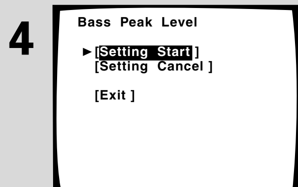


以下はOSD画面（テレビ画面）です

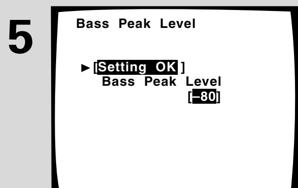
3



4

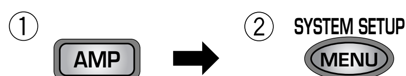


5



最初、Bass Peak Levelは[－－－]と表示されますが調整した値を決定しない限り、前に設定されていた値は有効です。

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**

サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Expert]を選択して決定する。**

エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 **[Bass Peak Level]を選択して決定する。**

超低域音声のピークレベル設定になります。

4 **[Setting Start]か[Setting Cancel]を選んで決定する。**

[Setting Start]：テストトーンを再生し、設定を行います。自動的にMASTER VOLUMEが最小（－－－）になります。手順5へお進みください。
[Setting Cancel]：LFEチャンネルのピークレベルを設定しません。手順7へお進みください。

5 **テストトーンを▲ ▼ボタンで調整していき、スピーカーからの音に歪みが生じる手前まで調整する。**

サブウーファーで有りまたはPLUSが選択されている場合は、サブウーファーからのみテストトーンが再生されます。
サブウーファーが無しの場合は、サブウーファー以外の大（LARGE）に設定されているスピーカーからテストトーンが再生されます。

6 **手順5で調整した値を決定する。**

MASTER VOLUMEが元の位置に戻ります。

7 **[Exit]を選んで決定する。**

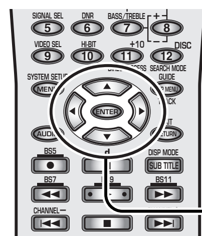
超低域音声のピークレベル設定を終了します。
次ページの「D-Range Control」に進みます。この場合、87ページ手順3へ進みます。



・MULTI CH IN モードでは、この設定は無効になります。

D-Range Control（ダイナミックレンジコントロールの設定）

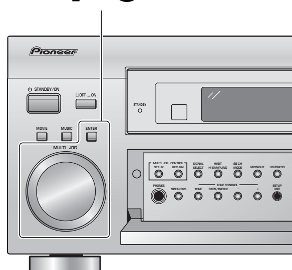
ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さい音から大きい音までを正しく（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、ダイナミックレンジコントロールを設定することで微小な音も聞き取りやすくなります。ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルまたはDTSソフトだけですが、ほかのソフトでもミッドナイトリスニングモードで同様の効果が得られます。



▲ ▼ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~8

1~8



以下はOSD画面（テレビ画面）です

3
```
Expert

 [Crossover Network  ]
 [Fine Channel Level ]
 [Fine Channel Delay ]
 [Acoustic Cal EQ    ]
 [Bass Peak Level    ]
►[D-Range Control    ]
 [Exit               ]
```

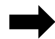
4
```
Dynamic Range Control

  Select Mode     ►[OFF]
                   [MID]
                   [MAX]
                   [Exit ]
```

3
```
Dynamic Range Control

  Select Mode      [OFF]
                   [MID]
                   [MAX]
                  ►[Exit]
```

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP  ② SYSTEM SETUP MENU

1 **[1.Surround Setup]を選んで決定する。**
サラウンドの設定のメニュー画面になります。

2 **[Expert]を選択して決定する。**
エキスパート設定のメニュー画面になります。

3 **[D-Range Control]を選択して決定する。**
ダイナミックレンジコントロールの設定になります。

4 **[OFF]、[MID]、[MAX]のいずれかを選択して決定する。**
[OFF]：ダイナミックレンジを圧縮しません。
[MID]：ダイナミックレンジを多少圧縮します。
[MAX]：ダイナミックレンジを最大に圧縮します。
決定すると自動的に[Exit]が選ばれます。

5 **[Exit]を決定する。**
ダイナミックレンジコントロールの設定を終了します。

6 **[Exit]を選択して決定する。**
Expert Setup（エキスパートサラウンド設定）を終了します。

7 **[Exit]を選択して決定する。**
Surround Setup（サラウンドの設定）を終了します。

8 **[Exit]を選択して決定する。**
System Setupを終了します。



メモ

- 工場出荷時は「OFF」に設定されています。
- 大きい音量で楽しむときは、Dynamic Range ControlをOFFにすることをおすすめします。
- さまざまなダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルまたはDTSソフトを小音量でお試しください。

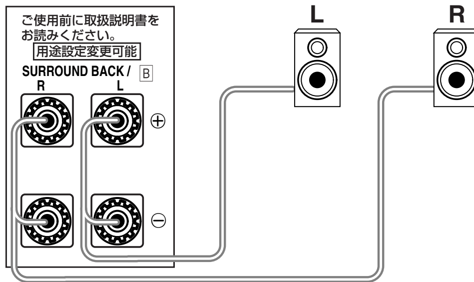
スピーカーシステムA/Bの使いこなし

サラウンドバックシステムの設定(➡ P.34)を「SecondZone」または「FrontBi-AMP」に設定することで、さまざまスピーカーシステムを組むことができます。**スピーカーは公称インピーダンスが8Ω～16Ωのスピーカーをご使用ください。6Ω以上8Ω未満のスピーカーをご使用の場合は「スピーカーインピーダンスの切り換え」(➡ P.29)をご覧ください。**それぞれの接続、設定については以下の説明をご覧ください。

別エリアでのステレオ再生

寝室やキッチンなど、メインのリスニングルームとは別の場所のステレオ再生が可能です。

・接続



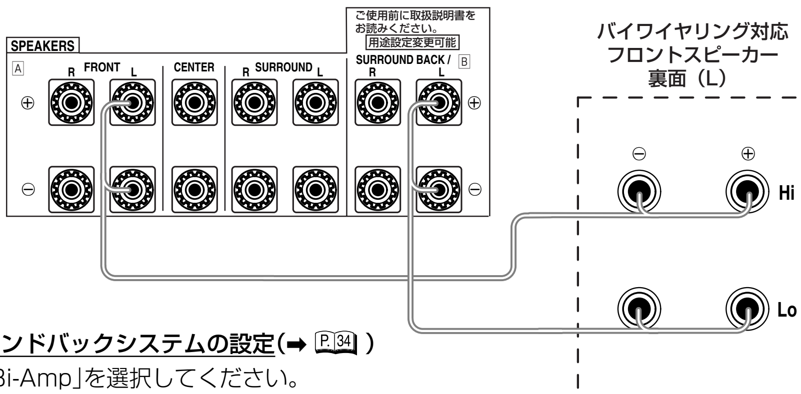
・サラウンドバックシステムの設定(➡ P.34)
「Second Zone」を選択してください。

・スピーカーシステムA/Bの切り換え(➡ P.89)
次ページ「スピーカーシステムA / B の切り換え」でBまたはA+Bを選択してください。

フロントスピーカーのBi-Amp接続

フロントch用スピーカーがバイワイヤリング対応であれば、さらに高品位なBi-Amp再生が可能です。ただし、この場合は設定(下記参照)が必要でスピーカーシステムも最大5.1chまでとなります。

・接続



スピーカー端子A のフロントとスピーカー端子B からは同じ音が出力されますので、Hi/LoはA/Bのどちらとでも接続できます。

・サラウンドバックシステムの設定(➡ P.34)
「Front Bi-Amp」を選択してください。
サラウンドバックchは自動的に「無し」に固定され、最大5.1chのシステムになります。

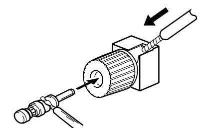
・スピーカーシステムA/Bの切り換え(➡ P.89)
A+B(SP►AB)が通常再生状態となります。
このシステムではサラウンドバックch用の回路をスピーカー端子Bに使用しますので、サラウンドバックchのプリアウト端子は端子Bと同じ出力になります。



フロントスピーカーのBi-Amp接続をするときはアンプへの悪影響を防ぐため、スピーカーに付属されているHi-Loのショート金具は必ずはずしてください。詳しくはスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

Bi-wire(バイワイヤ接続の場合)

「Normal System」または「Second Zone」でシステムを組む場合は、Bi-AmpではなくBi-wire接続にします。スピーカー端子A に、バイワイヤリング対応スピーカーのHiとLoの2本を並列に接続してください。



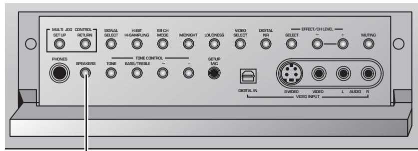
1本はバナナプラグを用いると便利です

メモ

ネットワークが着脱できるスピーカーの場合、ネットワークが外れたままだと効果が得られませんのでご注意ください。

スピーカーシステムA/Bの切り換え

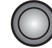
スピーカーシステムA/Bを切り換えると、再生されるスピーカーが変わります。必要に応じて使用するスピーカーシステムを選択してください。



1

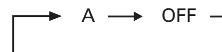
1 スピーカーシステムを切り換える。

SPEAKERS

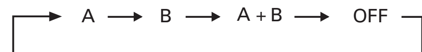


サラウンドバックシステムの設定によって選択できるモードが換わります。
ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

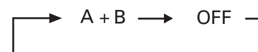
「Normal System」を選択している場合



「Second Zone」を選択している場合



「Front Bi-Amp」を選択している場合



メモ

- ヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込んでいる間は自動的にＯＦＦに切り換わります。

スピーカーシステムA、B、A+Bについて

スピーカー端子からの出力音声はスピーカーシステムの切り換えに応じて次のように変わります。

A（SP►A）　：スピーカー端子[A]のスピーカー（とサブウーファー）から音が出ます。
「Normal System」のときは接続しているすべてのスピーカーから音が出ます。
「Second Zone」のときはサラウンドバックスピーカー以外、接続しているすべてのスピーカーから音が出ます。
「Front Bi-Amp」のときはSP►Aを選択することはできません。

B（SP►B）　：サラウンドバックシステムを「Second Zone」に設定したときのみ選択することができます。スピーカー端子[B]（SURROUND BACK）のスピーカーからのみ音が出ます。全ての音声成分は2chにダウンミックスされます。（MULTI CH INモードのときは音は出ません）

A+B（SP►AB）：出力される音声は設定により異なります。
「Normal System」のときはSP►ABを選択することはできません。
「Second Zone」のときはスピーカー端子[A]とスピーカー端子[B]のスピーカーから音が出ます。スピーカー端子[B]から出る全ての音声成分は2chにダウンミックスされます。（MULTI CH INモードのときは音は出ません）
「Front Bi-Amp」のときはスピーカー端子[A]とスピーカー端子[B]のスピーカーから音が出ます。スピーカー端子[B]から出る音はスピーカー端子[A]のフロントと同じ音が出力されます。

OFF（SP►　）：スピーカーからは音が出ません。ただし、プリアウトからは出力されていますので、入力信号の種類やスピーカーシステムの設定によってはサブウーファーから音が出ることがあります。

USBオーディオ再生（パソコンと組み合わせて使う）

USB AUDIO端子とパソコンを接続することで、パソコンに記録されている音楽データを本機を通して再生することができます。USB接続できるパソコンのOSは「Windows® XP」、「Windows® 2000」、「Windows® Millennium Edition」、「Windows® 98 Secound Edition」、「Windows® 98」のいずれかです。これ以外の動作は保証しません。USBオーディオ再生するにはまず「ドライバーのインストール」を行います。ドライバーのインストールが完了したことを確認した後、「USBオーディオ再生する」をご覧ください。

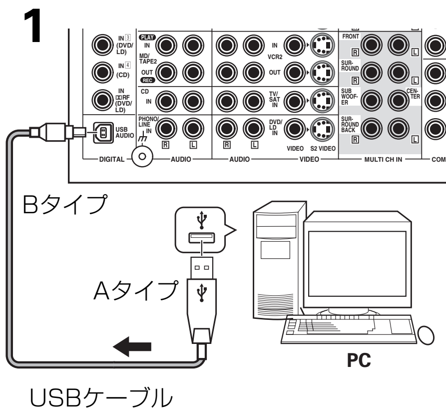
メモ

- パソコンによっては上記のOSがインストールされていても、動作が保証できない場合があります。

MicrosoftおよびWindowsは米国 Microsoft corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

ドライバーのインストール

本機のUSB AUDIO端子を使ってパソコンの音楽を再生するためには、ドライバーをインストールする必要があります。ドライバーはOSに標準添付されているものを使い、インストールの手順はパソコンの指示に従って行います。一度ドライバーをインストールすれば次回からインストールする必要はありません。OSによってはOSのCD-ROMが必要になる場合がありますので、お手元にご用意ください。



メモ

- USBハブおよびUSB延長ケーブル経由で接続した場合の動作は保証しません。
- ＵＳＢドライバーのインストールをしているときは、ＵＳＢケーブルを抜かないでください。

1 本機の「USB AUDIO」端子とパソコンUSB端子を接続する。

市販のUSBケーブルをご使用ください。

2 パソコンの電源を入れる。

パソコンのOSが起動した後、本機のUSBポートを自動検出します。このとき本機の電源は主電源がOFFでもSTANDBY状態でも構いません。

3 OSの指示に従ってドライバーをインストールしていきます。

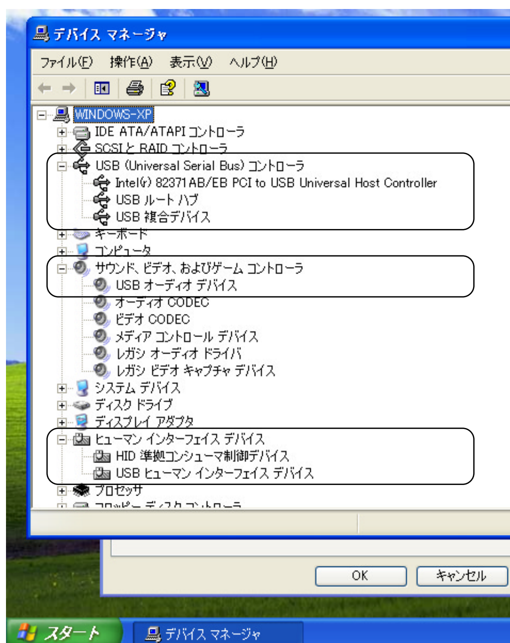
例えば、「Windows® XP」をお使いの場合は、特に指示はなくすべて自動でインストールが行われますが、その他のＯＳをお使いの場合は、インストールの途中でダイアログボックスが表示されますので、その指示に従って操作していきます。ドライバーのインストールには数分かかります。

お使いのOSによっては、OSのCD-ROMが必要な場合があります。その場合は指示に従ってCD-ROMを入れてください。

ドライバーのインストールの確認

ドライバーのインストールが完了した後、ドライバーが認識されているかどうかを確認します。

4–6 画面はWindows XPのものです。



1 **「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」を選びクリックする。**
コントロールパネルの画面が表示されます。

2 **「システム」のアイコンをダブルクリックする。**

3 **「デバイスマネージャ」のタブをクリックする。**
「種類別に表示」が選択されていることを確認します。

4 **「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の項目の中に「USBオーディオデバイス」が認識されていることを確認します。**

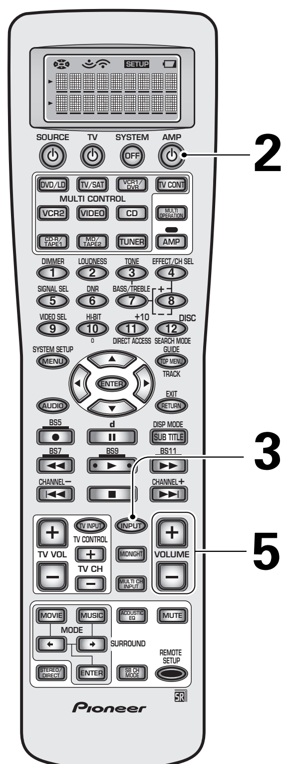
5 **「ヒューマンインターフェイスデバイス」の項目の中に「HID 準拠コンシューマ制御デバイス」および「U S B ヒューマンインターフェイスデバイス」が認識されていることを確認します。**

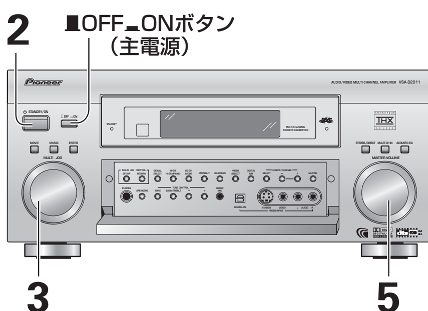
6 **「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」の項目の中に「U S B 複合デバイス」が認識されていることを確認します。**

メモ

- 上記のデバイスが認識されていない場合は、USBケーブルを抜き差しして再度、デバイスドライバーがインストールされるか試してみてください。それでも認識されない場合は、パソコンを再起動してみてください。
- OSによって言葉が異なる場合があります。

USBオーディオ再生する





1 **パソコンの電源を入れる。**

正常に起動するまでお待ちください。

2 AMP

本機の電源を入れる。

3 INPUT

入力をUSBにする。

ボタンを押すたびに（本体の場合は、MULTI JOGを右に回すと）入力が順次切り換わります。

入力信号設定はDIGITALに固定されます。

4 **パソコン側で再生操作をする。**

本機に接続しているスピーカーからパソコンで再生している音楽の音が出ます。

5 **本機で音量を調節する。**

本機に接続しているスピーカーからパソコンで再生している音楽の音が出ます。

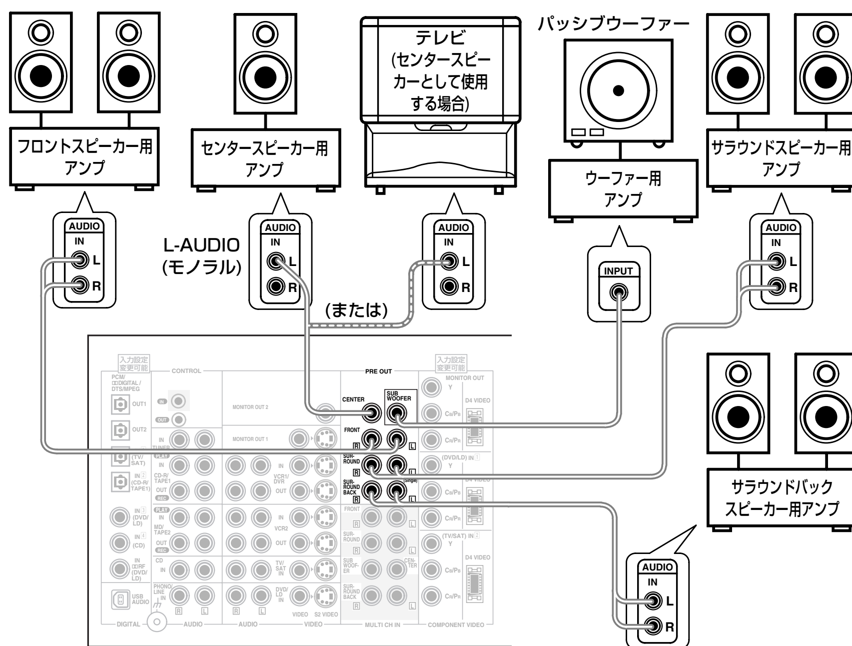
パソコンでの音量調節も必要です。

メモ

- パソコンから本機をコントロールしたり、本機からパソコンをコントロールすることはできません。
- USBオーディオ再生しているときは、本機の電源を切ったり、入力を切り換えたりしないでください。パソコンの誤動作の原因になることがあります。
- USBオーディオ再生中は、USBケーブルを抜かないでください。ＵＳＢケーブルを抜くときはパソコンで再生中の音楽ソフトを閉じてから抜いてください。
- パソコンのビープ音はＵＳＢオーディオ再生していると本機のスピーカーからも出力されます。ビープ音を出したくないときはパソコン側で設定を行ってください。
- パソコンの使用環境によっては、音が途切れたり、ノイズが発生することがあります。
- USBオーディオ再生は2chステレオ再生のみのサポートです。マルチチャンネルサラウンド再生を行うことはできません。
- 本機リアパネルのUSB　AUDIO端子に入力された音声信号はDIGITAL OUT1、2からは出力されません。
- 再生中は他のソフトを使用しないでください。ノイズが入ることがあります。
- 本機のＵＳＢ部分は、ＵＳＢバスパスワード動作しています。よって、本機の電源がOFF状態でも、パソコンの電源がONの場合、パソコンは、本機を認識しています。
  本機以外の音源を使用したい場合は、必要に応じてパソコンの音源の設定を変更してください。
- 本機からＵＳＢ経由でパソコンへ音を転送することはできません。

他のパワーアンプの接続

他のアンプをパワーアンプとして本機と組み合わせることができます。各プリアウト端子から出力される音はスピーカーシステムによって変わります。詳しくは「スピーカーシステムA/Bの切り換え」(➡ P.89)をご覧ください。

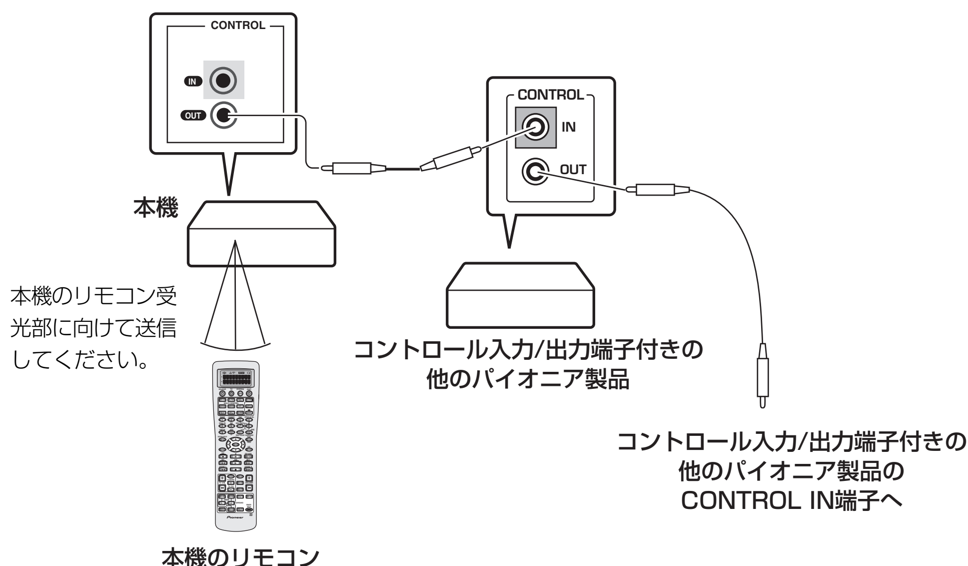


メモ

この接続を行った場合、個々のアンプの能力やボリューム位置などにより音場補正を正確に行うことができない場合があります。

コントロール入力/出力コードの接続

コントロール入力/出力端子の付いた複数のパイオニア製品を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能となります。



メモ

- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンを本機に向けて直接操作することはできません(リモコン信号受光部が機能しなくなります)。
- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード(抵抗なし)をお使いください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ず音声ケーブルまたは映像ケーブルの接続もしてください。光デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

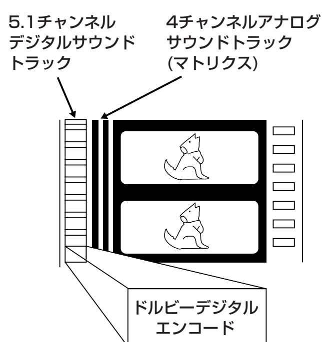
サウンドフォーマットについて

ドルビー



ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーのマルチチャンネル音声システムのディスクリート・デジタルサラウンド方式の名称です。アナログ音声を記録した従来の映画フィルム上にデジタル音声も記録できる、映画業界にとって互換性の高い方式です。



映画フィルムでのドルビーデジタル

しかし、CD等で用いられるリニアPCM音声方式のマルチチャンネル化では記録信号のデータ量が膨大になってしまうため、人間の聴覚特性に基づいたマスキング技術と適用型トランスフォームコーディングにより聴覚上の音質低下を招かないドルビーデジタル技術が開発されました。
ドルビーデジタルはDVDビデオの標準音声方式としても採用され、米国ではHDTVでも採用されるなど、デジタル時代の標準フォーマットとなっています。
その他の特長としては以下のような機能があり、ドルビーデジタルは柔軟性の高いコーディングシステムです。

1) モノ、ステレオ、プロロジック対応の構成および5.1ch音声の再生に最適なダウンミキシング
2) 広範囲のビットレートにわたる動作
3) ダイナミックレンジ情報を伝達する機能
4) ダイアログノーマライゼーション機能

ダイアログノーマライゼーション機能とは平均的音量レベルが異なるさまざまなソフトでも、一定の音量で再生されるように自動調整する機能です。「Dial. Norm.」と表現されることもあります。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックIIの違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンドモノラル)	5.1ch (サラウンドステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

本機にはプロロジックIIの機能として　Movieモード(映画再生向き)/Musicモード(音楽再生向き)/Pro Logicモードを用意しており、お好みに合わせて切り替えることが可能です。

プロロジックII製品は、プロロジックIIの持つ様々な機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックII搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしも全く同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

ドルビーデジタルサラウンドEX

ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ・エピソード1」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。
新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果・音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL/Rchにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル(5.1ch)環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトにてご覧になれます。
http://www.dolby.com/

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)



MPEG-2オーディオの標準方式の一つとして、ISOで規格化(ISO/IEC 13818-7)された音声符号化フォーマットです。MPEG-1オーディオに対する下位互換性はありませんが、高圧縮率(低ビットレート)にもかかわらず高音質を確保できる点が特長で、2000年の年末から始まったBSデジタル放送で採用されました。番組内容によりマルチチャンネル設定が可能で、今後日本のデジタル地上波放送でも採用が予定されています。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,264,846
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,268,685
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,375,189
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,581,654
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	05-183,988
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	5,548,574
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	08/506,729
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/576,495
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	5,717,821
			5,490,170	08/392,756

DTS



DTS

DTSは、新しい劇場用の音声記録方式として1993年公開映画"ジュラシックパーク"より採用され、その高音質、 かつ大迫力のサウンド効果は高い評価を得ています。 このシステムは、6チャンネルのデジタル音声CD−ROMに収録するため、音声信号の圧縮率が低く、転送レートも高いフォーマットです。この映画界で完成したテクノロジーをホームシアター用に発展させたのが、"DTS DIGITAL SURROUND"です。 音楽は独自録音による DTS-CDで、 映画はDTS-LD、DVDで提供されます。

DTS-ES

2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、DTS-ESは「DTS Extended Surround」の略称です。"DTS-ESディスクリート6.1"と"DTS-ESマトリックス6.1"の2種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。DTS-ESは従来の5.1chシステムにサラウンドバック(SB)chを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらす事が可能になりました。

DTS Neo:6

全ての2chソースを6.0chサラウンドにするマトリックスデコード技術です。Cinemaモード/Musicモードがあります。

DTS 96/24

DTS社が開発した最新サラウンドフォーマットで、スタジオのマスター音源のクオリティ(96kHz/24Bit)を踏襲する高音質な圧縮技術です。DVD-VIDEOフォーマットにおいて高画質な映像と高音質サウンドを同時に楽しめることを目的として開発されました。既存のDTS対応DVDプレーヤーと、DTS96/24に対応するデコーダー(AVアンプ等)をデジタル接続することで、DTS96/24のハイクオリティー音声が再生可能です。(専用プレーヤーは必要ありません)
従来のDTSデコーダーでも、従来通りの音質での再生が可能で、完全互換性を持っています。(本機は、DTS96/24対応デコーダーを搭載しております)

「DTS」、「DTS-ES Extended Surround」及び「Neo:6」はDigital Theater Systems社の商標です。

THX



THXはルーカスフィルム社が定めた規定で、映画鑑賞を最高の品質で実現するためのものです。映画の音声トラックは映画館に設置されているものと同じ装置を使用した大きなスタジオで録音されます。このようなトラックを映画館で再生すると臨場感のあるすばらしい音場を再現することができます。しかし、映画館と比較すると家庭の部屋は非常に小さく、残響が多く、使用しているスピーカーもまったく違うものでそのスピーカーの本数も6本程度、それにリスニングポジションも映画館で鑑賞する場合と比べるとずっとスピーカーに近い、というのが実情です。
こういった違いがあるために、よい映画を見たときに私たちを興奮させてくれる力強さや感動を家庭で再現することは不可能であるとされてきました。しかし、パイオニアの技術とTHXの技術が重なることにより、この難問を解決し、ついに現実のものとなりました。

Re-Equalization™：
映画館の空間は非常に大きく音響特性はデットです。またスピーカーからの距離も長くしかも特殊なスピーカーです。このようなデットな空間でマスタリングされたサウンドトラックをリビングルームで聴くと、ライブになり過ぎてしまいます。THX Re-Equalization機能はこの違いを正確に調整してくれます。

Adaptive Decorrelation™：
通常ホームシアターでは、サラウンドチャンネルの音声は２つのスピーカーで再生されますが、実際の映画館では、サラウンドチャンネルの再生にはたくさんのスピーカーを使用しています。このため、サラウンドチャンネルの音声トラックがモノラルサウンドの場合、映画館では全方向から音声が聞こえてくるのに対して家庭では一方向からしか聞こえてこないことがあります。Adaptive Decorrelationはこの不具合を修正し、２つのスピーカーでも同様の効果を得られるようにしたものです。

Timbre Matching™：
映画の音声トラックを録音する際、サラウンドチャンネルの音声が映画館の中をスムーズに途切れることなく移動して聞こえるように録音することは非常に重要なことです。スピーカーからスピーカーへ音声がジャンプしてしまうと非常にがっかりするものです。Timbre Matchingはサラウンドスピーカーを２本しか使用していなくてもサラウンド音声がスムーズに移動して聞こえるようにします。

Bass Peak Level Manager™：
Dolby Digitalのソフトにはホームシアターの環境のもとでは非常に大きなレベルの低音が記録されている場合があります。Bass Peak Level Managerを使用するとご家庭のシステムに適したピークレベルを設定することができます。(この機能については86ページを参照してください。)

Loudspeaker Position Time Synchronization™：
それぞれのスピーカーからリスニングポジションまでの距離の差を調整する機能です。この調整を行うとすべてのスピーカーが正確に同期するため、切れ目のない自然な音場を再現することができます。（この機能については40、81ページを参照してください。）

プリセットコードメーカー一覧

本機のリモコンは下記の表にあるメーカーの製品に対応しています。プリセットコードメーカー一覧にあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出してもメーカーや製品によっては、操作できなかったり、違うはたらきをすることがあります。

DVD

メーカー
PIONEER
DENON
JVC
PHILIPS
PANASONIC
RCA
SAMSUNG
SONY
TOSHIBA
YAMAHA

LD

メーカー
PIONEER
DENON
KENWOOD
PANASONIC
PHILIPS
SONY
YAMAHA

CD-R

メーカー
PIONEER
DENON
JVC
KENWOOD
PHILIPS
SONY

DVR

メーカー
PIONEER

MD

メーカー
PIONEER
DENON
JVC
KENWOOD
SONY
YAMAHA

CD

メーカー
PIONEER
DENON
FISHER
JVC
KENWOOD
MAGNAVOX
MARANTZ
ONKYO
PANASONIC
PHILIPS
RCA
SANYO
SHARP
SONY
TEAC
TECHNICS
YAMAHA

STB (CATV、BS デジタルチューナー、BS デジタルチューナー内蔵テレビ)

メーカー
PIONEER
BLAUPUNKT
GENERAL INSTRUMENT
GOLDSTAR
GRUNDIG
HAMLIN
HNS/HUGHES
HITACHI
ITT/NOKIA
JERROLD
NEC
OAK
PANASONIC
PHILIPS
RADIO SHACK
RCA
SAMSUNG
SCIENTIFIC ATLANTA
SIEMENS
SONY
TOSHIBA
TOCOM
ZENITH

TAPE

メーカー
PIONEER
DENON
FISHER
JVC
KENWOOD
NAKAMICHI
ONKYO
PHILIPS
SONY
TEAC
TECHNICS
YAMAHA

TUNER

メーカー
PIONEER

VCR (VTR)

メーカー
PIONEER
ADMIRAL
AIWA
AKAI
ALBA
AUDIO DYNAMIC
BELL&HOWELL
BLAUPUNKT
BROCSONIC
BUSH
CANON
CGM
CITIZEN
CLATRONIC
CRAIG
CURTIS MATHIS
DAEWOO
DBX
DIMENSIA
EMERSON
FERGUSON
FISHER
FUNAI
GE
GOLDSTAR
GOODMANS
GRUNDIG
HITACHI
INSTANT REPLAY
ITT/NOKIA
JC PENNY
JVC
KENDO
KENWOOD
LOEWE
LUXOR
LXI
MAGNAVOX
MARANTZ
MARTA
MATSUI
MEMOREX
MINOLTA
MITSUBISHI
MULTITECH
NEC
NOKIA OCEANIC
NOKIA
NORDMENDE
OKANO
OLYMPIC
ORION
PANASONIC
PENTAX
PHILCO
PHILIPS
PHONOLA
QUASAR
RCA/PROSCAN
REALISTIC
SABA
SAMSUNG
SANSUI
SANYO
SCHNEIDER
SCOTT
SEG
SELECO
SHARP
SIEMENS
SIGNATURE
SONY
SYLVANIA
SYMPHONIC
TANDBERG
TASHIRO
TATUNG
TEAC
TECHNICS
TELEFUNKEN
THORN
TOSHIBA
UNIVERSUM
W.WHOUSE
WARDS
YAMAHA
ZENITH

TV

メーカー
PIONEER
ADMIRAL
AIWA
AKAI
ALBA
AOC
BESTAR
BLAUPUNKT
BLUE SKY
BRANDT
BROCSONIC
BUSH
CLATRONIC
CRAIG
CROSLEX
CURTIS MATHIS
DAEWOO
DAYTRON
DUAL
EMERSON
FERGUSON
FIRST
FISHER
FUJITSU
FUNAI
GE
GOLDSTAR
GOODMANS
GRANDIENTE
GRUNDIG
HITACHI
ICE
IRRADIO
ITT/NOKIA
JC PENNY
JVC
KENDO
KTV
LOEWE
LXI
MAGNAVOX
MARK
MATSUI
MATSUSHITA
MEDION
MITSUBISHI
MIVAR
NEC
NOKIA OCEANIC
NORDMENDE
OKANO
ONWA
PANASONIC
PHILCO
PHILIPS
PHONOLA
PORTLAND
PROSCAN
QUASAR
RADIO
RADIO SHACK
RADIOLA
RCA/PROSCAN
SABA
SAMSUNG
SANYO
SCHNEIDER
SCOTT
SHARP
SIEMENS
SIGNATURE
SONY
SYLVANIA
SYMPHONIC
TATUNG
TELEFUNKEN
THOMSON
THORN
TOSHIBA
UNIVERSUM
VIDECH
W.WHOUSE
WARDS
WATSON
ZENITH

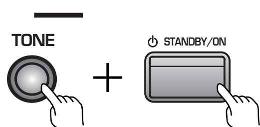
工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
サラウンドバックシステムの設定	Normal System（一般的サラウンド）	P.34
スピーカーの有り無し/低域再生能力	全てＳＭＡＬＬ（小）	P.37
サブウーファー	ＹＥＳ（有り）	P.37
スピーカー出力レベル	０ｄＢ（補正無し）	P.39 P.80
スピーカーまでの距離	全て２ｍ	P.40 P.81
クロスオーバー周波数	80Hz	P.79
視聴環境の周波数特性の補正	全帯域0dB（補正無し）	P.10 P.82
超低域音声のピークレベル設定	CANCEL（ピークレベル設定無し）	P.86
ダイナミックレンジコントロールの設定	OFF	P.87
THX CINEMA 設定	DD PRO LOGIC II MOVIE	P.73
デジタル入力の設定	リアパネル表記通り	P.74
コンポーネントビデオ入力の設定	リアルパネル表記通り	P.75
PHONO/LINE端子の切り換え設定	PHONO	P.77
入力ファンクション	DVD/LD	P.9
入力信号の種類	AUTO（入力ファンクションによっては DIGITAL/ANALOG固定）	P.42
SB CH MODE	AUTO	P.44
リスニングモード	DD PRO LOGIC II MOVIE （VIDEO系入力ファンクション） DD PRO LOGIC II MUSIC （AUDIO系入力ファンクション）	P.45
音量（ボリュームレベル）	−−−(最小)	P.9
アコースティックキャリブレーションEQ	OFF (自動設定を行うと自動的に ALL CH ADJUSTモードでONされます）	P.50
デジタルノイズリダクション機能	OFF	P.51
ミッドナイトリスニング機能	OFF	P.51
ラウドネス機能	OFF	P.52
トーンコントロール機能	BYPASS	P.52
ハイビット/ハイサンプリング機能	OFF	P.53
スピーカーシステムA/B	A（Normal Systemのとき）	P.89
マルチチャンネル入力モード	OFF	P.53
デュアルモノの設定	ｃｈ１	P.54
ビデオセレクト	VIDEO系入力ファンクション：入力ファンクションと同じ AUDIO系入力ファンクション：OFF	P.55
ディスプレイの明るさ	一番明るい	P.55

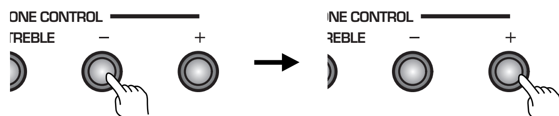
設定オールリセット

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。
設定オールリセットを行うと、前ページのすべての設定が工場出荷時の状態になりますので**十分ご注意ください。**

① 本機がSTANDBYモードのときにTONEボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを3秒以上押し続ける



② FLに「RESET？」と表示されたらTONE −ボタンを押し、「OK?」表示後にTONE+ボタンを押します



メモ
• 1ヶ月程度電源コンセントから電源コードを抜いた状態または主電源をOFFにしておくと本機で設定した各種設定がリセットされますのでご注意ください。

仕様

オーディオ部

実用最大出力(JEITA、1kHz、10%、8Ω)
- フロント .... 130 W＋130 W
- センター .... 130 W
- サラウンド .... 130 W＋130 W
- サラウンドバック .... 130 W＋130 W

定格出力(ステレオ動作時)
- 20 Hz～20 kHz、0.09%、8Ω　100 W＋100W

定格出力(サラウンド動作時)
- 20 Hz～20 kHz、0.09%、8Ω
- フロント .... 100 W＋100W
- センター 100W
- サラウンド .... 100 W＋100W
- サラウンドバック .... 100 W＋100W

入力端子(感度/インピーダンス)
- PHONO MM .... 4.7 mV/47 kΩ
- LINE系 .... 335 mV/47 kΩ

周波数特性
- PHONO(RIAA偏差) .... 20 Hz～20 kHz（± 0.3dB）
- LINE系 .... 5 Hz～100 kHz、$^{+0}_{-3}$ dB

出力端子(レベル/インピーダンス)
- REC OUT系 .... 335 mV/2.2 kΩ

トーンコントロール
- BASS .... ± 6dB（100 Hz）
- TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
- LOUDNESS(ボリュームポジション−40dB時) .... +4dB/+2dB（100 Hz/10 kHz）

SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
- LINE系 .... 103 dB

SN比(EIA、1W（1kHz))
- LINE系 .... 83 dB

ビデオ部(コンポジット、S)

入力端子(感度/インピーダンス) .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子(レベル/インピーダンス) .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 65 dB

コンポーネントビデオ部

入力端子(感度/インピーダンス) .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子(レベル/インピーダンス) .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 .... 5 Hz～40 MHz（$^{+0}_{-3}$dB）
SN比 .... 65 dB

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60Hz
消費電力(電気用品安全法) .... 440 W
待機時消費電力 .... 0.6 W
予備電源コンセント
- 連動 .... 1（100 W 最大）

外形寸法
- ..... 420(幅) × 188(高さ) × 464(奥行) mm

質量 .... 19.6 kg

付属品

リモコン 1
電源コード 1
単3形アルカリ乾電池(LR6) 4
オートセットアップ用マイク 1
オートセットアップ用マイクスタンド 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
スピーカーコーションシート 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

故障？ちょっと調べてください

故障かな ？ と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください(➡ P.108)。

音が出ない、音がおかしい、ノイズが出る

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、音が出ない。	入力端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	P.22
	デジタル入力の設定が正しくない。	設定を修正する。	P.74
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	SIGNAL SELECTボタンで正しい入力信号を選択する。	P.42
	ミュート状態になっている。	リモコンでミュートを解除する。	P.17
	スピーカー出力がOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、ON（SP►A）にする。	P.89
	MULTI CH INモードになっている。	MULTI CH INをOFFにして、通常のリスニングモードにする。	P.53
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。	P.42
フロントスピーカー以外の音が出ない。	スピーカーシステムの設定がフロントch以外全てNOになっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	P.10
	リスニングモードがSTEREOになっている。	サラウンド再生用のリスニングモードを選択する。	P.45
サブウーファーから音が出ない（または音が小さい）。	サブウーファーの設定がNOになっている。	サブウーファーの設定をYESまたはPLUSに設定する。	P.10
	サブウーファーの出力レベル設定が小さい。	適切なレベルに調整し直す。	P.10
	バスピークレベルの設定値が非常に小さい。	適切に調整し直す。	P.86
	CDなどの低域専用トラックが無いまたは低域成分の少ないソフトを再生している。	スピーカーシステムの設定を下記のいずれかにする。 ・フロント：SMALL、サブウーファー:YES ・フロント：LARGE、サブウーファー:PLUS	P.37
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	使用しているサブウーファーの低域再生能力に応じて設定周波数を上げる。	P.79
	サブウーファー本体に原因がある。	サブウーファー本体で以下のことを確認する。（詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください） ・電源のON/OFF ・ボリューム設定 ・自動スタンバイ機能	
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーの接続を確認する。	P.8
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックチャンネルの設定がOFFになっている。	ONを選択する。	P.44
	サラウンドバックチャンネルの設定がAUTOで「6.1再生検出信号」の収録されていないソースを使用している。	ONを選択する。	P.44
	サラウンドバックシステムの設定が[Front Bi-Amp]または[Second Zone]になっている。	[Normal System]を選択する。	P.34
	スピーカーシステムの設定でサラウンドバックchの設定がNOになっている。	サラウンドバックchの設定を修正する。	P.10
	接続が正しくない。（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続していてRch側に接続している）	接続を再確認する。（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続しているときはLch側に接続する）	P.28

その他

症　状	原　因	対　応	参照
デジタル機器の音が出ない。	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	P.27
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	P.74
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。	P.42
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。	プレーヤーのデジタル出力設定を適切に修正する。	
	DTS信号が正しく読み取れない。	DTS CDの場合は0 dBに設定してください。	
	再生ソフトのデジタルフォーマットに対応していないプレーヤーである（または対応しない設定になっている）。	対応フォーマットの音声トラックを選択する（または対応させる設定にする）。	
DTS CDのサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えてください。	
DTSのLDを再生するとノイズがでる。	SIGNAL SELECTでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。	P.42
SIGNAL SELECTはDDRFだが、LDを再生しても音が出ない。	再生ディスクがドルビーデジタル対応でない。（全てのLDがドルビーデジタル対応とは限りません）	SIGNAL SELECTボタンでAUTOを選択する。	P.42
録音ができない。	アナログ信号をデジタルで、デジタル信号をアナログで録音しようとしている。	アナログ信号はアナログ録音、デジタル信号はデジタル録音のみ可能です。	P.56
	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号である。	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号は録音することができません。この場合はアナログ接続を行いアナログ録音してください。	P.26
	REC端子の接続が正しくない。	正しく接続し直す。	P.26 P.27
無入力でもノイズが聞こえる。	電源そのものにノイズが残っている。	パソコンなどのデジタル機器とたこ足配線になっていないか確認する。	
マルチチャンネルのDVDオーディオを再生したがフロントからしか音が出ない。	MULTI CH IN端子で接続したものではない信号を再生している（デジタルPCM出力など）	MULTI CH IN端子の接続を再確認し、MULTI CH INボタンにて再生モードを選択する。	P.23 P.53
特定のスピーカーから音が出ない。	スピーカーシステムの設定がNOになっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	P.37
	スピーカーの接続が外れている。	スピーカーの接続を確認する。	P.28
	ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されている。	リスニングモードによっては効果音のみ出力される場合があります。	
	スピーカーの出力レベル設定が小さい	スピーカーの出力レベル設定を上げる。	P.39
	サラウンドバクシステムの設定で[Second Zone]が選択されているときのスピーカーシステムの選択が合っていない。	スピーカーシステムで「A+B」または「B」にする。	P.89

電源が入らない、動作しない、操作できない

症　状	原　因	対　応	参照
大音量で再生したときに電源が切れる。	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、+−が接触し、保護回路が働いている。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、アンプまたはスピーカー側のスピーカー端子からはみ出ないように接続する。	P.28
	スピーカーの実動作上の最低インピーダンスが非常に低いため、保護回路が働いた。	ボリュームを下げて再生する。 視聴環境の周波数特性の補正で低域(63または125Hz)のレベルを下げる。	P.82
操作ボタンを押しても動作しない。	空気が乾燥しているとき、静電気などの影響を受けている。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。	
リモコン操作ができない。	主電源ボタンがOFF■になっている。	主電源ボタンをON▁にする。	P.9
	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する。	P.3
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30°以内で操作する。	P.14
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。	P.14
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	P.14
他機器をリモコンで操作できない	プリセットコードの設定が間違っている。	正しいプリセットコードを設定する。	P.57
	電池切れの期間にメモリーが消去された。	もう一度設定を行う。	P.57～P.69
SR接続をしているのに相手機器がリモコンで動作しない。	接続でコントロール端子のIN/OUTを間違えている。	正しく接続し直す。	P.94
	コントロールコード以外の接続をしていない。	アナログのオーディオコードなどを接続する。	P.94
	他社製品の同用途端子と接続している。	他社製品の動作はサポートしていません。	
SIGNAL SELECT ボタンを押しても入力がDIGITALにならない。	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	機器の接続を再確認し、「デジタル入力の設定」を正しく修正する。	P.27 P.74
	MULTI CH INモードになっている。	MULTI CH INをOFFにする。	P.53
DVDオーディオを再生するとプレーヤーには96kHzと表示されるが、本機では表示されない	MULTI CH IN端子はアナログ入力端子なので、デジタル情報を表示することはできません。	故障ではありません。プレーヤーの取扱説明書もご覧ください。	
96kHzのソフト（DTS 96/24を含む）を再生しても表示が96kHzにならない。	プレーヤー側で96kHz出力がOFFになっている。	プレーヤーの96kHz出力をONにする。	
AMP ERRまたはSTANDBYインジケーターが点滅して自動的に電源が切れる。	低周波の過大な入力が持続した。 本機のアンプ回路が故障です。	速やかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状の後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。	P.108
FAN STOPと点滅し自動的に電源が切れる。	後面の放熱孔から異物がひっかかり、ファンを止めてしまった。	異物を取り除く。	
	放熱用ファンが故障した。	修理を依頼してください。	P.108
OVERHEATと点滅表示したまま音が出なくなる。	本機内部の温度が許容値を超えた。	通風が良くなるように設置を変える。 一度電源を切り、冷えてから使用する。	P.3
THDCT NGと点滅し自動的に電源が切れる。	温度検出用部品（サーミスタ）の故障です。	修理を依頼してください。	P.108

インジケーターや表示がおかしい

症　状	原　因	対　応	参照
圧縮デジタル*のソフトを再生しても、対応するインジケーターが点灯しない。	デジタル接続が正しくない。 デジタル入力の設定が正しくない。 SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。 プレーヤーが停止か一時停止になっている。 プレーヤーの音声出力設定が間違っている。 再生しているトラックがPCMなどになっている。	接続を再確認する。 デジタル入力の設定を正しく行う。 SIGNAL SELECTボタンで正しい入力を選択する。 再生を開始する。 プレーヤーの音声出力設定を各フォーマットに対応するよう修正する。 プレーヤーの音声切り換え機能で圧縮デジタル*の音声を選択する。	P.27 P.74 P.42
圧縮デジタル*のソフトを再生してもすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない。	収録フォーマットが5.1ch（または「6.1再生検出信号」対応）ではない。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	P.18
圧縮デジタル*のソフトを再生しても、DD DIGITALまたはDTSなどの表示にならない。	デジタル信号が入力されていない。 ソフトの音声が2chフォーマットである。 ドルビーサラウンドエンコードされたソフトである。	SIGNAL SELECTボタンでAUTOまたはDIGITALを選ぶ。 故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。 故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	P.42
Surround EX（またはDTS ES）ソフト再生時に、サラウンドバックチャンネルの設定をAUTOにしてもEX（またはES）デコードしない。	「6.1再生検出信号」が記録されていない。（劇場公開時とDVD収録時はまれに違う場合があります）	サラウンドバックチャンネルの設定をONにする。	P.44
Surround EX（またはDTS ES）ソフトを再生中、SL、S、SRのインジケーターは点灯するが、EX（またはES）デコードしない。	リスニングモードが正しくない。	サラウンドバックチャンネルの設定をONに変更し、リスニングモードをサラウンドにして再生する。	P.44 P.45

圧縮デジタル＊：ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの総称として使用します。

映像が出ない、画面が出ない

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、映像が出ない。	TVモニター側の入力切り換え設定が正しくない。 ソース機器とTVモニターを接続するコードの種類（整合性）が正しくない。	TVモニターの取扱説明書をお読みになり、正しい入力に切り換えてください。 正しい接続法に変更する。	 P.19
コンポーネント端子（またはD端子）に繋いだソース機器の映像が出ない。	モニターTVとの接続がコンポジット（またはS2）である。 コンポーネント入力設定が正しくない。	モニターTVとの接続にコンポーネントケーブル（またはD端子ケーブル）を使う。 コンポーネント入力設定を正しく行う。	P.19 P.20 P.75
録画ができない。	コンポーネント（またはD）端子に接続したソース機器の映像を録画しようとしている。 コピープロテクト信号の入った映像信号である。 OUT端子の接続が正しくない。	ソース機器をコンポジット、またはS2端子でも接続する。 コピープロテクト信号の入った映像信号は録画することができません。 接続を再確認する。	P.25 P.25
セットアップ画面が表示されない。	本機のMONITOR OUT1端子に接続していない。 本機のMONITOR OUT2端子に接続している。	TVモニターと本機のMONITOR OUT1端子を接続する。 本機のMONITOR OUT2端子はOSDを表示しないのでMONITOR OUT1端子と接続する。	P.22 P.22

サラウンド再生がうまくいかないとき

症　状	原　因	対　応	参照
5.1chソースを再生しているのに、5.1ch再生されない。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。	
	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定をONにする。	
サブウーファーから音が出ない。	再生しているソースのシーンや音楽に超低域成分（LFEチャンネル）が含まれていない。	すべてのシーンや音楽に超低域成分（LFEチャンネル）が含まれているとは限りません。	

オートサラウンドセットアップ(音場補正)がうまくいかない

症　状	原　因	対　応	参照
音場補正のオート設定を何度行ってもエラーになる。	マイクとスピーカーとの間に障害物がある。	障害物を移動させる。	
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い。	サブウーファー内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で再生音にディレイがかかっている。	MCACCでは、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して正確なディレイ時間を設定するようにしています。	
スピーカーの大、小設定が誤った設定になる。	耳に聞こえにくい周波数の騒音がある。	エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみる。	
音場補正したが、音がおかしい。	スピーカー端子の位相が反転している。（+/−が逆）	正しく接続する。	P.28

自動設定時におけるOSD画面のメッセージの意味

「ConnectMicrophone」
：SETUP MIC用ジャックに付属のマイク内蔵リモコンを接続してください。

「Too much ambient noise」
：周辺の騒音が大きすぎ、測定に誤差が生じる可能性があります。
- エアコンなどモーターを使用した機器や超音波ねずみ駆除装置などの電源を一時的にOFFにするか遠ざけるなどの処置を行ってみてください。
- 周囲が比較的静かな時間帯にもう一度やり直してください。

「Check Microphone」
：マイクからテスト信号が検出できなくなりました。
- オートセットアップ用マイクの接続や接続コードの断線をチェックしてください。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- 測定中はできるだけボーリュームを変化させないでください。

「Don' t change volume」
：測定精度が落ちる可能性があるため、できるだけボリュームを変化させないでください。

「ERR」
：Speaker Level測定後のYes/No Check判定で、以下のような間違った接続を検出しました。
- フロント、サラウンドに表示された：スピーカーがL/Rの片方しか検出されませんでした。
- サラウンド「NO」、サラウンドバック「ERR」の場合：サラウンドの接続は検出されずサラウンドバックの接続が検出されました。
- サラウンドバック(1本接続時)の場合：R ch側から検出しました(1体のみ接続するときは、Lch側を使用してください)。

「Attention Subwoofer output level is too low　Turn volume up on subwoofer」
：[YES]と設定したサブウーファーの出力信号が検出できません。サブウーファー本体の電源を確認しボリュームを適正値に上げてください。
- 上記を確認したうえ、[Retry]または[Go Next]を選び、決定してください。

目的別索引

本機でやりたいことに合わせて必要なページを見つけてください。

目的		対応する項目	参照
再生	ステレオ再生（フロント2ch出力）をしたい	基本再生 リスニングモードの種類と効果 リスニングモードの選択	P.41 P.45 P.43
	サラウンド再生（3ch以上で出力）をしたい	基本再生 リスニングモードの種類と効果 リスニングモードの選択	P.41 P.45 P.43
	DVDオーディオまたはSACD（マルチチャンネル入力端子の接続機器）を再生したい。	DVDオーディオ（マルチチャンネル入力）の再生	P.53
	パソコンの音楽を再生したい。	USBオーディオ再生	P.90
	ジャンルに合わせてリスニングモードを選びたい。	リスニングモードの種類と効果	P.45
	小音量でもセリフなどを聴きとりやすくしたい	ミッドナイトリスニング機能	P.51
	高音域や低音域の音を変えたい	トーンコントロール機能	P.52
	再生ソースのノイズを低減したい	デジタルノイズリダクション機能	P.51
	超低音成分により生じた歪みを低減したい	超低域音声のピークレベル設定	P.86
	リスニングルーム以外の場所でもステレオ再生を楽しみたい	スピーカーシステムA/Bの使いこなし	P.88
	フロントchをBi-Amp接続して高音質で再生したい	スピーカーシステムA/Bの使いこなし サラウンドバックシステムの設定	P.88 P.34
	一時的に音を消したい	ミューティング	P.17
設定	自動で設定を行いたい	オートセットアップ	P.10
	サラウンドに関する設定の内容を知りたい	サラウンドの設定について	P.32
	どんな設定項目があるのか知りたい	システムセットアップの設定項目一覧	P.72
	表示部の明るさを調整したい	ディスプレイの明るさを調整する	P.55
	本体に表示される入力ファンクション名を変えたい。	入力ファンクション表示の設定	P.76
リモコン	他機器を付属のリモコンで操作したい	Preset Recallセットアップモード（プリセットコード呼び出し） Learningセットアップモード（他機器のリモコンコードを本機のリモコンに登録する）	P.57 P.59
	リモコンの操作モードを切り換えたときに、同時に入力が切り換わらないようにしたい	ダイレクトファンクション	P.62
	プリセットコードの設定をクリアしたい	リモコンの設定クリア	P.70
	他機器の操作画面を使いやすく編集したい	ファンクションネーム キーラベル	P.67 P.68
その他	すべての設定をクリアして、買ったときと同じ状態にしたい	設定オールリセット（本体操作のみ）	P.100

用語別索引

あいうえお順

ABC 順

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

101〜105ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：AVマルチチャンネルアンプ
- 型番：VSA-D2011
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

■ 保証期間中は：

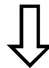
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

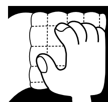
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。



お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5〜6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。



音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。

ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。

とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● **パイオニア・カスタマーサポートセンター**（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口　フリーフォン **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口　フリーフォン **0077-800-8181-33**

ファックス　**03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*

カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● **パイオニア部品受注センター**

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル）　：　**0120-5-81095**
一般電話　：　**0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）：　**0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「思った通りに動かないときは」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● **パイオニア修理受付センター**（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル）　：　**0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話　：　**03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）：　**0120-5-81029**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00 （土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話　：　**098-879-1910**
ファックス　：　**098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZW/02F00001>　Printed in　<ARA7144-C>